

2019年度 L2-Tech水準表(素案)

2019年度 L2-Tech水準表（2019年10月）

- 本水準表の作成にあたっては、カタログ等、企業が広く公表している資料及びWebページを中心に情報を収集し、当該技術に専門的知見を有する有識者からもご意見をいただきながら、科学技術的・客観的観点から情報を整理しています。
- 本水準表は、2019年10月までに収集した情報をもとに作成したものであり、今後も情報収集を継続するとともに、ご意見をいただき更新・充実させていく予定です。

項目		主な記載内容
L2-TechリストNo.		設備・機器等ごとにIDを付番。
区分		以下のように、エネルギー源を示した「部門」軸と、エネルギー技術を原理・しくみの違いで整理した「技術」軸に区分。 部門1: 当該設備・機器等の導入可能性の高い部門 部門2: 当該設備・機器等の利用可能性の高い用途、業種、プロセス、輸送手段、エネルギー種別 技術分類: 設備・機器等のカテゴリ(基本的な原理・しくみの種別) ※参照: 環境省「日本の約束草案要綱(案)」、国立環境研究所「日本国温室効果ガスインベントリ報告書」、エネルギー戦略協議会「エネルギー技術体系」、日本エネルギー経済研究所「エネルギー・経済統計要覧」
設備・機器等		設備・機器等(システム、設備・機器、部材等)の名称を記載。2050年までに80%の温室効果ガス削減という目標に向けて、環境省がCO2削減に重要と考える設備・機器等(カテゴリ)を、「CO2削減効果」及び「導入可能性」の観点で選定。
原理・しくみ		設備・機器等の原理・しくみ、またはCO2削減に資する原理・しくみの説明を記載。
クラス		認証の単位となるクラスを記載。購買の選択条件に応じて、条件(仕様、付加機能等)及び能力(加熱能力、発電出力等)で分類。
L2-Tech水準表情報No.		クラスごとにIDを付番。
L2-Tech水準		L2-Tech水準を記載。本水準は、指定された試験条件に基づき測定された結果を、指定の計算方法によって算出した値である。本水準は、2019年10月時点における値であり、かつ収集できた情報のうち最高性能の値を採用している。
指標	測定単位	L2-Tech水準の単位、及びその名称を記載。
	評価方法のタイプ	以下のいずれかから、効率性能の評価方法のタイプを記載。 標準規格による評価: JIS等の国際・日本標準の規格、または省エネ法等の法律に準拠した試験条件及び計算方法によって評価する方法 標準条件による評価: 規格化されていないが一部で標準条件として用いられている、または標準として業界と合意した試験条件及び計算方法によって評価する方法 シミュレーションによる評価: 標準条件に基づき、実試験ではなくコンピュータ上で模擬試験を行うことによって評価する方法 具備機能による評価: 一定レベル以上の機能を具備しているものを評価する方法
	計算方法	性能の計算方法について、準拠すべき規格または具体的な方法を記載。
	試験条件	性能を評価するための試験条件について、準拠すべき規格または具体的な条件を記載。

記号の使用方法

本リスト中の「-」、「・」及び「/」は、下記を示す。

「-」: 対象項目に該当する情報が存在しない、非対象、調査中、または不明。

「・」: AND条件。 例) 空調機(ヒートポンプ・個別方式) → (ヒートポンプかつ個別方式の)空調機

「/」: OR条件。 例) 空調/産業用プロセス → 空調または産業用プロセス

区分	L2-Tech リストNo.	設備・機器等	(掲載数)
A産業・業務 (業種共通)	空調機(ヒートポンプ・個別方式)	L-000933 ガスヒートポンプ L-000934 パッケージエアコン(店舗・オフィス用) L-000935 パッケージエアコン(設備用) L-000936 パッケージエアコン(ビル用マルチ) L-000937 氷蓄熱式パッケージエアコン	(5)
	熱源・空調機(ヒートポンプ・中央方式)	L-000940 フロン類等冷凍ターボ冷凍機 L-000941 自然冷媒ターボ冷凍機 L-000942 水冷ヒートポンプチラー L-000943 空冷ヒートポンプチラー	(4)
	熱源・空調機(ヒートポンプ・中央方式)・熱源補機	L-000945 氷蓄熱ユニット	(1)
	熱源・空調機(気化式・中央方式)	L-000947 間接気化式冷却器	(1)
	熱源・空調機(吸収式・中央方式)	L-000948 吸収冷凍水機(二重効用) L-000949 吸収冷凍水機(三重効用) L-000950 一重二重併用形吸収冷凍水機 L-000951 木質ペレット直焚き吸収冷凍水機(二重効用)	(4)
	熱源・空調機(地中熱利用・中央方式)	L-000955 パッシブ地中熱利用システム	(1)
	熱源・空調機(吸着式・中央方式)	L-000956 吸着式冷凍機	(1)
	熱源(ヒートポンプ)	L-000957 高温水ヒートポンプ(空気熱源・循環式) L-000958 高温水ヒートポンプ(空気熱源・一過式) L-000959 高温水ヒートポンプ(水熱源・循環式) L-000960 高温水ヒートポンプ(水熱源・一過式) L-000961 高温水ヒートポンプ(水空気熱源・循環式) L-000962 高温水ヒートポンプ(水空気熱源・一過式) L-000963 熱風ヒートポンプ(空気熱源・一過式) L-000964 熱風ヒートポンプ(水熱源・一過/循環式) L-000965 蒸気発生ヒートポンプ(水熱源・一過式) L-000966 蒸気再圧縮装置	(10)
	空調機(ペレットストーブ)	L-000968 密閉型ペレットストーブ	(1)
	空調フィルタ	L-000969 空調用ハイブリッドフィルタ	(1)
	給湯器(ヒートポンプ)	L-000970 ヒートポンプ給湯機(空気熱源)	(1)
	給湯器(ガス式)	L-000972 潜熱回収型給湯器	(1)
	ボイラ	L-000973 温水機 L-000974 蒸気ボイラ(貫流ボイラ) L-000975 蒸気ボイラ(伊崎煙管ボイラ) L-000976 蒸気ボイラ(水管ボイラ) L-000977 水素ボイラ(貫流ボイラ) L-000978 熱媒ボイラ	(6)
	コージェネレーション	L-000979 ガスエンジンコージェネレーション L-000980 ガスタービンコージェネレーション L-000981 燃料電池コージェネレーション	(3)
	冷凍冷蔵機器	L-000984 業務用冷凍冷蔵庫 L-000985 空気冷凍方式冷凍機 L-000986 冷凍冷蔵庫用自然冷媒冷凍機(アンモニア/CO2二次冷凍システム) L-000987 自然冷媒冷凍冷蔵コンデンシングユニット	(4)
	照明器具	L-000988 LED照明器具	(1)
	プリンタ/複写機	L-000989 プリンタ	(2)
	モータ	L-000990 複合機 L-000991 誘導モータ	(2)
	変圧器	L-000992 永久磁石同期モータ L-000993 油入変圧器 L-000994 モールド変圧器	(2)
	モータ利用機器(圧縮機)	L-001003 蒸気駆動圧縮機 L-001004 熱回収式ねじ容積形圧縮機	(2)
	窓	L-001017 Low-E複層ガラス L-001018 三層Low-E複層ガラス L-001019 真空Low-E複層ガラス L-001020 アタッチメント付きLow-E複層ガラス L-001021 真空ガラス L-001022 現場施工型後付けLow-E複層ガラス L-001023 薄型Low-E複層ガラス	(7)
	断熱材	L-001024 断熱材(押出法ポリスチレンフォーム) L-001025 断熱材(グラスウール) L-001026 真空断熱材	(3)
	洗濯機	L-001028 業務用ヒートポンプ式衣類洗濯乾燥機	(1)
	エネルギーマネジメントシステム	L-001032 BEMS(制御サービス・空調・熱源・中央方式)	(1)
	乾燥設備	L-001027 蒸気リサイクル型濃縮乾燥装置	(1)
	その他	L-001038 サーパー電子計算機	(1)
	オフロード特殊自動車(建設機械・内燃機関型)	L-001054 油圧ショベル(内燃機関型) L-001055 ブルドーザ(内燃機関型) L-001056 ホイールローダ(内燃機関型)	(3)

区分	L2-Tech リストNo.	設備・機器等	(掲載数)
B産業 (業種固有)	オフロード特殊自動車(建設機械・ハイブリッド型)	L-001058 油圧ショベル(ハイブリッド型)	(1)
	オフロード特殊自動車(建設機械・電気型)	L-001061 油圧ショベル(電動型) L-001062 ブルドーザ(電動型)	(2)
	洗浄乾燥機	L-001088 遠心脱水機コンテナ(容器)洗浄乾燥機	(1)
	蒸留塔	L-001089 内部熱交換最適化蒸留システム	(1)
	業務用冷凍機器	L-001234 低温用自然冷媒冷凍機(アンモニア/CO2二次冷凍システム)	(1)
	乾燥機	L-001090 熱回収式工業用繊維物乾燥機	(1)
	熱処理機	L-001091 熱回収式工業用繊維物熱処理機	(1)
	その他	L-001218 MVR型(自己蒸気機械圧縮型)蒸発濃縮装置	(1)
	自動車(内燃機関型)	L-001092 ガソリン・ディーゼル車(乗用車) L-001093 ディーゼル・天然ガス車(商用車・重量車)	(2)
	自動車(ハイブリッド型)	L-001095 ハイブリッド自動車(乗用車) L-001096 ハイブリッド自動車(商用車・重量車)	(2)
C運輸	自動車(電気型)	L-001098 電気自動車(乗用車)	(1)
	空調機(ヒートポンプ)	L-001137 ルームエアコン L-001138 ヒートポンプ冷水システム L-001139 ヒートポンプ式温水床暖房 L-001140 ルームエアコン付温水床暖房 L-001141 マルチタイプ温水床暖房 L-001142 地中熱ルウムエアコン	(5)
	空調機(ヒートポンプ・地中熱利用)	L-001143 地中熱ヒートポンプ冷水システム(ハイブリッド式)	(2)
	空調機(ペレットストーブ)	L-001144 密閉型ペレットストーブ(家庭用)	(1)
	給湯器(ヒートポンプ)	L-001106 家庭用エコキュート L-001107 多機能ヒートポンプ給湯機	(2)
	給湯器(ヒートポンプ・太陽熱利用)	L-001145 太陽熱集熱器対応型エコキュート	(1)
	給湯器(ガス式)	L-001108 ガス温水機器(エコジョーズ)	(1)
	給湯器(ヒートポンプ・ガス式)	L-001146 ハイブリッド給湯機(家庭用)	(1)
	給湯器(石油式)	L-001147 石油温水機器(エコフィール)	(1)
	給湯器(太陽熱利用)	L-001149 真空管集熱器(強制循環型太陽熱給湯器用)(家庭用) L-001150 平板集熱器(強制循環型太陽熱給湯器用)(家庭用)	(3)
D家庭	コージェネレーション	L-001151 蓄熱槽(強制循環型太陽熱給湯器用)(家庭用) L-001109 家庭用燃料電池(エネファーム・PEFC) L-001110 家庭用燃料電池(エネファーム・SOFC)	(2)
	冷凍冷蔵機器	L-001111 電気冷蔵庫	(1)
	照明器具	L-001112 LED照明器具(家庭用)	(1)
	テレビ	L-001152 液晶テレビ	(1)
	洗濯機	L-001131 洗濯乾燥機	(1)
	電気便座	L-001153 電気便座	(1)
	窓	L-001113 Low-E複層ガラス(家庭用) L-001114 三層Low-E複層ガラス(家庭用) L-001115 真空Low-E複層ガラス(家庭用) L-001116 アタッチメント付きLow-E複層ガラス(家庭用) L-001117 真空ガラス(家庭用) L-001118 現場施工型後付けLow-E複層ガラス(家庭用) L-001119 薄型Low-E複層ガラス(家庭用) L-001120 Low-E複層ガラス・樹脂サッシ L-001121 Low-E複層ガラス・アルミ樹脂複合サッシ L-001122 三層Low-E複層ガラス・樹脂サッシ L-001123 三層Low-E複層ガラス・アルミ樹脂複合サッシ L-001124 五層Low-E複層ガラス・樹脂サッシ L-001125 真空ガラス・樹脂サッシ L-001126 真空ガラス・アルミ樹脂複合サッシ	(14)
	玄関ドア	L-001127 金属製玄関ドア	(1)
	断熱材	L-001128 断熱材(家庭用・押出法ポリスチレンフォーム) L-001129 断熱材(家庭用・グラスウール) L-001130 真空断熱材(家庭用)	(3)
	エネルギーマネジメントシステム	L-001135 HEMS(情報提供サービス・家電全般)	(1)
燃料電池	L-001154 固体酸化物形燃料電池(SOFC)設備	(1)	
太陽光発電	L-001160 太陽電池(シリコン系・単結晶) L-001161 太陽電池(シリコン系・多結晶) L-001162 太陽電池(化合物系) L-001163 太陽電池(薄膜シリコン) L-001164 トランスレス方式パワーコンディショナ(太陽光発電用) L-001165 高周波変圧器絶縁方式パワーコンディショナ(太陽光発電用)	(6)	
Eエネルギー転換	水力発電	L-001172 プロペラ水車(小水力発電用) L-001173 フランシス水車(小水力発電用)	(2)
	地熱発電	L-001177 温水熱源小型バイナリー発電設備 L-001178 蒸気熱源小型バイナリー発電設備	(2)
	バイオマス発電	L-001181 ガスエンジン発電設備(メタン発酵発電用) L-001230 ディーゼル発電設備(バイオディーゼル燃料専用)	(2)
	熱輸送	L-001182 潜熱蓄熱輸送設備	(1)
	リン回収設備	L-001204 リン回収設備HAP法(し尿・浄化槽汚泥用) L-001205 リン回収設備MAP法(し尿・浄化槽汚泥用) L-001206 リン回収設備MAP法(下水汚泥用)	(3)
	選別機	L-001208 近赤外線樹脂選別機	(1)

L2-Tech リストNo	区分			設備・機器等の 名称	原理・しくみ	クラス		L2-Tech 水準表 情報No	L2-Tech 水準	指 標												
	部門1	部門2	技術分類			条 件	クラス 能力(名称)			クラス 能力(単位)	測定単位		評価方法の タイプ	準拠する規格	規格の名称	計算方法	準拠する規格	規格の名称	試験条件			
											単 位	名 称								計算式	説明	
L-000933	産業・業 務(業種 共通)	空調	空調機 (ヒート ポンプ、 個別方 式)	ガスヒートポン プ	室外機内のコンプレッサの駆動をガスエンジンで行うヒートポンプ 方式の空気調和機。	相当馬力数	7.5HP以下	S-004535	1.19	-	COPp	標準規格に よる評価	-	-	$COPp = (Ccr + Chr) / 2$ $Ccr = \Phi cr / (Gcr + Pcr / (3600 / 9760))$ 、 $Chr = \Phi hr / (Ghr + Phr / (3600 / 9760))$ Ccr: 冷房成績係数 Chr: 暖房成績係数 Φcr : 定格冷房標準能力(kW) Φhr : 定格暖房標準能力(kW) Gcr: 定格冷房標準 ガス消費量(kW) Ghr: 定格暖房標準 ガス消費量(kW) Pcr: 定格冷房標準消費電力(kW) Phr: 定 格暖房標準消費電力(kW) ※COPpは、小数点3桁 目を切捨て、小数点2桁目までを表示する。	JRA4067:20 15または JISB8627:20 06	いずれもガス ヒートポンプ 冷暖房機	JRA4067:2015またはJISB8627:2006に準拠。ただ し、電源の周波数は、50Hzとする。				
							7.5HP超10HP以下	S-004536	1.22													
							10HP超16HP以下	S-004537	1.33													
							16HP超25HP以下	S-004538	1.34													
							25HP超	S-004539	1.3													
							7.5HP以下	S-004674	-	-	期間成績係数 (APFp)	標準規格に よる評価	JISB8627:20 15	ガスヒートポ ンプ冷暖房機	JISB8627:2015に準拠	JISB8627:20 15	ガスヒートポ ンプ冷暖房機	JISB8627:2015に準拠	JISB8627:2015に準拠	JISB8627:2015に準拠	JISB8627:2015に準拠	
							7.5HP超10HP以下	S-004540	1.39													
							10HP超16HP以下	S-004541	1.86													
							16HP超25HP以下	S-004542	1.98													
							25HP超	S-004543	1.91													
							寒冷地仕様	相当馬力数	7.5HP以下	S-004544	1.19	-	COPp	標準規格に よる評価	-	-	-	-	$COPp = (Ccr + Chr) / 2$ $Ccr = \Phi cr / (Gcr + Pcr / (3600 / 9760))$ 、 $Chr = \Phi hr / (Ghr + Phr / (3600 / 9760))$ Ccr: 冷房成績係数 Chr: 暖房成績係数 Φcr : 定格冷房標準能力(kW) Φhr : 定格暖房標準能力(kW) Gcr: 定格冷房標準 ガス消費量(kW) Ghr: 定格暖房標準 ガス消費量(kW) Pcr: 定格冷房標準消費電力(kW) Phr: 定 格暖房標準消費電力(kW) ※COPpは、小数点3桁 目を切捨て、小数点2桁目までを表示する。	JRA4067:20 15または JISB8627:20 06	いずれもガス ヒートポンプ 冷暖房機	JRA4067:2015またはJISB8627:2006に準拠。ただ し、電源の周波数は、50Hzとする。
							7.5HP超10HP以下	S-004545	1.22													
							10HP超16HP以下	S-004546	1.34													
							16HP超25HP以下	S-004547	1.34													
							25HP超	S-004548	1.27													
							7.5HP以下	S-004781	-	-	期間成績係数 (APFp)	標準規格に よる評価	JISB8627:20 15	ガスヒートポ ンプ冷暖房機	JISB8627:2015に準拠	JISB8627:20 15	ガスヒートポ ンプ冷暖房機	JISB8627:2015に準拠	JISB8627:2015に準拠	JISB8627:2015に準拠	JISB8627:2015に準拠	
							7.5HP超10HP以下	S-004549	1.39													
							10HP超16HP以下	S-004550	1.86													
							16HP超25HP以下	S-004551	1.93													

L2-Tech リスト№	区分			設備・機器等の 名称	原理・しくみ	クラス			L2-Tech 水準表 情報№	L2-Tech 水準	指標												
	部門1	部門2	技術分類			条件	クラス能力(名称)	クラス能力(単位)			測定単位		評価方法の タイプ	計算方法			試験条件						
											単位	名称		準拠する規格	規格の名称	計算式	準拠する規格	規格の名称	説明				
									S-004552	1.85													
						発電機付	相当馬力数	7.5HP以下	S-004784	-		-	COPp	標準規格による評価	-	-			COPp= (Ccr+Chr) / 2 Ccr=Φ cr/(Gcr+Pcr/(3600/9760)), Chr=Φ hr/(Ghr+Phr/(3600/9760)) Ccr: 冷房成績係数 Chr: 暖房成績係数 Φcr: 定格冷房標準能力(kW) Φhr: 定格暖房標準能力(kW) Gcr: 定格冷房標準ガス消費量(kW) Ghr: 定格暖房標準ガス消費量(kW) Pcr: 定格冷房標準消費電力(kW) Phr: 定格暖房標準消費電力(kW) ※COPpは、小数点3桁目を切捨て、小数点2桁目までを表示する。	JRA4067:2015またはJISB8627:2006	JISB8627:2006	いずれもガスヒートポンプ冷暖房機	JRA4067:2015またはJISB8627:2006に準拠。ただし、電源の周波数は、50Hzとする。
								7.5HP超10HP以下	S-004785	-													
								10HP超16HP以下	S-004553	1.34													
								16HP超25HP以下	S-004554	1.34													
								25HP超	S-004555	1.27													
								7.5HP以下	S-004787	-		-	期間成績係数 (APFp)	標準規格による評価	JISB8627:2015	ガスヒートポンプ冷暖房機	JISB8627:2015に準拠	JISB8627:2015	ガスヒートポンプ冷暖房機	JISB8627:2015に準拠			
								7.5HP超10HP以下	S-004790	-													
								10HP超16HP以下	S-004556	1.86													
								16HP超25HP以下	S-004557	1.97													
								25HP超	S-004558	1.91													
L-000934	産業・業務 (業種共通)	空調	空調機 (ヒートポンプ・個別方式)	パッケージエアコン(店舗・オフィス用)	電動圧縮機を用いるヒートポンプ式の空気調和機で、冷房能力が4~28kW程度。主に店舗・オフィス向け。	-	冷房能力	4.0kW以下	S-004559	8.1		-	通年エネルギー消費効率 (APF)	標準規格による評価	JISB8616:2015	パッケージエアコンディショナ	JISB8616:2015に準拠	JISB8616:2015	パッケージエアコンディショナ	JISB8616:2015に準拠			
								4.0kW超 5.0kW以下	S-004560	7.9													
								5.0kW超 6.3kW以下	S-004561	8.1													
								6.3kW超 11.2kW以下	S-004562	7.3													
								11.2kW超 16.0kW以下	S-004563	6.8													
								16.0kW超	S-004564	6.3													
L-000935	産業・業務 (業種共通)	空調	空調機 (ヒートポンプ・個別方式)	パッケージエアコン(設備用)	電動圧縮機を用いるヒートポンプ式の空気調和機で、冷房能力が9~140kW程度。主に工場向け。	-	冷房能力	28kW以下	S-004565	4.8		-	通年エネルギー消費効率 (APF)	標準規格による評価	JISB8616:2015	パッケージエアコンディショナ	JISB8616:2015に準拠	JISB8616:2015	パッケージエアコンディショナ	JISB8616:2015に準拠			
								28kW超 45kW以下	S-004566	4.2													
								45kW超 56kW以下	S-004567	4													

L2-Tech リスト№	区分			設備・機器等の 名称	原理・しくみ	クラス			L2-Tech 水準表 情報№	L2-Tech 水準	指 標								
	部門1	部門2	技術分類			条 件	クラス 能力(名称)	クラス 能力(単位)			測定単位		評価方法の タイプ	計算方法			試験条件		
											単 位	名 称		準拠する規格	規格の名称	計算式	準拠する規格	規格の名称	説 明
							22.4kW超28.0kW以下	S-004619	-										
							28.0kW超45.0kW以下	S-004805	-										
							45.0kW超56.0kW以下	S-004808	-										
							56.0kW超80.0kW以下	S-004812	-										
							80.0kW超112.0kW以下	S-004814	-										
							112.0kW超	S-004589	2.6										
L-000940	産業・業 務(業種 共通)	空調/産業 用プロセス	熱源・空 調機 (ヒート ポンプ・ 中央方 式)	フロン類等冷媒 ターボ冷凍機	蒸発器、圧縮機、凝集器、弁からなる。蒸発器内の冷媒を蒸発させ蒸発器内のパイプの中の循環水を冷やし、冷水として取り出して使用する機器。蒸発した冷媒は圧縮機で昇圧され、凝集器内の冷却水で凝縮され液体に戻る。HFC冷媒またはHFO冷媒を使用している。	冷却能力	200RT未満	S-004590	6.7 *	-	期間成績係数 (IPLV)	標準規格に よる評価	JISB8621:20 11	遠心冷凍機	JISB8621:2011に準拠	JISB8621:20 11	遠心冷凍機	JISB8621:2011に準拠	
							200RT以上250RT未満	S-005784	9.4 *										
							250RT以上300RT未満	S-005785	9.2 *										
							300RT以上350RT未満	S-005786	9.4 *										
							350RT以上400RT未満	S-005787	9.6 *										
							400RT以上500RT未満	S-004595	9.6 *										
							500RT以上600RT未満	S-004597	9.1 *										
							600RT以上700RT未満	S-004599	9.3 *										
							700RT以上1000RT未満	S-004601	9.9 *										
							1000RT以上1500RT未満	S-004602	9.29 *										
							1500RT以上	S-004604	9.29 *										
							200RT未満	S-004605	6.17 *	-	成績係数 (COP)	標準規格に よる評価	JISB8621:20 11	遠心冷凍機	JISB8621:2011に準拠	JISB8621:20 11	遠心冷凍機	JISB8621:2011に準拠	
							200RT以上250RT未満	S-005788	6.34 *										
							250RT以上300RT未満	S-005789	6.38 *										
							300RT以上350RT未満	S-005790	6.37 *										

L2-Tech リスト№	区分			設備・機器等の 名称	原理・しくみ	クラス		L2-Tech 水準表 情報№	L2-Tech 水準	指 標													
	部門1	部門2	技術分類			条 件	クラス 能力(名称)			クラス 能力(単位)	測定単位		評価方法の タイプ	計算方法			試験条件						
											単 位	名 称		準拠する規格	規格の名称	計算式	準拠する規格	規格の名称	説 明				
							160.0kW超	S-004642	5.3														
							60.0kW以下	S-004644	3.85		成績係数 (COP)	標準規格に よる評価	JISB8613:19 94または JRA4066:20 14	いずれも ウォータチリ ングユニット	JISB8613:1994またはJRA4066:2014に準拠	JISB8613:19 94または JRA4066:20 14	いずれも ウォータチリ ングユニット	JISB8613:1994またはJRA4066:2014に準拠					
							60.0kW超90.0kW以下	S-004645	4.07														
							90.0kW超120.0kW以下	S-004647	4														
							120.0kW超160.0kW以下	S-004649	4														
							160.0kW超	S-004651	4.3														
						出口温度60℃	加熱能力	60.0kW以下	S-004986	-		成績係数 (COP)	標準条件に よる評価	JISB8613:19 94または JRA4066:20 14	いずれも ウォータチリ ングユニット	JISB8613:1994または JRA4066:2014	JISB8613:19 94または JRA4066:20 14	いずれも ウォータチリ ングユニット	JISB8613:1994またはJRA4066:2014に準拠。ただ し、出口温度は60℃とする。				
							60.0kW超90.0kW以下	S-004989	-														
							90.0kW超120.0kW以下	S-004654	2.76														
							120.0kW超160.0kW以下	S-004655	2.58														
							160.0kW超	S-004656	2.54														
						ブライン仕様、ブライン入 口温度0℃、ブライン出口温 度-5℃	冷却能力	60.0kW以下	S-004990	-		成績係数 (COP)	標準規格に よる評価	JISB8613:19 94または JRA4066:20 14	いずれも ウォータチリ ングユニット	JISB8613:1994またはJRA4066:2014に準拠	JISB8613:19 94または JRA4066:20 14	いずれも ウォータチリ ングユニット	JISB8613:1994またはJRA4066:2014に準拠。ただ し、ブライン入口温度については0℃、ブライン出 口温度については-5℃とする。				
							60.0kW超90.0kW以下	S-004659	2.84														
							90.0kW超120.0kW以下	S-004661	2.52														
							120.0kW超160.0kW以下	S-004663	2.64														
							160.0kW超	S-004666	2.79														
						ブライン仕様、ブライン入 口温度0℃、ブライン出口温 度-5℃、散水式	冷却能力	60.0kW以下	S-004993	-		成績係数 (COP)	標準規格に よる評価	JISB8613:19 94または JRA4066:20 14	いずれも ウォータチリ ングユニット	JISB8613:1994または JRA4066:2014	JISB8613:19 94または JRA4066:20 14	いずれも ウォータチリ ングユニット	JISB8613:1994またはJRA4066:2014に準拠。ただ し、ブライン入口温度については0℃、ブライン出 口温度については-5℃とする。				
							60.0kW超90.0kW以下	S-004667	2.9														
							90.0kW超120.0kW以下	S-004677	2.75														
							120.0kW超160.0kW以下	S-004679	-														
							160.0kW超	S-004683	-														
						ブライン仕様、ブライン入 口温度-2℃、ブライン出口 温度-5℃	冷却能力	60.0kW以下	S-004686	2.78		成績係数 (COP)	標準規格に よる評価	JISB8613:19 94または JRA4066:20 14	いずれも ウォータチリ ングユニット	JISB8613:1994または JRA4066:2014	JISB8613:19 94または JRA4066:20 14	いずれも ウォータチリ ングユニット	JISB8613:1994またはJRA4066:2014に準拠。ただ し、ブライン入口温度については-2℃、ブライン 出口温度については-5℃とする。				

L2-Tech リスト№	区分			設備・機器等の 名称	原理・しくみ	クラス		L2-Tech 水準表 情報№	L2-Tech 水準	指 標													
	部門1	部門2	技術分類			条 件	クラス 能力(名称)			クラス 能力(単位)	測定単位		評価方法の タイプ	計算方法			試験条件						
											単 位	名 称		準拠する規格	規格の名称	計算式	準拠する規格	規格の名称	説明				
							60.0kW超90.0kW以下	S-004688	2.78														
							90.0kW超120.0kW以下	S-004690	2.72														
							120.0kW超160.0kW以下	S-004693	2.63														
							160.0kW超	S-004696	2.72														
						ブライン仕様、ブライン入口温度3℃、ブライン出口温度0℃	冷却能力 60.0kW以下	S-004698	2.45	-	成績係数(COP)	標準規格による評価	JISB8613:1994またはJRA4066:2014	いずれもウォーターチリングユニット	JISB8613:1994またはJRA4066:2014に準拠	JISB8613:1994またはJRA4066:2014	いずれもウォーターチリングユニット	JISB8613:1994またはJRA4066:2014に準拠。ただし、ブライン入口温度については0℃とする。					
							60.0kW超90.0kW以下	S-004701	-														
							90.0kW超120.0kW以下	S-004702	-														
							120.0kW超160.0kW以下	S-004703	-														
							160.0kW超	S-004704	-														
						ブライン仕様、ブライン入口温度3℃、ブライン出口温度-7℃	冷却能力 60.0kW以下	S-004706	3.02	-	成績係数(COP)	標準規格による評価	JISB8613:1994またはJRA4066:2014	いずれもウォーターチリングユニット	JISB8613:1994またはJRA4066:2014に準拠	JISB8613:1994またはJRA4066:2014	いずれもウォーターチリングユニット	JISB8613:1994またはJRA4066:2014に準拠。ただし、ブライン入口温度については-3℃、ブライン出口温度については-7℃とする。					
							60.0kW超90.0kW以下	S-004709	2.82														
							90.0kW超120.0kW以下	S-004711	2.68														
							120.0kW超160.0kW以下	S-004712	-														
							160.0kW超	S-004715	-														
						寒冷地仕様	冷却能力 60.0kW以下	S-004723	-	-	期間成績係数(IPLV)	標準規格による評価	JISB8613:1994またはJRA4066:2014	いずれもウォーターチリングユニット	JISB8613:1994またはJRA4066:2014に準拠	JISB8613:1994またはJRA4066:2014	いずれもウォーターチリングユニット	JISB8613:1994またはJRA4066:2014に準拠					
							60.0kW超90.0kW以下	S-004737	-														
							90.0kW超120.0kW以下	S-004740	-														
							120.0kW超160.0kW以下	S-004741	-														
							160.0kW超	S-004742	-														
							60.0kW以下	S-004746	-	-	成績係数(COP)	標準規格による評価	JISB8613:1994またはJRA4066:2014	いずれもウォーターチリングユニット	JISB8613:1994またはJRA4066:2014に準拠	JISB8613:1994またはJRA4066:2014	いずれもウォーターチリングユニット	JISB8613:1994またはJRA4066:2014に準拠					
							60.0kW超90.0kW以下	S-004749	-														
							90.0kW超120.0kW以下	S-005806	-														

L2-Tech リスト№	区分			設備・機器等の 名称	原理・しくみ	クラス			L2-Tech 水準表 情報№	L2-Tech 水準	指 標							
	部門1	部門2	技術分類			条 件	クラス 能力(名称)	クラス 能力(単位)			測定単位		評価方法の タイプ	計算方法		試験条件		
											単 位	名 称		標準規格に よる評価	標準規格に よる評価	標準規格に よる評価	標準規格に よる評価	標準規格に よる評価
						60.0kW以下	S-004834	4.86		成績係数 (COP)	標準規格に よる評価	JISB8613:19 94または JRA4066:20 14	いずれも ウォーターチリ ングユニット	JISB8613:1994またはJRA4066:2014に準拠	JISB8613:19 94または JRA4066:20 14	いずれも ウォーターチリ ングユニット	JISB8613:1994またはJRA4066:2014に準拠	
						60.0kW超90.0kW以下	S-004835	6.2										
						90.0kW超120.0kW以下	S-004836	5.46										
						120.0kW超160.0kW以下	S-004837	4.86										
						160.0kW超	S-004838	6										
					散水式、冷水出入口温度差 7℃	冷却能力	60.0kW以下	S-004839	-		期間成績係数 (IPLV)	標準規格に よる評価	JISB8613:19 94または JRA4066:20 14	いずれも ウォーターチリ ングユニット	JISB8613:1994またはJRA4066:2014に準拠	JISB8613:19 94または JRA4066:20 14	いずれも ウォーターチリ ングユニット	JISB8613:1994またはJRA4066:2014に準拠。ただ し、冷水出入口温度差については7℃とする。
						60.0kW超 90.0kW以下	S-004840	7										
						90.0kW超 120.0kW以下	S-004841	6.7										
						120.0kW超 160.0kW以下	S-004842	6.5										
						160.0kW超	S-004843	6.3										
						60.0kW以下	S-004844	5.04		成績係数 (COP)	標準規格に よる評価	JISB8613:19 94または JRA4066:20 14	いずれも ウォーターチリ ングユニット	JISB8613:1994またはJRA4066:2014に準拠	JISB8613:19 94または JRA4066:20 14	いずれも ウォーターチリ ングユニット	JISB8613:1994またはJRA4066:2014に準拠。ただ し、冷水出入口温度差については7℃とする。	
						60.0kW超 90.0kW以下	S-004845	6.39										
						90.0kW超 120.0kW以下	S-004846	5.65										
						120.0kW超 160.0kW以下	S-004847	5.04										
						160.0kW超	S-004848	6.3										
					冷水出入口温度差7℃	冷却能力	60.0kW以下	S-004849	-		期間成績係数 (IPLV)	標準規格に よる評価	JRA4066:20 14	ウォーターチリ ングユニット	JRA4066:2014に準拠	JRA4066:20 14	ウォーターチリ ングユニット	JRA4066:2014に準拠 JRA4066:2014に準拠。ただ し、冷水出入口温度差については7℃とする。
						60.0kW超90.0kW以下	S-004850	6										
						90.0kW超120.0kW以下	S-004851	6										
						120.0kW超160.0kW以下	S-004852	5.7										
						160.0kW超	S-004853	5.6										
						60.0kW以下	S-004854	4		成績係数 (COP)	標準規格に よる評価	JISB8613:19 94または JRA4066:20 14	いずれも ウォーターチリ ングユニット	JISB8613:1994またはJRA4066:2014に準拠	JISB8613:19 94または JRA4066:20 14	いずれも ウォーターチリ ングユニット	JRA4066:2014に準拠 JRA4066:2014に準拠。ただ し、冷水出入口温度差については7℃とする。	
						60.0kW超90.0kW以下	S-004855	4.14										

L2-Tech リスト№	区分			設備・機器等の 名称	原理・しくみ	クラス		L2-Tech 水準表 情報№	L2-Tech 水準	指 標													
	部門1	部門2	技術分類			条 件	クラス 能力(名称)			クラス 能力(単位)	測定単位		評価方法の タイプ	計算方法			試験条件						
											単 位	名 称		準拠する規格	規格の名称	計算式	準拠する規格	規格の名称	説 明				
						160.0kW超	S-004895	6															
						60.0kW以下	S-004896	4.86		成績係数 (COP)	標準規格に よる評価	JISB8613:19 94または JRA4066:20 14	いずれも ウォーターチリ ングユニット	JISB8613:1994またはJRA4066:2014に準拠	JISB8613:19 94または JRA4066:20 14	いずれも ウォーターチリ ングユニット	JISB8613:1994またはJRA4066:2014に準拠。						
						60.0kW超90.0kW以下	S-004897	6.2															
						90.0kW超120.0kW以下	S-004898	5.46															
						120.0kW超160.0kW以下	S-004899	4.86															
						160.0kW超	S-004900	6															
					冷房専用、冷水出入口温度 差7℃	冷却能力	60.0kW以下	S-004901	-		期間成績係数 (IPLV)	標準規格に よる評価	JISB8613:19 94または JRA4066:20 14	いずれも ウォーターチリ ングユニット	JISB8613:1994またはJRA4066:2014に準拠	JISB8613:19 94または JRA4066:20 14	いずれも ウォーターチリ ングユニット	JISB8613:1994またはJRA4066:2014に準拠。ただ し、冷水出入口温度差については7℃とする。					
						60.0kW超90.0kW以下	S-004902	6															
						90.0kW超120.0kW以下	S-004903	6															
						120.0kW超160.0kW以下	S-004904	5.7															
						160.0kW超	S-004905	5.6															
						60.0kW以下	S-004906	4.01		成績係数 (COP)	標準規格に よる評価	JISB8613:19 94または JRA4066:20 14	いずれも ウォーターチリ ングユニット	JISB8613:1994またはJRA4066:2014に準拠	JISB8613:19 94または JRA4066:20 14	いずれも ウォーターチリ ングユニット	JISB8613:1994またはJRA4066:2014に準拠。ただ し、冷水出入口温度差については7℃とする。						
						60.0kW超90.0kW以下	S-004907	4.14															
						90.0kW超120.0kW以下	S-004908	3.86															
						120.0kW超160.0kW以下	S-004909	3.5															
						160.0kW超	S-004910	3.42															
					冷房専用、冷水出入口温度 差7℃、散水式	冷却能力	60.0kW以下	S-004911	-		期間成績係数 (IPLV)	標準規格に よる評価	JISB8613:19 94または JRA4066:20 14	いずれも ウォーターチリ ングユニット	JISB8613:1994またはJRA4066:2014に準拠	JISB8613:19 94または JRA4066:20 14	いずれも ウォーターチリ ングユニット	JISB8613:1994またはJRA4066:2014に準拠。ただ し、冷水出入口温度差については7℃とする。					
						60.0kW超90.0kW以下	S-004912	7															
						90.0kW超120.0kW以下	S-004914	6.7															
						120.0kW超160.0kW以下	S-004915	6.5															
						160.0kW超	S-004922	6.3															
						60.0kW以下	S-004924	5.04		成績係数 (COP)	標準規格に よる評価	JISB8613:19 94または JRA4066:20 14	いずれも ウォーターチリ ングユニット	JISB8613:1994またはJRA4066:2014に準拠	JISB8613:19 94または JRA4066:20 14	いずれも ウォーターチリ ングユニット	JISB8613:1994またはJRA4066:2014に準拠。ただ し、冷水出入口温度差については7℃とする。						

L2-Tech リストNo	区分			設備・機器等の 名称	原理・しくみ	クラス			L2-Tech 水準表 情報No	L2-Tech 水準	指 標								
	部門1	部門2	技術分類			条 件	クラス 能力(名称)	クラス 能力(単位)			測定単位		評価方法の タイプ	計算方法			試験条件		
											単 位	名 称		標準規格による評価	規格の名称	計算式	標準規格	規格の名称	説明
L-000948	産業・業 務(業種 共通)	空調/産業 用プロセス	熱源・空 調機(吸 収式・中 央方式)	吸収冷凍水機 (二重効用)	吸収力の高い液体に冷媒を吸収させることにより生じる低圧を利用して水を気化させ、気化熱から生じる低温を得る冷凍機であり、高温、低温再生器を有するもの。	節電型(冷却水量原単位 0.7m3/h、RT以下)、冷水上 口温度15℃、冷水出口温度 7℃	冷房能力	80RT以下	S-005020	1.48	-	成績係数 (COP)	標準規格に よる評価	JISB8622:20 09または JISB8622:20 16	吸収式冷凍機	JISB8622:2009またはJISB8622:2016に準拠	JISB8622:20 09または JISB8622:20 16	吸収式冷凍機	JISB8622:2009またはJISB8622:2016に準拠
							80RT超1000RT以下	S-005021	1.48										
							1000RT超	S-005022	1.41										
						冷水入口温度12℃、冷水出 口温度7℃	冷房能力	80RT以下	S-005023	1.48	-	成績係数 (COP)	標準規格に よる評価	JISB8622:20 09または JISB8622:20 16	吸収式冷凍機	JISB8622:2009またはJISB8622:2016に準拠	JISB8622:20 09または JISB8622:20 16	吸収式冷凍機	JISB8622:2009またはJISB8622:2016に準拠
							80RT超1000RT以下	S-005024	1.48										
							1000RT超	S-005025	1.46										
L-000949	産業・業 務(業種 共通)	空調/産業 用プロセス	熱源・空 調機(吸 収式・中 央方式)	吸収冷凍水機 (三重効用)/廃 熱投入型吸収冷 凍水機(三重効 用)	吸収力の高い液体に冷媒を吸収させることにより生じる低圧を利用して水を気化させ、気化熱から生じる低温を得る冷凍機であり、高温、中温、低温再生器を有するもの。	冷水入口温度12℃、冷水出 口温度7℃	-	-	S-005026	1.74	-	成績係数 (COP)	標準規格に よる評価	JISB8622:20 09または JISB8622:20 16	吸収式冷凍機	JISB8622:2009またはJISB8622:2016に準拠	JISB8622:20 09または JISB8622:20 16	吸収式冷凍機	JISB8622:2009またはJISB8622:2016に準拠
L-000950	産業・業 務(業種 共通)	空調/産業 用プロセス	熱源・空 調機(吸 収式・中 央方式)	一重二重併用形 吸収冷凍水機	吸収力の高い液体に冷媒を吸収させることにより生じる低圧を利用して水を気化させ、気化熱から生じる低温を得る冷凍機であり、排熱を熱源として利用し、燃料削減率が20%以上のもの。	節電型(冷却水量原単位 0.7m3/h、RT以下)、冷水上 口温度15℃、冷水出口温度 7℃	冷房能力	80RT以下	S-005027	1.47	-	成績係数 (COP)	標準規格に よる評価	JISB8622:20 09または JISB8622:20 16	吸収式冷凍機	JISB8622:2009またはJISB8622:2016に準拠	JISB8622:20 09または JISB8622:20 16	吸収式冷凍機	JISB8622:2009またはJISB8622:2016に準拠
							80RT超1000RT以下	S-005028	1.47										
							1000RT超	S-005029	-										
						冷水入口温度12℃、冷水出 口温度7℃	冷房能力	80RT以下	S-005030	1.47	-	成績係数 (COP)	標準規格に よる評価	JISB8622:20 09または JISB8622:20 16	吸収式冷凍機	JISB8622:2009またはJISB8622:2016に準拠	JISB8622:20 09または JISB8622:20 16	吸収式冷凍機	JISB8622:2009またはJISB8622:2016に準拠
							80RT超1000RT以下	S-005031	1.47										
							1000RT超	S-005032	-										
L-000951	産業・業 務(業種 共通)	空調	熱源・空 調機(吸 収式・中 央方式)	木質ペレット面 焚き吸収冷凍水 機(二重効用)	吸収力の高い液体に冷媒を吸収させることにより生じる低圧を利用して水を気化させ、気化熱から生じる低温を得る冷凍機であり、高温、低温再生器を有するもの内、加熱源の燃料に木質ペレットを使用するもの。中央方式を採用する業務施設の冷暖房に使用される。	-	冷房能力	80RT以下	S-005033	1.04	-	成績係数 (COP)	標準規格に よる評価	JIS B 8622 : 2009	吸収冷凍機	JIS B 8622 : 2009に準拠、ただし、成績係数は冷 凍能力を加熱源消費熱量で除したものとし、消費 電力は除外することとする。	JIS B 8622 : 2009	吸収冷凍機	JIS B 8622 : 2009に準拠
							80RT超1000RT以下	S-005034	-										
							1000RT超	S-005035	-										

L2-Tech リストNo	区分			設備・機器等の 名称	原理・しくみ	クラス			L2-Tech 水準表 情報No	L2-Tech 水準	指 標									
	部門1	部門2	技術分類			条 件	クラス 能力(名称)	クラス 能力(単位)			S-005036	-	測定単位 単 位	評価方法の 名 称	評価方法の タイプ	計算方法			試験条件	
																標準する規格	規格の名称	計算式	標準する規格	規格の名称
L-000955	産業・業 務(業種 共通)	空調	熱源・空 調機(地 中熱利 用・中央 方式)	パッシブ地中熱 利用システム	熱交換パイプ、制御盤、ポンプ、ファンからなる。地下水又は温水をバイラル状に通水できるパイプを地下2mに埋設し送風することで、空気と地中熱・水の熱と熱交換を行い温風、冷風を送風する機器。一般的には送風部のみあるクールチューブやアースチューブなどと呼ばれる空調機が存在する。こういったシステムと比べて、水が持つ熱との熱交換が加わったことで、熱交換量が飛躍的に増え、大空間の空調を行えるようになった。	冷房能力	6.4kW	S-005036	-	成績係数 (COP)	シミュレ ーションによる 評価	-	-	COP=Φ/P、COP:成績係数、Φ:定格能力[W]、P:定 格消費エネルギー[W]	-	-	成績係数(COP)の算出にあたっては、入気温度、吹き出し温度、給水温度、戻り水温度については、以下の通り設定することを条件とする。入気温度:35℃、吹き出し温度27℃、給水温度:15℃、戻り水温度:15℃			
							8.2kW	S-005037	-											
							10.9kW	S-005038	15.57 *											
							12.8kW	S-005039	-											
							21.9kW	S-005040	-											
							29.2kW	S-005041	-											
							36.5kW	S-005042	-											
L-000956	産業・業 務(業種 共通)	空調/産業 用プロセス	熱源・空 調機(吸 着式・中 央方式)	吸着式冷凍機	吸着器内部に充填された吸着剤に冷媒を吸着させ、冷媒の蒸発を促し、その気化熱から冷凍効果を得る冷凍機。	熱源入口温度58℃	-	S-005043	15.2 *	電力COP	標準条件による評価	-	-	COP=Φ/P、COP:成績係数、Φ:定格能力[W]、P:定 格消費エネルギー[W]注:上記のCOPは電力COP である	-	-	成績係数(COP)の算出にあたっては、冷水出口温度、冷却水入口温度、熱源入口温度をそれぞれ次のとおり設定することを条件とする。冷水出口温度:15℃、冷却水入口温度:27℃、熱源入口温度:58℃注:上記のCOPは電力COPである			
						熱源入口温度:68℃	冷却能力	2.5kW以上25kW未満	S-005044	25.7 *	電力COP	標準条件による評価	-	-	COP=Φ/P COP:成績係数 Φ:定格能力[W] P:定格消費エネルギー[W]注:上記のCOPは電力COPである	-	-	成績係数(COP)の算出にあたっては、冷水出口温度、冷却水入口温度、熱源入口温度をそれぞれ以下のとおり設定することを条件とする。冷水出口温度:15℃冷却水入口温度:27℃熱源入口温度:68℃注:上記のCOPは電力COPである		
							25kW以上50kW未満	S-005045	25 *											
							50kW以上	S-005046	26.1 *											
L-000957	産業・業 務(業種 共通)	給油/産業 用プロセス	熱源 (ヒート ポンプ)	高温水ヒートポン プ(空気熱源 循環式)	空気を熱源とし、循環式の供給方式が可能なヒートポンプ方式で、水等の2次媒体を加熱する熱源・空調機。貯湯ユニットを含まないもの。	温水出口温度65℃以上70℃以下、乾球温度16℃、湿球温度12℃、温水出入口温度差5℃	-	S-005047	3.09 *	成績係数 (COP)	標準条件による評価	-	-	COP=Φ/P、COP:成績係数、Φ:定格能力[W]、P:定 格消費電力[W]	-	-	成績係数(COP)の算出にあたっては、温水出口温度、乾球温度、湿球温度、温水出入口温度差を次のとおり設定することを条件とする。温水出口温度:65℃以上70℃以下、乾球温度:16℃、湿球温度:12℃、温水出入口温度差:5℃			
						温水出口温度65℃以上70℃以下、乾球温度25℃、湿球温度21℃、温水出入口温度差10℃	-	S-005048	3.63 *	成績係数 (COP)	標準条件による評価	-	-	COP=Φ/P、COP:成績係数、Φ:定格能力[W]、P:定 格消費電力[W]	-	-	成績係数(COP)の算出にあたっては、温水出口温度、乾球温度、湿球温度、温水出入口温度差を以下のとおり設定することを条件とする。温水出口温度:65℃以上70℃以下、乾球温度:25℃、湿球温度:21℃、温水出入口温度差:10℃			
						温水出口温度65℃以上70℃以下、乾球温度25℃、湿球温度21℃、温水出入口温度差5℃	-	S-005049	3.3 *	成績係数 (COP)	標準条件による評価	-	-	COP=Φ/P、COP:成績係数、Φ:定格能力[W]、P:定 格消費電力[W]	-	-	成績係数(COP)の算出にあたっては、温水出口温度、乾球温度、湿球温度、温水出入口温度差を以下のとおり設定することを条件とする。温水出口温度:65℃以上70℃以下、乾球温度:25℃、湿球温度:21℃、温水出入口温度差:5℃			

L2-Tech リスト№	区分			設備・機器等の 名称	原理・しくみ	クラス			L2-Tech 水準表 情報№	L2-Tech 水準	指 標									
	部門1	部門2	技術分類			条 件	クラス 能力(名称)	クラス 能力(単位)			測定単位		評価方法の タイプ		計算法			試験条件		
											単 位	名 称	標準条件に よる評価	標準規格に よる評価	標準する規格	規格の名称	計算法	標準する規格	規格の名称	説明
									S-005764	3.07	-	成績係数 (COP)	標準条件に よる評価	-	-	COP=Φ/P、COP:成績係数、Φ:定格能力[W]、P:定 格消費電力[W]	-	-	成績係数(COP)の算出にあたっては、温水出口温 度、乾球温度、温水出入口温度差を以下のとおり 設定することを条件とする。温水出口温度60℃、 乾球温度16℃、温水出入口温度差5℃	
L-000958	産業・業 務(業種 共通)	給湯/産業 用プロセス	熱源 (ヒート ポンプ)	高温水ヒートポン プ(空気熱源・ 一過式)	空気を熱源とし、一過式の供給方式が可能なヒートポンプ方式で、 水等の2次媒体を加熱する熱源・空調機。貯湯ユニットを含まない もの。	-	-	-	S-005055	4.2 *	-	年間標準貯湯 加熱エネルギー 消費効率	標準規格に よる評価	JRA4060:20 14	業務用ヒート ポンプ給湯機	JRA4060:2014に準拠	JRA4060:20 14	業務用ヒート ポンプ給湯機	JRA4060:2014に準拠	
L-000959	産業・業 務(業種 共通)	産業用プ ロセス	熱源 (ヒート ポンプ)	高温水ヒートポン プ(水熱源・循 環式)	水を熱源とし、遠心式、または回転式圧縮機を使用して、循環式の 供給方式が可能なヒートポンプ方式で、水等の2次媒体を加熱する 熱源・空調機。貯湯ユニットを含まないもの。	加熱能力	270kW以下	S-005057	3.4 *	-	成績係数 (COP)	標準条件に よる評価	-	-	COP=Φ/P COP:成績係数 Φ:定格能力[W] P:定格消 費電力[W]	-	-	成績係数(COP)の算出にあたっては、温水出口温 度、熱源水入口温度、熱源水出口温度、温水出入 口温度差を以下のとおり設定することを条件とす る。温水出口温度：65℃ 熱源水入口温度：17℃ 熱源水出口温度：7℃ 温水出入口温度差：10℃		
							270kW超350kW以下	S-005065	-											
							350kW超540kW以下	S-005068	3.2 *											
							540kW超	S-005077	-											
							温水出口温度65℃、熱源水 入口温度17℃以上30℃以 下、熱源水出口温度7℃以上 20℃以下、温水出入口温度 差10℃	加熱能力	270kW以下	S-005084	4.3 *	-	成績係数 (COP)	標準条件に よる評価	-	-	COP=Φ/P COP:成績係数 Φ:定格能力[W] P:定格消 費電力[W]	-	-	成績係数(COP)の算出にあたっては、温水出口温 度、熱源水入口温度、熱源水出口温度、温水出入 口温度差を以下のとおり設定することを条件とす る。温水出口温度：65℃ 熱源水入口温度：17℃ 以上30℃以下 熱源水出口温度：7℃以上20℃以下 温 水出入口温度差：10℃
							270kW超350kW以下	S-005086	-											
							350kW超540kW以下	S-005091	4.4 *											
							540kW超	S-005100	-											
							温水出口温度65℃、熱源水 入口温度20℃、熱源水出口 温度15℃以上17℃以下、温 水出入口温度差5℃	加熱能力	270kW以下	S-005109	3.6 *	-	成績係数 (COP)	標準条件に よる評価	-	-	COP=Φ/P COP:成績係数 Φ:定格能力[W] P:定格消 費電力[W]	-	-	成績係数(COP)の算出にあたっては、温水出口温 度、熱源水入口温度、熱源水出口温度、温水出入 口温度差を次のとおり設定することを条件とす る。温水出口温度：65℃、熱源水入口温度： 20℃、熱源水出口温度：15℃以上17℃以下、温水 出入口温度差：5℃
							270kW超350kW以下	S-005110	-											
							350kW超540kW以下	S-005112	3.7 *											
							540kW超	S-005117	-											
							温水出口温度65℃、熱源水 入口温度30℃、熱源水出口 温度25℃以上30℃以下、温 水出入口温度差5℃	加熱能力	270kW以下	S-005124	4.2 *	-	成績係数 (COP)	標準条件に よる評価	-	-	COP=Φ/P COP:成績係数 Φ:定格能力[W] P:定格消 費電力[W]	-	-	成績係数(COP)の算出にあたっては、温水出口温 度、熱源水入口温度、熱源水出口温度、温水出入 口温度差を以下のとおり設定することを条件とす る。温水出口温度：65℃ 熱源水入口温度：30℃ 熱源水出口温度：25℃以上30℃以下 温水出入口温 度差：5℃

L2-Tech リスト№	区分			設備・機器等の 名称	原理・しくみ	クラス			L2-Tech 水準表 情報№	L2-Tech 水準	指標								
	部門1	部門2	技術分類			条件	クラス能力(名称)	クラス能力(単位)			測定単位	名称	評価方法の タイプ	計算方法		試験条件			
														単位	名称	標準する規格	規格の名称	計算式	標準する規格
						温水出口温度90℃、熱源水 入口温度30℃、熱源水出口 温度25℃、温水出入口温度 差5℃	加熱能力	270kW以下	S-005338	-	-	成績係数 (COP)	標準条件に よる評価	-	-	COP=Φ/P COP:成績係数 Φ:定格能力[W] P:定格消 費電力[W]	-	-	成績係数(COP)の算出にあたっては、温水出口温 度、熱源水入口温度、熱源水出口温度、温水出入 口温度差を以下のとおり設定することを条件とす る。温水出口温度：90℃ 熱源水入口温度：30℃ 熱源水出口温度：25℃ 温水出入口温度差：5℃
								270kW超350kW以下	S-005351	3.1 *									
								350kW超540kW以下	S-005354	-									
								540kW超	S-005359	-									
						温水出口温度90℃、熱源水 入口温度40℃、熱源水出口 温度30℃、温水出入口温度 差10℃	加熱能力	270kW以下	S-005361	3 *	-	成績係数 (COP)	標準条件に よる評価	-	-	COP=Φ/P COP:成績係数 Φ:定格能力[W] P:定格消 費電力[W]	-	-	成績係数(COP)の算出にあたっては、温水出口温 度、熱源水入口温度、熱源水出口温度、温水出入 口温度差を以下のとおり設定することを条件とす る。温水出口温度：90℃ 熱源水入口温度：40℃ 熱源水出口温度：30℃ 温水出入口温度差：10℃
								270kW超350kW以下	S-005366	-									
								350kW超540kW以下	S-005371	3.5 *									
								540kW超	S-005373	-									
						温水出口温度90℃、熱源水 入口温度40℃、熱源水出口 温度35℃、温水出入口温度 差5℃	加熱能力	270kW以下	S-005376	-	-	成績係数 (COP)	標準条件に よる評価	-	-	COP=Φ/P COP:成績係数 Φ:定格能力[W] P:定格消 費電力[W]	-	-	成績係数(COP)の算出にあたっては、温水出口温 度、熱源水入口温度、熱源水出口温度、温水出入 口温度差を以下のとおり設定することを条件とす る。温水出口温度：90℃ 熱源水入口温度：40℃ 熱源水出口温度：35℃ 温水出入口温度差：5℃
								270kW超350kW以下	S-005379	-									
								350kW超540kW以下	S-005381	-									
								540kW超	S-005384	-									
						温水出口温度45℃、熱源水 入口温度25℃、熱源水出口 温度12.5℃、温水出入口温 度差5℃	加熱能力	270kW以下	S-005772	4.81 *	-	成績係数 (COP)	標準条件に よる評価	-	-	COP=Φ/P COP:成績係数 Φ:定格能力[W] P:定格消 費電力[W]	-	-	成績係数(COP)の算出にあたっては、温水出口温 度、熱源水入口温度、熱源水出口温度、温水出入 口温度差を以下のとおり設定することを条件とす る。温水出口温度：45℃ 熱源水入口温度：25℃ 熱源水出口温度：12.5℃ 温水出入口温度差：5℃
								270kW超350kW以下	S-005773	-									
								350kW超540kW以下	S-005774	-									
								540kW超	S-005775	-									
						温水出口温度45℃、熱源水 入口温度0℃、熱源水出口温 度-3℃、温水出入口温度差 5℃	加熱能力	270kW以下	S-005776	3.06 *	-	成績係数 (COP)	標準条件に よる評価	-	-	COP=Φ/P COP:成績係数 Φ:定格能力[W] P:定格消 費電力[W]	-	-	成績係数(COP)の算出にあたっては、温水出口温 度、熱源水入口温度、熱源水出口温度、温水出入 口温度差を以下のとおり設定することを条件とす る。温水出口温度：45℃ 熱源水入口温度：0℃ 熱 源水出口温度：-3℃ 温水出入口温度差：5℃
								270kW超350kW以下	S-005777	-									

L2-Tech リスト№	区分			設備・機器等の 名称	原理・しくみ	クラス			L2-Tech 水準表 情報№	L2-Tech 水準	指 標								
	部門1	部門2	技術分類			条 件	クラス 能力(名称)	クラス 能力(単位)			測定単位		評価方法の タイプ	計算方法		試験条件			
											単 位	名 称		準拠する規格	規格の名称	準拠する規格	規格の名称	説 明	
									S-005602	-		成績係数 (COP)	標準条件に よる評価	-	-	COP=Φ/P COP:成績係数 Φ:定格能力[W] P:定格消費電力[W]	-	-	成績係数(COP)の算出にあたっては、温水出口温度、熱源水入口温度、熱源水出口温度、温水出入口温度差を以下のとおり設定することを条件とする。温水出口温度：70℃熱源水入口温度：50℃熱源水出口温度：38.6℃ 温水出入口温度差：50℃
L-000965	産業・業務 (業種 共通)	産業用プロセス	熱源 (ヒート ポンプ)	蒸気発生ヒート ポンプ(水熱源 一過式)	水を熱源とし、一過式の供給方式を用いるヒートポンプ方式で、蒸気 を発生させる熱源装置。				S-005605	3.53 *	-	成績係数 (COP)	標準条件に よる評価	-	-	COP=Φ/P COP:成績係数 Φ:定格能力[W] P:定格消費電力[W]	-	-	成績係数(COP)の算出にあたっては、蒸気圧力、熱源水入口温度、熱源水出口温度を次のとおり設定することを条件とする。蒸気圧力：0.1MPaG熱源水入口温度：65℃、熱源水出口温度：60℃
									S-005607	-	-	成績係数 (COP)	標準条件に よる評価	-	-	COP=Φ/P COP:成績係数 Φ:定格能力[W] P:定格消費電力[W]	-	-	成績係数(COP)の算出にあたっては、蒸気圧力、熱源水入口温度、熱源水出口温度を以下のとおり設定することを条件とする。蒸気圧力：0.1MPaG熱源水入口温度：80℃熱源水出口温度：70℃
									S-005610	2.46 *	-	成績係数 (COP)	標準条件に よる評価	-	-	COP=Φ/P COP:成績係数 Φ:定格能力[W] P:定格消費電力[W]	-	-	成績係数(COP)の算出にあたっては、蒸気圧力、熱源水入口温度、熱源水出口温度を以下のとおり設定することを条件とする。蒸気圧力：0.6MPaG熱源水入口温度：70℃熱源水出口温度：65℃
L-000966	産業・業務 (業種 共通)	産業用プロセス	熱源 (ヒート ポンプ)	蒸気再圧縮装置	産業プロセス等で利用された排熱を回収し、循環式の供給方式を用いるヒートポンプ。低圧の蒸気を圧縮して再利用することで、ボイラ等の蒸気を利用する設備・機器等の省エネを実現可能。				S-005613	0.067 *	kWh/kg	消費電力量	標準条件に よる評価	-	-	消費電力量=システム消費電力[kW]/吐出蒸気量[kg/h]	-	-	消費電力量の算出にあたっては、吐出圧力、吐出蒸気量、給水温度を以下のとおり設定することを条件とする。吐出圧力：0.1MPaG以上0.2MPaG以下、吐出蒸気量：1.0ton/h以上2.0ton/h以下、給水温度：80℃
									S-005616	0.064 *	kWh/kg	消費電力量	標準条件に よる評価	-	-	消費電力量=システム消費電力[kW]/吐出蒸気量[kg/h]	-	-	消費電力量の算出にあたっては、吐出圧力、吐出蒸気量、給水温度を以下のとおり設定することを条件とする。吐出圧力：0.1MPaG以上0.3MPaG以下吐出蒸気量：3.0ton/h以上 給水温度：80℃
									S-005618	0.085 *	kWh/kg	消費電力量	標準条件に よる評価	-	-	消費電力量=システム消費電力[kW]/吐出蒸気量[kg/h]	-	-	消費電力量の算出にあたっては、吐出圧力、吐出蒸気量、給水温度を以下のとおり設定することを条件とする。吐出圧力：0.4MPaG以上 吐出蒸気量：1.0ton/h以上1.5ton/h以下 給水温度：80℃
L-000968	産業・業務 (業種 共通)	空調	空調機 (ベレット ストーブ)	密閉式ベレット ストーブ	木質ベレットを燃料とする燃焼機器。木質ベレットを燃焼させた熱を熱交換器により室内の空気に伝え、送風ファンにより部屋の隅々まで温風を行き渡らせる。燃焼させた空気は煙突から排気させるため、室内の空気と交わることはなく、清潔な環境を保つことができる。木質ベレットは、カーボンニュートラルであるため、CO2の排出削減が可能。				S-005621	77 *	%	熱効率	標準条件に よる評価	JHIAN- 5601.2004	木質バイオマ ス燃焼機器の 試験方法通則	$\eta = 100 - (\eta_a + \eta_b + \eta_r)$ 、 η : 熱効率[%]、 η_a : 試験燃料中の発熱量当たり排気ガス中の熱損失 (Qa) の比、熱による熱損失の割合 (燃焼基準) [%]、 η_b : 試験燃料の熱容量当たり排気ガス中の化学的熱損失 (Qb) の割合による熱損失の割合 (燃焼基準) [%]、 η_r : 試験燃料の熱容量当たり塵部格子を通過し残渣物中に残った可燃性構成物質による熱損失 (Qr) の残渣物中の可燃性構成、物質による損失の割合 (燃焼基準) [%]※発熱量は高位発熱量とする	JHIAN- 5601.2004	木質バイオマ ス燃焼機器の 試験方法通則	JHIAN-5601.2004に準拠。試験実施にあたっては、ISO17025に準拠した試験機関による性能評価を行うこととする。
L-000969	産業・業務 (業種 共通)	空調	空調フィルタ	空調用ハイブリッドフィルタ	空調機に設置する中性能フィルタを従来のプレ+中性能から低圧損失再生中性能フィルタとすることにより、送風機の運転静圧を低下させ、インバータ装置による回転数制御方式を駆使することにより、電動機の軸動力を低減させる技術	定格風量	28m3/min	S-005760	0.25 *	kW	空調機ファン 動力	シミュレ ーションに よる評価	-	-	$W = a \cdot Q \cdot \Delta P + b \cdot (r/r_0)^d + c \cdot W$ 、W: ファン動力 [kW]、Q: ΔP: 風量×フィルタ圧損 [m3Pa/s]、r: ファン回転数 [rpm]、r0: 定格回転数 [rpm]、a: -0.000222、b: 3.296、c: 0.238、d: 2.8	-	-	空調方式：変風量方式、設計風量：103m3/min (1.72m3/s)、初期圧損：100Pa、最終圧損：255Pa、平均圧損：185Pa、その他：フィルタ2枚使用、実抵抗は風量比の1.1乗に比例するものとして補正、フィルタ圧損以外の管路抵抗は一定、管路抵抗は風量の2乗に比例、空荷負荷率は100%風量の発生率1%、75%風量の発生率42%、60%風量の発生率57%	
L-000970	産業・業務 (業種 共通)	給湯	給湯器 (ヒート ポンプ)	ヒートポンプ給湯機(空気熱源)	空気を熱源とするヒートポンプ方式の給湯機。貯湯ユニットを含むもの。	加熱能力	10kW以下	S-005637	4.2	-	年間標準貯湯 加熱エネルギー 消費効率	標準規格に よる評価	JRA4060:20 14	業務用ヒート ポンプ給湯機	JRA4060:2014に準拠	JRA4060:20 14	業務用ヒート ポンプ給湯機	JRA4060:2014に準拠	
							10kW超20kW以下	S-005627	4.2										
							20kW超30kW以下	S-005630	3.9										

L2-Tech リストNo	区分			設備・機器等の 名称	原理・しくみ	クラス			L2-Tech 水準表 情報No	L2-Tech 水準	指 標												
	部門1	部門2	技術分類			条 件	クラス 能力(名称)	クラス 能力(単位)			測定単位	評価方法の タイプ	計算方法			試験条件							
													単 位	名 称	計算式	準拠する規格	規格の名称	説明					
						2000kW以上	S-005706	-															
					潜熱回収型、都市ガス13A 焚き	出力	1000kW未満	S-005709	105.2	%	ボイラ効率	標準規格による評価	JISB8222-1993、 JISB8417:2000または JISB8418:2000(あるいは HA-035:2017または HA-036:2017)	陸用ボイラ熱動定方式、 真空式温水発生機、 または 無圧式温水発生機(あるいは、 ガス炭潜熱回収型真空式温水発生機 またはガス炭潜熱回収型無 圧式温水発生機)	JISB8222-1993、 JISB8417:2000、または JISB8418:2000(あるいは、 HA-035:2017または HA-036:2017)	JISB8222-1993、 JISB8417:2000または JISB8418:2000(あるいは、 HA-035:2017または HA-036:2017)	陸用ボイラ熱動定方式、 真空式温水発生機、 または 無圧式温水発生機(あるいは、 ガス炭潜熱回収型真空式 温水発生機またはガス炭 潜熱回収型無圧式温水発生 機)	JISB8222-1993、JISB8417:2000、または JISB8418:2000に準拠(あるいは、 HA-035:2017または HA-036:2017に準拠)					
						1000kW以上2000kW未満	S-005712	-															
						2000kW以上	S-005714	-															
					燃料：木質バイオマス	出力	100kW以上200kW未満	S-005717	90	%	ボイラ効率	標準規格による評価	HA-034-2：2015または HA-034-1：2015	日本暖房機器工業規格 HA	JISB8222-1993、HA-034-2：2015、 HA-034-1：2015に準拠	JISB8222-1993、 JISB8417:2000または JISB8418:2000	陸用ボイラ熱動定方式、 真空式温水発生機、または 無圧式温水発生機	JISB8222-1993、JISB8417:2000、または JISB8418:2000に準拠					
						200kW以上300kW未満	S-005720	90															
						300kW以上400kW未満	S-005723	90															
						400kW以上500kW未満	S-005727	90															
						500kW以上600kW未満	S-005729	90															
					燃料：薪	出力	100kW未満	S-005734	90	%	ボイラ効率	標準規格による評価	HA-034-2：2015または HA-034-1：2015	日本暖房機器工業規格 HA	JISB8222-1993、HA-034-2：2015、 HA-034-1：2015に準拠	JISB8222-1993、 JISB8417:2000または JISB8418:2000	陸用ボイラ熱動定方式、 真空式温水発生機、または 無圧式温水発生機	JISB8222-1993、JISB8417:2000、または JISB8418:2000に準拠					
						100kW以上200kW未満	S-005737	90															
						200kW以上400kW未満	S-005740	85															
						400kW以上	S-005743	85															
L-000974	産業・業務(業種共通)	産業用プロセス	ボイラ	蒸気ボイラ(貫流ボイラ)	燃料の燃焼を熱源として水を加熱して蒸気を生じさせ、その蒸気を他に供給する装置。小型・軽量で、空調用、業務用～産業用の幅広い業種で使用される。	蒸発量	1500kg/h未満	S-005747	98	%	ボイラ効率	標準規格による評価	JISB8222-1993	陸用ボイラ熱動定方式	JISB8222-1993に準拠	JISB8222-1993および 公益財団法人日本小型貫流ボイラ協会が規定する「ボイラ性能表示基準値」	陸用ボイラ熱動定方式および 公益財団法人日本小型貫流ボイラ協会が規定する「ボイラ性能表示基準値」	JISB8222-1993および公益財団法人日本小型貫流ボイラ協会が規定する「ボイラ性能表示基準値」に準拠					
						1500kg/h以上3000kg/h未満	S-005751	98															
						3000kg/h以上	S-005753	99															

L2-Tech リスト№	区分			設備・機器等の 名称	原理・しくみ	クラス			L2-Tech 水準表 情報№	L2-Tech 水準	指 標									
	部門1	部門2	技術分類			条 件	クラス 能力(名称)	クラス 能力(単位)			測定単位		評価方法の タイプ	計算方法			試験条件			
											単 位	名 称		標準規格による評価	規格の名称	計算式	標準規格	規格の名称	説明	
						潜熱回収型	蒸発量	3000kg/h未満	S-005756	102		%	ボイラ効率	標準規格による評価	JISB8222-1993	陸用ボイラ熱動定方式	JISB8222-1993に準拠	JISB8222-1993および公益財団法人日本小型貫流ボイラ協会が規定する「ボイラ性能表示基準値」	JISB8222-1993および公益財団法人日本小型貫流ボイラ協会が規定する「ボイラ性能表示基準値」	JISB8222-1993および公益財団法人日本小型貫流ボイラ協会が規定する「ボイラ性能表示基準値」
						3000kg/h以上	S-005757	102												
						クローズド回収型（給水温度100℃以上）、エアヒータ（空予熱器）の搭載	（相当）蒸発量	3000kg/h未満	S-005755	98 *										
						3000kg/h以上	S-005754	98 *												
L-000975	産業・業務（業種共通）	産業用プロセス	ボイラ	蒸気ボイラ(炉筒煙管ボイラ)	燃料の燃焼を熱源として水を加熱して蒸気を発生させ、その蒸気を他に供給する装置。中程度の出力で、主に産業用・地域冷暖房用途で使用される。	-	蒸発量	1500kg/h未満	S-005752	92		%	ボイラ効率	標準規格による評価	JISB8222-1993	陸用ボイラ熱動定方式	JISB8222-1993に準拠	JISB8222-1993	陸用ボイラ熱動定方式	JISB8222-1993に準拠
						1500kg/h以上3000kg/h未満	S-005750	92												
						3000kg/h以上7200kg/h未満	S-005749	96												
						7200kg/h以上19200kg/h未満	S-005748	96												
						19200kg/h以上	S-005746	92												
L-000976	産業・業務（業種共通）	産業用プロセス	ボイラ	蒸気ボイラ(水管ボイラ)	燃料の燃焼を熱源として水を加熱して蒸気を発生させ、その蒸気を他に供給する装置。高圧・大容量で、主に化学・製紙業といった産業用や、地域冷暖房用途で使用される。	-	蒸発量	1500kg/h未満	S-005745	92		%	ボイラ効率	標準規格による評価	JISB8222-1993	陸用ボイラ熱動定方式	JISB8222-1993に準拠	JISB8222-1993	陸用ボイラ熱動定方式	JISB8222-1993に準拠
						1500kg/h以上3000kg/h未満	S-005744	-												
						3000kg/h以上7200kg/h未満	S-005742	96												
						7200kg/h以上19200kg/h未満	S-005741	94												
						19200kg/h以上	S-005739	94												
L-000977	産業・業務（業種共通）	産業用プロセス	ボイラ	水素ボイラ（貫流ボイラ）	水素の燃焼を熱源として水を加熱して蒸気を発生させ、その蒸気を他に供給する装置。水素は燃焼時に水のみしか生成せず、CO2を排出しない事から、炭化水素系燃料からの代替により、大幅にCO2を削減できる。現在は安価に水素が調達可能な副生水素の工場が対象とはなっているが、将来的には水素価格の低下により広く様々な業界で利用できると思われる。	-	蒸発量	1500kg/h未満	S-005738	-		%	ボイラ効率	標準規格による評価	JISB8222-1993	陸用ボイラ熱動定方式	JISB8222-1993に準拠	JISB8222-1993および公益財団法人日本小型貫流ボイラ協会が規定する「ボイラ性能表示基準値」	JISB8222-1993および公益財団法人日本小型貫流ボイラ協会が規定する「ボイラ性能表示基準値」	JISB8222-1993および公益財団法人日本小型貫流ボイラ協会が規定する「ボイラ性能表示基準値」
						1500kg/h以上3000kg/h	S-005736	95												

L2-Tech リスト№	区分			設備・機器等の 名称	原理・しくみ	クラス			L2-Tech 水準表 情報№	L2-Tech 水準	指 標									
	部門1	部門2	技術分類			条 件	クラス 能力(名称)	クラス 能力(単位)			測定単位		評価方法の タイプ	計算方法			試験条件			
											単 位	名 称		標準規格による評価	規格の名称	計算式	標準する規格	規格の名称	説明	
L-000978	産業・業 務(業種 共通)	産業用ブ ロセス	ボイラ	熱媒ボイラ	沸点の高い油を伝熱媒体に使用することによって、常圧で高温が得られる装置。熱媒の種類によって油温度を200℃以上の任意温度にすることが容易にできるため、精度の高い温度制御が必要な化学工業等の加熱、反応プロセスに多く用いられる。	-	出力	1000kW未満	S-005733	92	%	ボイラ効率	標準規格による評価	JISB8222-1993	随用ボイラー熱勘定方式	JISB8222-1993に準拠	JISB8222-1993	随用ボイラー熱勘定方式	JISB8222-1993に準拠	
								1000kW以上2000kW未満	S-005731	92										
								2000kW以上	S-005730	92										
L-000979	産業・業 務(業種 共通)	空調・給湯 産業用ブ ロセス	コージェ ネレー ション	ガスエンジン コージェネレー ション	ガスを燃料としエンジン方式により発電し、その際に生じる廃熱を同時回収することにより、燃料を効率的に利用する熱電供給システム。廃熱で発生する蒸気や温水は、製造業のプロセス利用や、施設の空調・給湯などに幅広く使用される。	50Hz	発電出力	5kW以下	S-005728	85.5	%	総合効率	標準規格による評価	JISB8121:2009	コージェネレーションシステム用語	JISB8121:2009に準拠	JISB8122:2009	コージェネレーションユニットの性能試験方法	JISB8122:2009に準拠	
								5kW超10kW以下	S-005726	86.5										
								10kW超25kW以下	S-005725	85.5										
								25kW超35kW以下	S-005724	88										
								35kW超250kW以下	S-005722	90.2										
								250kW超500kW以下	S-005721	83.8										
								500kW超750kW以下	S-005719	87.8										
								750kW超1000kW以下	S-005718	87.8										
								3000kW超	S-005716	87										
								5kW以下	S-005715	29	%	発電効率	標準規格による評価	JISB8121:2009	コージェネレーションシステム用語	JISB8121:2009に準拠	JISB8122:2009	コージェネレーションユニットの性能試験方法	JISB8122:2009に準拠	
								5kW超10kW以下	S-005713	31.5										
								10kW超25kW以下	S-005711	33.5										
								25kW超35kW以下	S-005710	33.5										
								35kW超250kW以下	S-005708	35.5										
								250kW超500kW以下	S-005707	41.6										

L2-Tech リスト№	区分			設備・機器等の 名称	原理・しくみ	クラス			L2-Tech 水準表 情報№	L2-Tech 水準	指 標													
	部門1	部門2	技術分類			条 件	クラス 能力(名称)	クラス 能力(単位)			測定単位		評価方法の タイプ	計算方法			試験条件							
											単 位	名 称		準拠する規格	規格の名称	計算式	準拠する規格	規格の名称	説 明					
						500kW超750kW以下	S-005705	41.8																
						750kW超1000kW以下	S-005704	42.6																
						3000kW超	S-005703	49.8																
					50Hz、高速エンジン (1000rpm以上)	発電出力	1000kW超2000kW以下	S-005701	87	%	総合効率	標準規格による評価	JISB8121:2009	コージェネレーションシステム用語	JISB8121:2009に準拠	JISB8122:2009	コージェネレーションユニットの性能試験方法	JISB8122:2009に準拠						
						2000kW超3000kW以下	S-005700	77.5																
						1000kW超2000kW以下	S-005698	43.1	%	発電効率	標準規格による評価	JISB8121:2009	コージェネレーションシステム用語	JISB8121:2009に準拠	JISB8122:2009	コージェネレーションユニットの性能試験方法	JISB8122:2009に準拠							
						2000kW超3000kW以下	S-005697	43.4																
					50Hz、中速エンジン (1000rpm未満)	発電出力	1000kW超2000kW以下	S-005696	74.3	%	総合効率	標準規格による評価	JISB8121:2009	コージェネレーションシステム用語	JISB8121:2009に準拠	JISB8122:2009	コージェネレーションユニットの性能試験方法	JISB8122:2009に準拠						
						2000kW超3000kW以下	S-005695	77.9																
						1000kW超2000kW以下	S-005694	45.5	%	発電効率	標準規格による評価	JISB8121:2009	コージェネレーションシステム用語	JISB8121:2009に準拠	JISB8122:2009	コージェネレーションユニットの性能試験方法	JISB8122:2009に準拠							
						2000kW超3000kW以下	S-005693	47.8																
					60Hz	発電出力	5kW以下	S-005692	85.5	%	総合効率	標準規格による評価	JISB8121:2009	コージェネレーションシステム用語	JISB8121:2009に準拠	JISB8122:2009	コージェネレーションユニットの性能試験方法	JISB8122:2009に準拠						
						5kW超10kW以下	S-005691	86.5																
						10kW超25kW以下	S-005690	85.5																
						25kW超35kW以下	S-005689	88																
						35kW超250kW以下	S-005688	90.7																
						250kW超500kW以下	S-005687	82.1																
						500kW超750kW以下	S-005682	87.8																
						750kW超1000kW以下	S-005680	87.8																

L2-Tech リスト№	区分			設備・機器等の 名称	原理・しくみ	クラス			L2-Tech 水準表 情報№	L2-Tech 水準	指 標												
	部門1	部門2	技術分類			条 件	クラス 能力(名称)	クラス 能力(単位)			測定単位		評価方法の タイプ	計算方法			試験条件						
											単 位	名 称		準拠する規格	規格の名称	計算式	準拠する規格	規格の名称	説 明				
									S-005679	87													
									S-005678	29	%	発電効率	標準規格による評価	JISB8121:2009	コージェネレーションシステム用語	JISB8121:2009に準拠		JISB8122:2009	コージェネレーションユニットの性能試験方法	JISB8122:2009に準拠			
									S-005677	31.5													
									S-005676	33.5													
									S-005675	33.5													
									S-005674	37													
									S-005672	42													
									S-005671	41.3													
									S-005670	42.5													
									S-005669	49.8													
					60Hz、高速エンジン (1000rpm以上)	発電出力	1000kW超2000kW以下	S-005667	86.5	%	総合効率	標準規格による評価	JISB8121:2009	コージェネレーションシステム用語	JISB8121:2009に準拠		JISB8122:2009	コージェネレーションユニットの性能試験方法	JISB8122:2009に準拠				
							2000kW超3000kW以下	S-005666	-														
							1000kW超2000kW以下	S-005665	42.6	%	発電効率	標準規格による評価	JISB8121:2009	コージェネレーションシステム用語	JISB8121:2009に準拠		JISB8122:2009	コージェネレーションユニットの性能試験方法	JISB8122:2009に準拠				
							2000kW超3000kW以下	S-005664	-														
					60Hz、中速エンジン (1000rpm未満)	発電出力	1000kW超2000kW以下	S-005663	77	%	総合効率	標準規格による評価	JISB8121:2009	コージェネレーションシステム用語	JISB8121:2009に準拠		JISB8122:2009	コージェネレーションユニットの性能試験方法	JISB8122:2009に準拠				
							2000kW超3000kW以下	S-005662	77.9														
							1000kW超2000kW以下	S-005661	45.5	%	発電効率	標準規格による評価	JISB8121:2009	コージェネレーションシステム用語	JISB8121:2009に準拠		JISB8122:2009	コージェネレーションユニットの性能試験方法	JISB8122:2009に準拠				

L2-Tech リスト№	区分			設備・機器等の 名称	原理・しくみ	クラス			L2-Tech 水準 情報№	L2-Tech 水準	指標									
	部門1	部門2	技術分類			条件	クラス能力(名称)	クラス能力(単位)			測定単位		評価方法の タイプ	計算方法			試験条件			
											単位	名称		準拠する規格	規格の名称	計算式	準拠する規格	規格の名称	説明	
L-000980	産業・業務 (業種 共通)	空調/給湯/ 産業用プ ロセス	コージェ ネレー ション	ガスタービン コージェネレー ション	ガスを燃料とし、タービン方式により発電し、その際に生じる廃熱を同時回収する熱電供給システム。廃熱で発生する蒸気や温水は、製造業のプロセス利用や、施設の空調・給湯などに幅広く使用される。	50Hz	発電出力	1000kW以下 2000kW超3000kW以下 1000kW超2000kW以下 2000kW超3000kW以下 3000kW超5000kW以下 5000kW超7000kW以下 7000kW超10000kW以下 10000kW超40000kW以下 40000kW超	S-005660 S-005659 S-005658 S-005657 S-005656 S-005655 S-005653 S-005652 S-005651	47.8 83 84 81.8 - - 85.2 85.9 84	%	総合効率	標準規格による評価	JISB8121:2009	コージェネレーションシステム用語	JISB8121:2009に準拠	JISB8122:2009	コージェネレーションユニットの性能試験方法	JISB8122:2009に準拠	
								1000kW以下 1000kW超2000kW以下 2000kW超3000kW以下 3000kW超5000kW以下 5000kW超7000kW以下 7000kW超10000kW以下 10000kW超40000kW以下 40000kW超	S-005649 S-005648 S-005646 S-005645 S-005644 S-005642 S-005640 S-005639	18.6 27.7 28.4 31.9 39.3 34.3 39.1 40.9	%	発電効率	標準規格による評価	JISB8121:2009	コージェネレーションシステム用語	JISB8121:2009に準拠	JISB8122:2009	コージェネレーションユニットの性能試験方法	JISB8122:2009に準拠	
						60Hz	発電出力	1000kW以下 1000kW超2000kW以下 2000kW超3000kW以下 3000kW超5000kW以下	S-005638 S-005636 S-005635 S-005634	83 84 81.8 -	%	総合効率	標準規格による評価	JISB8121:2009	コージェネレーションシステム用語	JISB8121:2009に準拠	JISB8122:2009	コージェネレーションユニットの性能試験方法	JISB8122:2009に準拠	

L2-Tech リスト№	区分			設備・機器等の 名称	原理・しくみ	クラス			L2-Tech 水準表 情報№	L2-Tech 水準	指 標												
	部門1	部門2	技術分類			条 件	クラス 能力(名称)	クラス 能力(単位)			測定単位		評価方法の タイプ	準拠する規格	規格の名称	計算方法		試験条件					
											単 位	名 称				計算式	準拠する規格	規格の名称	説 明				
									S-005632	-													
									S-005629	85.2													
									S-005628	86.8													
									S-005626	84													
									S-005625	-	%	発電効率	標準規格に よる評価	JISB8121:20 09	コージェネ レーションシ ステム用語	JISB8121:2009に準拠	JISB8122:20 09	コージェネ レーションユ ニットの性能 試験方法	JISB8122:2009に準拠				
									S-005624	27.7													
									S-005623	28.4													
									S-005622	31.9													
									S-005620	39.3													
									S-005619	34.3													
									S-005617	39.1													
									S-005615	40.9													
L-000981	産業・業 務(業種 共通)	空調・給湯/ 産業用プ ロセス	コージェ ネレー ション	燃料電池コー ジェネレーショ ン	ガスを燃料とし、燃料電池方式により発電し、その際に生じる廃熱を同時回収する熱電供給システム。廃熱で発生する蒸気や温水は、製造業のプロセス利用や、施設の空調・給湯などに幅広く使用される。	50Hz 燃料ガスの種類：純 水素	発電出力	75kW以下	S-005614	-	%	総合効率	標準規格に よる評価	JISC8801:20 09	りん酸形燃料 電池発電シス テム通則	JISC8801：2009に準拠	JISC8801:20 09	りん酸形燃料 電池発電シス テム通則	JISC8801:2009に準拠				
								75kW超150kW以下	S-005612	93													
								150kW超	S-005611	-													
								75kW以下	S-005609	-	%	総合効率	標準規格に よる評価	JISC8801:20 09	りん酸形燃料 電池発電シス テム通則	JISC8801：2009に準拠	JISC8801:20 09	りん酸形燃料 電池発電シス テム通則	JISC8801:2009に準拠				
								75kW超150kW以下	S-005608	48													
								150kW超	S-005606	-													
						50Hz 燃料ガスの種類：都 市ガス	発電出力	75kW以下	S-005604	-	%	総合効率	標準規格に よる評価	JISC8801:20 09	りん酸形燃料 電池発電シス テム通則	JISC8801：2009に準拠	JISC8801:20 09	りん酸形燃料 電池発電シス テム通則	JISC8801:2009に準拠				
								75kW超150kW以下	S-005603	91													
								150kW超	S-005601	-													

L2-Tech リストNo	区分			設備・機器等の 名称	原理・しくみ	クラス			L2-Tech 水準表 情報No	L2-Tech 水準	指 標									
	部門1	部門2	技術分類			条 件	クラス 能力(名称)	クラス 能力(単位)			測定単位		評価方法の タイプ	計算方法		試験条件				
											単 位	名 称		標準規格に よる評価	標準規格 による評価	標準する規格	規格の名称	標準する規格	規格の名称	計算式
						60Hz 燃料ガスの種類：バ イオガス	発電出力	75kW以下	S-005575	-	%	総合効率	標準規格に よる評価	JISC8801:20 09	りん酸形燃料 電池発電シス テム通則	JISC8801：2009に準拠	JISC8801:20 09	りん酸形燃料 電池発電シス テム通則	JISC8801:2009に準拠	
								75kW超150kW以下	S-005574	84										
								150kW超	S-005573	-										
								75kW以下	S-005572	-	%	発電効率	標準規格に よる評価	JISC8801:20 09	りん酸形燃料 電池発電シス テム通則	JISC8801：2009に準拠	JISC8801:20 09	りん酸形燃料 電池発電シス テム通則	JISC8801:2009に準拠	
								75kW超150kW以下	S-005571	40										
								150kW超	S-005570	-										
L-000984	産業・業 務（業種 共通）	冷凍冷蔵	冷凍冷蔵 機器	業務用冷凍冷蔵 庫	レストランの厨房やスーパーマーケットのバックヤード等に使用さ れる冷凍冷蔵庫を指す。家庭用と比較し、急速な冷却機能と高い断 熱性能が求められる。	冷蔵庫：縦型	容量	250L以下	S-005569	-	kWh/年	年間消費電力 量	標準規格に よる評価	JISB8630:20 09	業務用の電気 冷蔵庫及び電 気冷凍庫一特 性及び試験方 法	JISB8630:2009に準拠	JISB8630:20 09	業務用の電気 冷蔵庫及び電 気冷凍庫一特 性及び試験方 法	JISB8630:2009に準拠	
								250L超350L以下	S-005568	-										
								350L超450L以下	S-005567	-										
								450L超	S-005566	-										
						冷蔵庫：縦型	容積	700L以下	S-005565	-	kWh/年	年間消費電力 量	標準規格に よる評価	JISB8630:20 09	業務用の電気 冷蔵庫及び電 気冷凍庫一特 性及び試験方 法	JISB8630:2009に準拠	JISB8630:20 09	業務用の電気 冷蔵庫及び電 気冷凍庫一特 性及び試験方 法	JISB8630:2009に準拠	
								700L超1200L以下	S-005564	-										
								1200L超	S-005563	-										
						冷蔵庫：縦型	容量	250L以下	S-005562	-	kWh/年	年間消費電力 量	標準規格に よる評価	JISB8630:20 09	業務用の電気 冷蔵庫及び電 気冷凍庫一特 性及び試験方 法	JISB8630:2009に準拠	JISB8630:20 09	業務用の電気 冷蔵庫及び電 気冷凍庫一特 性及び試験方 法	JISB8630:2009に準拠	
								250L超350L以下	S-005561	-										
								350L超	S-005560	-										
						冷蔵庫：縦型	容量	700L以下	S-005559	-	kWh/年	年間消費電力 量	標準規格に よる評価	JISB8630:20 09	業務用の電気 冷蔵庫及び電 気冷凍庫一特 性及び試験方 法	JISB8630:2009に準拠	JISB8630:20 09	業務用の電気 冷蔵庫及び電 気冷凍庫一特 性及び試験方 法	JISB8630:2009に準拠	
								700L超900L以下	S-005558	-										
								900L超1200L以下	S-005557	-										
								1200L超1500L以下	S-005556	-										
								1500L超	S-005555	-										

L2-Tech リスト№	区分			設備・機器等の 名称	原理・しくみ	クラス			L2-Tech 水準表 情報№	L2-Tech 水準	指標								
	部門1	部門2	技術分類			条件	クラス能力(名称)	クラス能力(単位)			測定単位	評価方法の タイプ	標準規格		計算方法		試験条件		
													単位	名称	標準規格による評価	規格の名称	計算式	標準規格	規格の名称
						冷凍冷蔵庫：横型(冷凍室1室)	容量	250L以下	S-005554	-	kWh/年	年間消費電力量	標準規格による評価	JISB8630:2009	業務用の電気冷蔵庫及び電気冷凍庫－特性及び試験方法	JISB8630:2009に準拠	JISB8630:2009	業務用の電気冷蔵庫及び電気冷凍庫－特性及び試験方法	JISB8630:2009に準拠
							250L超350L以下	S-005553	-										
							350L超	S-005552	-										
						冷凍冷蔵庫：縦型(冷凍室1室)	容積	1200L以下	S-005551	-	kWh/年	年間消費電力量	標準規格による評価	JISB8630:2009	業務用の電気冷蔵庫及び電気冷凍庫－特性及び試験方法	JISB8630:2009に準拠	JISB8630:2009	業務用の電気冷蔵庫及び電気冷凍庫－特性及び試験方法	JISB8630:2009に準拠
							1200L超	S-005550	-										
							冷凍冷蔵庫：縦型(冷凍室2室)	容量	900L以下	S-005549				-		kWh/年	年間消費電力量		標準規格による評価
						900L超1200L以下	S-005548	-											
						1200L超	S-005547	-											
						L-000985	産業・業務(業種共通)	動力他	冷凍冷蔵庫	空気冷媒方式冷凍機	空気の断熱膨張における温度低下により、マイナス50～100℃の空気を冷やす冷凍機。	庫容量(有効容積)1300m3	-	S-005546	0.4 *	-	成績係数(COP)	標準条件による評価	-
庫容量(有効容積)2600m3	-	S-005545	0.4 *	成績係数(COP)	標準条件による評価							-	-	COP=Φ/P、COP:成績係数、Φ:定格能力[W]、P:定格消費エネルギー[W]	成績係数(COP)の算出にあたっては、庫内温度を次のとおり設定することを条件とする。なお、附属する機器動力も加味した定格消費エネルギーを用いる。庫内温度：-60℃				
L-000986	産業・業務(業種共通)	動力他	冷凍冷蔵庫	冷凍冷蔵庫用自然冷媒冷凍機(アンモニア/CO2二次冷媒システム)	アンモニアを一次冷媒、二酸化炭素を二次冷媒(マイナス5～マイナス40℃程度)とし、それを庫内に循環させる冷凍機。	庫内温度:-20℃超10℃以下、CO2温度:-17℃超-5℃以下、冷却水入り口温度:32℃	冷凍能力	100kW以下	S-005544	-	-	成績係数(COP)	標準条件による評価	-	-	COP=Φ/P COP:成績係数 Φ:定格能力[W] P:定格消費エネルギー[W]	-	-	成績係数(COP)の算出にあたっては、凝縮温度、CO2温度をそれぞれ以下のとおり設定することを条件とする。CO2温度:-17℃超-5℃以下、冷却水入り口温度:32℃
						100kW超200kW以下	S-005543	-											
						200kW超	S-005542	3.41 *											
						庫内温度:-20℃超10℃以下、CO2温度:-17℃超-5℃以下、冷却水入り口温度:30℃	冷凍能力	50kW以下	S-005541	2.7 *	成績係数(COP)	標準条件による評価	-	-	COP=Φ/P COP:成績係数 Φ:定格能力[W] P:定格消費エネルギー[W]	成績係数(COP)の算出にあたっては、CO2温度、冷却水入り口温度をそれぞれ以下のとおり設定することを条件とする。CO2温度:-17℃超-5℃以下、冷却水入り口温度:30℃			
						50kW超	S-005540	-											
庫内温度:-20℃超10℃以下、CO2温度:-17℃超-5℃以下、吸込空気温度:32℃	冷凍能力	50kW以下	S-005539	1.8 *	成績係数(COP)	標準条件による評価	-	-	COP=Φ/P COP:成績係数 Φ:定格能力[W] P:定格消費エネルギー[W]	成績係数(COP)の算出にあたっては、CO2温度、吸込空気温度をそれぞれ以下のとおり設定することを条件とする。CO2温度:-17℃超-5℃以下、吸込空気温度:32℃									
50kW超	S-005538	-																	
庫内温度-40℃超-20℃以下	冷凍能力	50kW以下	S-005537	2.04 *	成績係数(COP)	標準条件による評価	-	-	COP=Φ/P、COP:成績係数、Φ:定格能力[W]、P:定格消費エネルギー[W]	成績係数(COP)の算出にあたっては、CO2温度、冷却水入り口温度をそれぞれ次のとおり設定することを条件とする。CO2温度:-37℃超-27℃以下、冷却水入り口温度:32℃									

L2-Tech リストNo	区分			設備・機器等の 名称	原理・しくみ	クラス			L2-Tech 水準表 情報No	L2-Tech 水準	指標												
	部門1	部門2	技術分類			条件	クラス能力(名称)	クラス能力(単位)			測定単位		評価方法の タイプ	計算方法			試験条件						
											単位	名称		標準規格	規格の名称	計算式	標準する規格	規格の名称	説明				
							50kW超 150kW以下	S-005536	2.32 *														
							150kW超 250kW以下	S-005535	2.32 *														
							250kW超	S-005534	2.31 *														
L-000987	産業・業 務(業種 共通)	動力他	冷凍冷蔵 機器	自然冷凍冷蔵 凝結コンデンシン グユニット	フロン冷媒により駆動する。従来のコンデンシングユニットに対し て、CO2等の自然冷媒により駆動するコンデンシングユニット	中温用(吸込み圧力飽和温度 10℃)、吸込ガス過熱度 10K、周囲温度32℃	冷凍能力	16.0kW以下	S-005533	2.02	-	成績係数 (COP)	標準規格に よる評価	JRA4019: 2014	コンデンシン グユニット	COP=Φ/P、COP:成績係数、Φ:定格能力[W]、P:定 格消費電力[W]	JRA4019: 2014	コンデンシン グユニット	JRA4019: 2014に準拠				
								16.0kW超24.0kW以下	S-005532	-													
								24.0kW超36.0kW以下	S-005531	1.84													
								36.0kW超	S-005530	-													
						低温用(吸込み圧力飽和温度 -40℃)、吸込ガス過熱度 10K、周囲温度32℃	冷凍能力	8.0kW以下	S-005529	1.01	-	成績係数 (COP)	標準規格に よる評価	JRA4019: 2014	コンデンシン グユニット	COP=Φ/P、COP:成績係数、Φ:定格能力[W]、P:定 格消費電力[W]	JRA4019: 2014	コンデンシン グユニット	JRA4019: 2014に準拠				
								8.0kW超12.0kW以下	S-005528	-													
								12.0kW超18.0kW以下	S-005527	0.95													
								18.0kW超	S-005526	-													
						中温用(吸込み圧力飽和温度 10℃)、吸込ガス温度 18℃、空冷式の凝縮器、凝 縮器に流入空気温度32℃、 周囲温度32℃	冷凍能力	8.0kW以下	S-005525	2.1	-	成績係数 (COP)	標準規格に よる評価	JRA 4019:2014	コンデンシン グユニット	COP=Φ/P、COP:成績係数、Φ:定格能力[W]、P:定 格消費電力[W]	JRA4019: 2014	コンデンシン グユニット	JRA4019: 2014に準拠				
								8.0kW超16.0kW以下	S-005524	1.77													
								16.0kW超24.0kW以下	S-005523	1.68													
								24.0kW超36.0kW以下	S-005522	1.77													
								36.0kW超	S-005521	-													
						低温用(吸込み圧力飽和温度 -40℃)、吸込ガス温度 18℃、空冷式の凝縮器、凝 縮器に流入空気温度32℃、 周囲温度32℃	冷凍能力	4.0kW以下	S-005520	0.94	-	成績係数 (COP)	標準規格に よる評価	JRA 4019:2014	コンデンシン グユニット	COP=Φ/P、COP:成績係数、Φ:定格能力[W]、P:定 格消費電力[W]	JRA4019: 2014	コンデンシン グユニット	JRA4019: 2014に準拠				
								4.0kW超8.0kW以下	S-005519	0.91													
								8.0kW超12.0kW以下	S-005518	0.85													
								12.0kW超18.0kW以下	S-005517	0.91													

L2-Tech リストNo	区分			設備・機器等の 名称	原理・しくみ	クラス			L2-Tech 水準表 情報No	L2-Tech 水準	指 標								
	部門1	部門2	技術分類			条 件	クラス 能力(名称)	クラス 能力(単位)			測 定 単 位	測 定 名 称	評価方法の タイプ	計算方法			試験条件		
														準拠する規格	規格の名称	計算式	準拠する規格	規格の名称	説明
						カラー印刷機能有	-	-	S-005491	-	kWh	概念的1週間 (稼働とス リープオフ が繰り返さ れる5日間+ス リープオフ 状態の2日 間)の消費電 力量 (TEC消 費電力量)	標準規格に よる評価	-	国際エネル ギースター プログラム	国際エネルギースタープログラムで定める計算式	-	国際エネル ギースター プログラム	国際エネルギースタープログラムで定める試験条 件
L-000990	産業・業 務(業種 共通)	動力他	プリンタ/ 複写機	複合機	複写機能、プリンタ機能、スキャナ機能、ファクシミリ機能のうち 2つ以上の機能を有する機器である。	カラー複写機能無	-	-	S-005490	-	kWh	概念的1週間 (稼働とス リープオフ が繰り返さ れる5日間+ス リープオフ 状態の2日 間)の消費電 力量 (TEC消 費電力量)	標準規格に よる評価	-	国際エネル ギースター プログラム	国際エネルギースタープログラムで定める計算式	-	国際エネル ギースター プログラム	国際エネルギースタープログラムで定める試験条 件
						カラー複写機能有	-	-	S-005489	-	kWh	概念的1週間 (稼働とス リープオフ が繰り返さ れる5日間+ス リープオフ 状態の2日 間)の消費電 力量 (TEC消 費電力量)	標準規格に よる評価	-	国際エネル ギースター プログラム	国際エネルギースタープログラムで定める計算式	-	国際エネル ギースター プログラム	国際エネルギースタープログラムで定める試験条 件
L-000991	産業・業 務(業種 共通)	動力他	モータ	誘導モータ	回転子、固定子ともに金属を使用し、固定子に交流電流を流して回 転磁界を発生させるとともに、回転子にも誘導電流が流れて磁界が 生ずることにより、回転子を得るモータ。産業機械・工作機械等に 幅広く用いられる。鉄芯、巻線、冷却ファン等の改善により損失を 低減し高効率化が図られている。	50Hz、200V、極数2	容量	0.75kW以下	S-005488	85	%	エネルギー消 費効率	標準規格に よる評価	JIS C 4034- 2-1:2011また はJIS C 4213:2014	回転電気機械 -第2-1 部：単一速 度三相かご形誘 導電動機の損 失及び効率の 算定方法また は低圧三相か ご形誘導電動 機-低圧トッ プランナー モータ	JIS C 4034-2-1:2011またはJIS C 4213:2014に準拠	JIS C 4034- 2-1:2011また はJIS C 4213:2014	回転電気機械 -第2-1 部：単一速 度三相かご形誘 導電動機の損 失及び効率の 算定方法また は低圧三相か ご形誘導電動 機-低圧トッ プランナー モータ	JIS C 4034-2-1:2011またはJIS C 4213:2014に準 拠。ただし、負荷を100%とする。
								0.75kW超1.1kW以下	S-005487	85.5									
								1.1kW超1.5kW以下	S-005486	89.4									
								1.5kW超2.2kW以下	S-005485	89.5									
								2.2kW超3.0kW以下	S-005484	-									
								3.0kW超3.7kW以下	S-005483	89.9									
								3.7kW超4.0kW以下	S-005482	-									
								4.0kW超5.5kW以下	S-005481	91.2									
								5.5kW超7.5kW以下	S-005480	91.5									
								7.5kW超11.0kW以下	S-005479	91.9									
								11.0kW超15.0kW以下	S-005478	92.2									
								15.0kW超18.5kW以下	S-005477	93.1									

L2-Tech リスト№	区分			設備・機器等の 名称	原理・しくみ	クラス			L2-Tech 水準表 情報№	L2-Tech 水準	指 標													
	部門1	部門2	技術分類			条 件	クラス 能力(名称)	クラス 能力(単位)			測定単位		評価方法の タイプ	計算方法			試験条件							
											単 位	名 称		準拠する規格	規格の名称	計算式	準拠する規格	規格の名称	説明					
						18.5kW超22.0kW以下	S-005476		93.8															
						22.0kW超30.0kW以下	S-005475		94															
						30.0kW超37.0kW以下	S-005474		94.3															
						37.0kW超	S-005473		96.2															
					50Hz、200V、極数4	容量	0.75kW以下	S-005472	84.8	%	エネルギー消 費効率	標準規格に よる評価	JIS C 4034- 2-1:2011また はJIS C 4213:2014	回転電気機械 —第2—1 部：単一速度 三相かご形誘 導電動機の損 失及び効率の 算定方法または 低圧三相か ご形誘導電動 機—低圧トッ プランナー モータ	JIS C 4034-2-1:2011またはJIS C 4213:2014に準拠	JIS C 4034- 2-1:2011また はJIS C 4213:2014	回転電気機械 —第2—1 部：単一速度 三相かご形誘 導電動機の損 失及び効率の 算定方法または 低圧三相か ご形誘導電動 機—低圧トッ プランナー モータ	JIS C 4034-2-1:2011またはJIS C 4213:2014に準拠。ただし、負荷を100%とする。						
						0.75kW超1.1kW以下	S-005471		-															
						1.1kW超1.5kW以下	S-005470		86.9															
						1.5kW超2.2kW以下	S-005469		88.6															
						2.2kW超3.0kW以下	S-005468		-															
						3.0kW超3.7kW以下	S-005467		89.4															
						3.7kW超4.0kW以下	S-005466		-															
						4.0kW超5.5kW以下	S-005465		91.9															
						5.5kW超7.5kW以下	S-005464		91.7															
						7.5kW超11.0kW以下	S-005463		92.5															
						11.0kW超15.0kW以下	S-005462		93.1															
						15.0kW超18.5kW以下	S-005461		94.1															
						18.5kW超22.0kW以下	S-005460		93.9															
						22.0kW超30.0kW以下	S-005459		94.5															
						30.0kW超37.0kW以下	S-005458		95.1															

L2-Tech リスト№	区分			設備・機器等の 名称	原理・しくみ	クラス			L2-Tech 水準表 情報№	L2-Tech 水準	指 標													
	部門1	部門2	技術分類			条 件	クラス 能力(名称)	クラス 能力(単位)			測定単位		評価方法の タイプ	計算方法			試験条件							
											単 位	名 称		準拠する規格	規格の名称	計算式	準拠する規格	規格の名称	説 明					
						3.0kW超3.7kW以下	S-005419	90.7																
						3.7kW超4.0kW以下	S-005418	-																
						4.0kW超5.5kW以下	S-005417	92.8																
						5.5kW超7.5kW以下	S-005416	92.9																
						7.5kW超11.0kW以下	S-005415	93.3																
						11.0kW超15.0kW以下	S-005414	93.6																
						15.0kW超18.5kW以下	S-005413	94.7																
						18.5kW超22.0kW以下	S-005412	94.7																
						22.0kW超30.0kW以下	S-005411	94.9																
						30.0kW超37.0kW以下	S-005410	95.7																
						37.0kW超	S-005409	96.3																
					60Hz、220V、極数6	容量	0.75kW以下	S-005408	85.3	%	エネルギー消 費効率	標準規格に よる評価	JIS C 4034- 2:2011または JIS C 4213:2014	回転電気機械 部、単一速度 三相かご形誘 導電動機の損 失及び効率の 算定方法または 低圧三相か ご形誘導電動 機—低圧トッ プランナー モータ	JIS C 4034-2:1.2011または JIS C 4213:2014に準拠	JIS C 4034- 2:1.2011または JIS C 4213:2014	回転電気機械 部、単一速度 三相かご形誘 導電動機の損 失及び効率の 算定方法または 低圧三相か ご形誘導電動 機—低圧トッ プランナー モータ	JIS C 4034-2:1.2011またはJIS C 4213:2014に準 拠。ただし、負荷を100%とする。						
						0.75kW超1.1kW以下	S-005407	-																
						1.1kW超1.5kW以下	S-005406	-																
						1.5kW超2.2kW以下	S-005404	90.4																
						2.2kW超3.0kW以下	S-005403	-																
						3.0kW超3.7kW以下	S-005401	90.6																
						3.7kW超4.0kW以下	S-005399	-																
						4.0kW超5.5kW以下	S-005397	92.2																
						5.5kW超7.5kW以下	S-005396	92.4																

L2-Tech リストNo	区分			設備・機器等の 名称	原理・しくみ	クラス			L2-Tech 水準表 情報No	L2-Tech 水準	指 標												
	部門1	部門2	技術分類			条 件	クラス 能力(名称)	クラス 能力(単位)			測定単位		評価方法の タイプ	計算方法			試験条件						
											単 位	名 称		準拠する規格	規格の名称	計算式	準拠する規格	規格の名称	説 明				
							7.5kW超11.0kW以下	S-005394	93.2														
							11.0kW超15.0kW以下	S-005393	93.4														
							15.0kW超18.5kW以下	S-005392	93.7														
							18.5kW超22.0kW以下	S-005391	94.3														
							22.0kW超30.0kW以下	S-005390	94.8														
							30.0kW超37.0kW以下	S-005389	94.9														
							37.0kW超	S-005388	95.3														
L-000992	産業・業 務(業種 共通)	動力他	モータ	永久磁石同期 モータ	回転子に永久磁石を使用した同期モータのうち、サーボモータを含まないもの。鉄道車両・自動車・産業機械等、幅広く用いられる。	容量	0.75kW以下	S-005387	92.3	%	エネルギー消 費効率	標準規格に よる評価	JISC4034-2- 1:2011	回転電気機械 一第2-1 部：単一速度 三相かご形誘 導電動機の損 失及び効率の 算定方法	JISC4034-2-1:2011に準拠	JISC4034-2- 1:2011	回転電気機械 一第2-1 部：単一速度 三相かご形誘 導電動機の損 失及び効率の 算定方法	JISC4034-2-1:2011に準拠					
							0.75kW超1.5kW以下	S-005386	90.4														
							1.5kW超2.2kW以下	S-005385	92.5														
							2.2kW超3.7kW以下	S-005383	94.8														
							3.7kW超5.5kW以下	S-005382	94.3														
							5.5kW超7.5kW以下	S-005378	94.8														
							7.5kW超11kW以下	S-005380	94.3														
							11kW超15kW以下	S-005377	95														
							15kW超18.5kW以下	S-005375	94.9														
							18.5kW超22kW以下	S-005374	96.2														
							22kW超30kW以下	S-005372	96.3														
							30kW超37kW以下	S-005370	95.6														
							37kW超45kW以下	S-005369	95.9														
							45kW超55kW以下	S-005368	96.1														

L2-Tech リスト№	区分			設備・機器等の 名称	原理・しくみ	クラス			L2-Tech 水準表 情報№	L2-Tech 水準	指 標								
	部門1	部門2	技術分類			条 件	クラス 能力(名称)	クラス 能力(単位)			測定単位		評価方法の タイプ	計算方法			試験条件		
											単 位	名 称		準拠する規格	規格の名称	計算式	準拠する規格	規格の名称	説 明
							55kW超75kW以下	S-005367	97.4										
							75kW超90kW以下	S-005365	96.2										
							90kW超110kW以下	S-005364	96.6										
							110kW超132kW以下	S-005363	97										
							132kW超160kW以下	S-005362	97.2										
							160kW超	S-005360	-										
L-000993	産業・業 務(業種 共通)	動力他	変圧器	油入変圧器	電磁誘導を利用し、用途に応じて交流電圧を昇降させる装置。低損失磁性体材料を使用する低損失構造とする等、損失を低減する工夫がなされている。クラフト紙・プレスボード等の絶縁物と絶縁油にて構成されている。	油入変圧器、三相、50Hz	定格容量	20kVA以下	S-005358	82	W	全損失	標準規格による評価	JISC4304:2013	配電用 6 kV 油入変圧器	JISC4304:2013に準拠	JISC4304:2013	配電用 6 kV 油入変圧器	JISC4304:2013に準拠
								20kVA超30kVA以下	S-005357	123									
								30kVA超50kVA以下	S-005356	187									
								50kVA超75kVA以下	S-005355	225									
								75kVA超100kVA以下	S-005353	265									
								100kVA超150kVA以下	S-005352	322									
								150kVA超200kVA以下	S-005350	412									
								200kVA超300kVA以下	S-005349	553									
								300kVA超500kVA以下	S-005348	833									
								500kVA超750kVA以下	S-005347	1453									
								750kVA超1000kVA以下	S-005346	1938									
								1000kVA超1500kVA以下	S-005345	2750									
								1500kVA超2000kVA以下	S-005344	3700									
						油入変圧器、三相、60Hz	定格容量	20kVA以下	S-005343	72	W	全損失	標準規格による評価	JISC4304:2013	配電用 6 kV 油入変圧器	JISC4304:2013に準拠	JISC4304:2013	配電用 6 kV 油入変圧器	JISC4304:2013に準拠
								20kVA超30kVA以下	S-005342	115									
								30kVA超50kVA以下	S-005341	182									

L2-Tech リスト№	区分			設備・機器等の 名称	原理・しくみ	クラス			L2-Tech 水準表 情報№	L2-Tech 水準	指 標								
	部門1	部門2	技術分類			条 件	クラス 能力(名称)	クラス 能力(単位)			測定単位		評価方法の タイプ	計算方法			試験条件		
											単 位	名 称		準拠する規格	規格の名称	計算式	準拠する規格	規格の名称	説 明
							20kVA超30kVA以下	S-005313	95										
							30kVA超50kVA以下	S-005312	139										
							50kVA超75kVA以下	S-005310	154										
							75kVA超100kVA以下	S-005309	202										
							100kVA超150kVA以下	S-005307	262										
							150kVA超200kVA以下	S-005306	328										
							200kVA超300kVA以下	S-005304	431										
							300kVA超500kVA以下	S-005303	755										
L-000994	産業・業 務(業種 共通)	動力他	変圧器	モールド変圧器	電磁誘導を利用し、用途に応じて交流電圧を昇降させる装置。低損失磁性体材料を使用する低損失構造とする等、損失を低減する工夫がなされている。耐熱絶縁電線のコイルを構成し、エポキシ樹脂でモールドされている。	モールド変圧器、三相、50Hz	定格容量	20kVA以下	S-005302	167	W	全損失	標準規格による評価	JISC4306:2013	配電用6kVモールド変圧器	JISC4306:2013に準拠	JISC4306:2013	配電用6kVモールド変圧器	JISC4306:2013に準拠
								20kVA超30kVA以下	S-005301	201									
								30kVA超50kVA以下	S-005300	311									
								50kVA超75kVA以下	S-005298	244									
								75kVA超100kVA以下	S-005297	309									
								100kVA超150kVA以下	S-005296	411									
								150kVA超200kVA以下	S-005294	460									
								200kVA超300kVA以下	S-005292	581									
								300kVA超500kVA以下	S-005291	899									
								500kVA超750kVA以下	S-005289	1675									
								750kVA超1000kVA以下	S-005288	2094									
								1000kVA超1500kVA以下	S-005286	3300									
								1500kVA超2000kVA以下	S-005284	4088									
						モールド変圧器、三相、60Hz	定格容量	20kVA以下	S-005282	157	W	全損失	標準規格による評価	JISC4306:2013	配電用6kVモールド変圧器	JISC4306:2013に準拠	JISC4306:2013	配電用6kVモールド変圧器	JISC4306:2013に準拠

L2-Tech リスト№	区分			設備・機器等の 名称	原理・しくみ	クラス			L2-Tech 水準表 情報№	L2-Tech 水準	指標										
	部門1	部門2	技術分類			条件	クラス能力(名称)	クラス能力(単位)			測定単位		評価方法の タイプ	計算方法		試験条件					
											単位	名称		標準規格に よる評価	規格の名称	標準規格	規格の名称	標準規格	規格の名称	説明	
						モールド変圧器、単相、60Hz	定格容量	10kVA以下	S-005250	73	W	全損失	標準規格に よる評価	JISC4306:2013	配電用6kV モールド変圧 器	JISC4306:2013に準拠	JISC4306:2013	配電用6kV モールド変圧 器	JISC4306:2013に準拠		
								10kVA超20kVA以下	S-005249	110											
								20kVA超30kVA以下	S-005248	150											
								30kVA超50kVA以下	S-005247	149											
								50kVA超75kVA以下	S-005246	149											
								75kVA超100kVA以下	S-005245	228											
								100kVA超150kVA以下	S-005244	285											
								150kVA超200kVA以下	S-005243	268											
								200kVA超300kVA以下	S-005242	491											
								300kVA超500kVA以下	S-005241	785											
L-001003	産業・業務 (業種 共通)	動力他	モータ利用機器 (圧縮機)	蒸気駆動圧縮機	従来の電動コンプレッサと異なり、動力源として電動モータではなく、スチームモータを搭載する。スチームモータは、蒸気を減圧する際に発生するエネルギーを駆動源とする圧縮機。従来の電動コンプレッサ（圧縮機）と比較し、減圧エネルギーを有効利用できるためCO2削減に優れる。ボイラ設備（ボイラ、軟水装置、給水タンク）の蒸気配管減圧弁に並列して設置し、本商品を減圧弁の代替として利用する。	容量、消費蒸気量	37kW、79kg/h	S-005240	6.95 *	%	消費蒸気原単位	標準条件による評価	-	-	E=B/(A-C)、E:消費蒸気原単位[-]、A:消費蒸気量[kW]、B:吐出空気量[m3/min]、C:回収熱量[kW]	JISB8341-2008	容積形圧縮機	JISB8341-2008	容積形圧縮機	JISB8341-2008に準拠。ただし、回収熱量については温水入口温度と温水出口温度を次のとおり設定することを条件とする。温水入口温度:15℃、温水出口温度:50℃以上。また、消費蒸気量はメーカー指示値(性能表等)を参照する。	
							55kW、106kg/h	S-005239	1.93 *												
							75kW、178kg/h	S-005238	2.18 *												
						高圧蒸気仕様	容量、消費蒸気量	75kW、247kg/h	S-005237	0.6 *	%	消費蒸気原単位	標準条件による評価	-	-	E=B/(A-C)、E:消費蒸気原単位[-]、A:消費蒸気量[kW]、B:吐出空気量[m3/min]、C:回収熱量[kW]	JISB8341-2008	容積形圧縮機	JISB8341-2008	容積形圧縮機	JISB8341-2008に準拠。ただし、回収熱量については温水入口温度と温水出口温度を次のとおり設定することを条件とする。温水入口温度:15℃、温水出口温度:50℃以上。また、消費蒸気量はメーカー指示値(性能表等)を参照する。
L-001004	産業・業務 (業種 共通)	動力他	モータ利用機器 (圧縮機)	熱回収式ねじ容積形圧縮機	従来は、廃棄されていた圧縮熱を温水として供給可能なねじ容積形圧縮機。コンプレッサの廃熱を温水として回収するために軟水装置から軟水を通過させ、70℃の温水をボイラ給水へ戻すことでボイラの燃料消費量が低減可能。また、直接温水利用することも可能。	給油式 容量、熱回収量	37kW、25kW	S-005236	0.41 *	%	エネルギー原単位	標準条件による評価	JISB8341-2008	容積形圧縮機	E=B/(A-C)、E:エネルギー原単位[-]、A:軸動力[kW]、B:吐出空気量[m3/min]、C:回収熱量[kW]	JISB8341-2008	容積形圧縮機	JISB8341-2008	容積形圧縮機	JISB8341-2008に準拠。ただし、回収熱量については温水入口温度と温水出口温度を次のとおり設定することを条件とする。温水入口温度:15℃、温水出口温度:50℃以上	
							75kW、60kW	S-005235	0.88 *												
						オイルフリー式	容量、熱回収量	37kW、25kW	S-005780	0.41 *	%	エネルギー原単位	標準条件による評価	JISB8341-2008	容積形圧縮機	E=B/(A-C)、E:エネルギー原単位[-]、A:軸動力[kW]、B:吐出空気量[m3/min]、C:回収熱量[kW]	JISB8341-2008	容積形圧縮機	JISB8341-2008	容積形圧縮機	JISB8341-2008に準拠。ただし、回収熱量については温水入口温度と温水出口温度を次のとおり設定することを条件とする。温水入口温度:15℃、温水出口温度:50℃以上
							75kW、60kW	S-005781	0.87 *												

L2-Tech リスト№	区分			設備・機器等の 名称	原理・しくみ	クラス			L2-Tech 水準表 情報№	L2-Tech 水準	指 標								
	部門1	部門2	技術分類			条 件	クラス 能力(名称)	クラス 能力(単位)			測定単位		評価方法の タイプ	計算方法		試験条件			
											単 位	名 称		標準規格による評価	規格の名称	標準規格による評価	規格の名称	備 考	
L-001017	産業・業務 (業種 共通)	断熱	窓	Low-E複層ガラス	複層ガラスの中空層側のガラス面にLow-E金属膜をコーティングすることで放射による熱移動量を低減したガラス。断熱を行うことによって、より少ないエネルギーで空調を行うことができるようになる。	新築用	-	-	S-005234	2.5	W/m2K	熱貫流率	標準規格による評価	JIS R3107:1998及びJIS R3209:1998	板ガラス類の熱抵抗及び建築における熱貫流率の算定方法及び複層ガラス	JIS R3107:1998及びJIS R3209:1998に準拠	JIS R3107:1998及びJIS R3209:1998	板ガラス類の熱抵抗及び建築における熱貫流率の算定方法及び複層ガラス	JIS R3107:1998及びJIS R3209:1998に準拠。ただし、L2-Tech水準は、LE3+AE+FL3のガラス構成における数値を示す。
L-001018	産業・業務 (業種 共通)	断熱	窓	三層Low-E複層ガラス	三層で構成される複層ガラスの中空層側のガラス面にLow-E金属膜をコーティングすることで放射による熱移動量を低減したガラス。断熱を行うことによって、より少ないエネルギーで空調を行うことができるようになる。	新築用	-	-	S-005233	0.8	W/m2K	熱貫流率	標準規格による評価	JIS R3107:1998及びJIS R3209:1998	板ガラス類の熱抵抗及び建築における熱貫流率の算定方法及び複層ガラス	JIS R3107:1998及びJIS R3209:1998に準拠	JIS R3107:1998及びJIS R3209:1998	板ガラス類の熱抵抗及び建築における熱貫流率の算定方法及び複層ガラス	JIS R3107:1998及びJIS R3209:1998に準拠。ただし、L2-Tech水準は、LE3+Ar1+FL3+Ar1+LE3のガラス構成における数値を示す。
L-001019	産業・業務 (業種 共通)	断熱	窓	真空Low-E複層ガラス	真空ガラスとLow-Eガラスを組み合わせた複層ガラスにすることで、放射による熱移動量を低減したガラス。断熱を行うことによって、より少ないエネルギーで空調を行うことができるようになる。	新築用	-	-	S-005232	0.74	W/m2K	熱貫流率	標準規格による評価	JIS R3107:1998及びJIS R3209:1998	板ガラス類の熱抵抗及び建築における熱貫流率の算定方法及び複層ガラス	JIS R3107:1998及びJIS R3209:1998に準拠	JIS R3107:1998及びJIS R3209:1998	板ガラス類の熱抵抗及び建築における熱貫流率の算定方法及び複層ガラス	JIS R3107:1998及びJIS R3209:1998に準拠。ただし真空ガラスについては、複層ガラスの性能の向上に関する熱損失防止建築材料製造事業者等の判断の基準等(平成26年11月28日経済産業省告示第235号)に準拠
L-001020	産業・業務 (業種 共通)	断熱	窓	アタッチメント付きLow-E複層ガラス	複層ガラスの中空層側のガラス面にLow-E金属膜をコーティングすることで放射による熱移動量を低減したガラス。アタッチメントにより、ガラス部分のみを既存サッシに取り付けられるため、大がかりな工事を必要としない。断熱を行うことにより、より少ないエネルギーで空調を行うことができるようになる。	リフォーム用	-	-	S-005231	2.6	W/m2K	熱貫流率	標準規格による評価	JIS R3107:1998及びJIS R3209:1998	板ガラス類の熱抵抗及び建築における熱貫流率の算定方法及び複層ガラス	JIS R3107:1998及びJIS R3209:1998に準拠	JIS R3107:1998及びJIS R3209:1998	板ガラス類の熱抵抗及び建築における熱貫流率の算定方法及び複層ガラス	JIS R3107:1998及びJIS R3209:1998に準拠。ただし、L2-Tech水準は、LE3+Ar4+FL3(アタッチメント付き)のガラス構成における数値を示す。
L-001021	産業・業務 (業種 共通)	断熱	窓	真空ガラス	2枚のガラスの間に真空層を設けることで、熱移動量を低減したガラス。断熱を行うことによって、より少ないエネルギーで空調を行うことができるようになる。	リフォーム用	-	-	S-005230	1	W/m2K	熱貫流率	標準規格による評価	JIS R3107:1998及びJIS R3209:1998	板ガラス類の熱抵抗及び建築における熱貫流率の算定方法及び複層ガラス	JIS R3107:1998及びJIS R3209:1998に準拠	JIS R3107:1998及びJIS R3209:1998	板ガラス類の熱抵抗及び建築における熱貫流率の算定方法及び複層ガラス	JIS R3107:1998及びJIS R3209:1998に準拠。ただし真空ガラスについては、複層ガラスの性能の向上に関する熱損失防止建築材料製造事業者等の判断の基準等(平成26年11月28日経済産業省告示第235号)に準拠
L-001022	産業・業務 (業種 共通)	断熱	窓	現場施工型後付けLow-E複層ガラス	既存の窓ガラスの上からLow-Eガラスを貼ることでLow-E複層ガラスとして放射による熱移動量を低減したガラス。断熱を行うことによって、より少ないエネルギーで空調を行うことができるようになる。	リフォーム用	-	-	S-005229	1.6	W/m2K	熱貫流率	標準規格による評価	JIS R3107:1998及びJIS R3209:1998	板ガラス類の熱抵抗及び建築における熱貫流率の算定方法及び複層ガラス	JIS R3107:1998及びJIS R3209:1998に準拠	JIS R3107:1998及びJIS R3209:1998	板ガラス類の熱抵抗及び建築における熱貫流率の算定方法及び複層ガラス	JIS R3107:1998及びJIS R3209:1998に準拠。ただし、L2-Tech水準は、LE3+Ar2+FL3とする。
L-001023	産業・業務 (業種 共通)	断熱	窓	薄型Low-E複層ガラス	複層ガラスの中空層側のガラス面にLow-E金属膜をコーティングすることで放射による熱移動量を低減したガラス。アタッチメントを使用せずにガラス部分のみを既存サッシに取り付けることができる。断熱を行うことによって、より少ないエネルギーで空調を行うことができるようになる。	リフォーム用	-	-	S-005228	2.5	W/m2K	熱貫流率	標準規格による評価	JIS R3107:1998及びJIS R3209:1998	板ガラス類の熱抵抗及び建築における熱貫流率の算定方法及び複層ガラス	JIS R3107:1998及びJIS R3209:1998に準拠	JIS R3107:1998及びJIS R3209:1998	板ガラス類の熱抵抗及び建築における熱貫流率の算定方法及び複層ガラス	JIS R3107:1998及びJIS R3209:1998に準拠。ただし、L2-Tech水準を示すガラス構成をLE3+Kr2+FL3とする。

L2-Tech リスト№	区分			設備・機器等の 名称	原理・しくみ	クラス			L2-Tech 水準表 情報№	L2-Tech 水準	指 標									
	部門1	部門2	技術分類			条 件	クラス 能力(名称)	クラス 能力(単位)			測定単位		評価方法の タイプ	計算方法		試験条件				
											単 位	名 称		標準する規格	規格の名称	標準する規格	規格の名称	備 考		
L-001024	産業・業 務(業種 共通)	断熱	断熱材	断熱材(押出法ポ リスチレン フォーム)	スチレン樹脂・発泡剤・難燃剤等を押出機中で混和・溶融し、大気 中に連続的に押し出して発泡させ、成型後、板状製品に裁断加工す ることで製造する。	-	-	-	S-005227	0.022	W/m・K	熱伝導率	標準規格に よる評価	JISA9511:20 06Rまたは JISA9521:20 14	発泡プラス チック保温材 または建築用 断熱材	JISA9511:2006Rまたは JISA9521:2014に準拠	JISA9511:20 06Rまたは JISA9521:20 14	発泡プラス チック保温材 または建築用 断熱材	JISA9511:2006Rまたは JISA9521:2014に準拠	
L-001025	産業・業 務(業種 共通)	断熱	断熱材	断熱材(グラス ウール)	原材料を1400℃程度の高温で溶解、スピナーと呼ばれる繊維化装置 に孔を開けることにより遠心力で繊維化し、結束剤を添加し綿状に することで製造する。	天井用	-	-	S-005226	-	W/m・K	熱伝導率	標準規格に よる評価	JISA9521:20 14	建築用断熱材	JISA9521:2014に準拠	JISA9521:20 14	建築用断熱材	JISA9521:2014に準拠	
						壁用	-	-	S-005225	-	W/m・K	熱伝導率	標準規格に よる評価	JISA9521:20 14	建築用断熱材	JISA9521:2014に準拠	JISA9521:20 14	建築用断熱材	JISA9521:2014に準拠	
L-001026	産業・業 務(業種 共通)	断熱	断熱材	真空断熱材	家庭用冷蔵庫の断熱材として使用されている真空断熱材を使用した 断熱材。住宅だけではなく非住宅のリフォーム(内貼断熱工法)に も向く。	-	-	-	S-005224	0.002 *	W/m・K	熱伝導率	標準規格に よる評価	JISA1412:20 16	熱絶縁材の熱 抵抗及び熱伝 導率の測定方 法	JISA1412:2016に準拠	JISA1412:20 16	熱絶縁材の熱 抵抗及び熱伝 導率の測定方 法	JISA1412:2016に準拠	
L-001027	産業・業 務(業種 共通)	乾燥	乾燥装置	蒸気リサイクル 型濃縮乾燥装置	濃縮乾燥プロセスにおいて、被処理物から蒸発した蒸気は従来木質 に捨てられていたが、この蒸気を圧縮機で昇温昇圧し、被処理物の 加熱源として再利用することにより、投入する化石燃料起因の蒸気 量を大幅に減し、CO2排出量削減に繋げる装置。	純水：沸点100℃(大気圧 下)	蒸発能力	150L/h	S-005223	1.79 *	-	成績係数 (COP)	実績値によ る評価	-	-	sysCOP=Cst+M/(Cst+Sn+Ce+E) Cst: 水蒸気 の100℃における全熱エンタルピーと25℃における 顕熱エンタルピーの差(=2571kJ/kg) M: 被処 理物から蒸発させた蒸気量[kg] S: ボイラー蒸気量 [kg] η: 熱損失(蒸気熱量/燃料熱量) Ce: 換算係数 3.6MJ/kWh E: 電力消費量[kWh]	-	-	-	・本装置は水蒸気と電力を入力として被処理物を 蒸留して濃縮・乾燥する装置であり、下記の試験 で得たエネルギーのインプット(熱量換算)でア ウトプット(蒸発蒸気の熱量)を除いて得た値 (システムCOP)。・最終処分場性能指標に基づ き、模擬浸出水の濃縮・乾燥を1m3/日以上、60日 以上行った際のデータに基づいて評価。・電源の 周波数は50Hzとする。・ボイラーはA重油吹き とする。
						750L/h	S-005222	1.79 *	-	-	-	-	-	-	-	-	-			
L-001028	産業・業 務(業種 共通)	動力他	洗濯機	業務用ヒートポン プ式衣類洗濯 乾燥機	洗濯機と乾燥機からなる。乾燥機部に排熱回収ヒートポンプシステ ムを搭載し、エバポレータにて衣類乾燥後の湿った空気から集めた 熱エネルギーを圧縮機で高温にする。高温の空気をスクワラで 110℃前後の(または「最大115℃の)温風機として放出すること で衣類を乾かす。従来ガス式と比較して、効率的に熱回収可能な 排熱回収ヒートポンプシステムを採用することで、効率よく乾燥 できる。導入先として、福祉施設、病院、等、幅広い施設が挙げら れる。	乾燥能力(JIMS規格)	9kg以上	S-005221	9.4	kWh/回	消費電力量	標準条件に よる評価	JIS C 9606及 びJIS C 9608	電気洗濯機、 回転ドラム式 電気衣類乾燥 機	JIS C 9606及びJIS C 9608に準拠。ただし、洗濯 乾燥1回あたりの電力消費量は、試験(4回以上) によって得られた値の平均値とする。	JIS C 9606及 びJIS C 9608	電気洗濯機、 回転ドラム式 電気衣類乾燥 機	JIS C 9606及びJIS C 9608に準拠。ただし、処理 物、処理条件は以下の通りとする。<処理物> 被 処理物: JIMS規格による標準洗濯乾燥容量の綿 100%バスタオル<処理条件> 定格電圧: 三相交 流200V 被処理物あたり水量: 5.0L/kg以上 被処理 物あたり洗濯時間: 洗濯、すすぎ、脱水工程で各 0.5min/kg以上 被処理物あたり乾燥時間: 4.0min/kg 以下 回転速度: 設定できる最速の設定(乾燥工程 はメーカー推奨の回転速度) 乾燥度(洗濯乾燥 後): 97%以上 試験回数: 4回以上		
L-001032	産業・業 務(業種 共通)	エネルギー サービス	エネルギ ーマネジ メント	BEMS(制御 サービス・空 調・熱源・中央 方式)	オフィスビルにおけるエネルギー管理システム、及び同システムを 用いたサービスのうち、セントラル空調を対象とした制御サービ ス。	空気熱源仕様	-	-	S-005220	別紙 *	%	エネルギー消 費効率	具備機能に よる評価	-	-	-	-	-	-	
						水熱源仕様	-	-	S-005219	別紙 *	%	エネルギー消 費効率	具備機能に よる評価	-	-	-	-	-		
L-001038	産業・業 務(業種 共通)	動力他	その他	サーバ用電子計 算機	ネットワーク上でサービス等を提供する24時間稼働することを前提 として設計された電子計算機であって、専らネットワークを介して アクセスされる。サーバ型電子計算機に搭載されているCPUは専用 CISC、RISC、IA64、IA32の4つに分類され、IA64、IA32とい った汎用CPUはエネルギー消費効率が高い。	H※区分は省エネルギー法 による	-	-	S-005218	-	W/GTOPS	エネルギー消 費効率	標準規格に よる評価	省エネルギー 法	省エネルギー法 で定める計算式	-	省エネルギー 法	省エネルギー法 で定める試験条件		
						I※区分は省エネルギー法に よる	-	-	S-005217	-	W/GTOPS	エネルギー消 費効率	標準規格に よる評価	省エネルギー 法	省エネルギー法 で定める計算式	-	省エネルギー 法	省エネルギー法 で定める試験条件		
						J※区分は省エネルギー法に よる	-	-	S-005216	-	W/GTOPS	エネルギー消 費効率	標準規格に よる評価	省エネルギー 法	省エネルギー法 で定める計算式	-	省エネルギー 法	省エネルギー法 で定める試験条件		
						K※区分は省エネルギー法に よる	-	-	S-005215	-	W/GTOPS	エネルギー消 費効率	標準規格に よる評価	省エネルギー 法	省エネルギー法 で定める計算式	-	省エネルギー 法	省エネルギー法 で定める試験条件		
						L※区分は省エネルギー法に よる	-	-	S-005214	-	W/GTOPS	エネルギー消 費効率	標準規格に よる評価	省エネルギー 法	省エネルギー法 で定める計算式	-	省エネルギー 法	省エネルギー法 で定める試験条件		
L-001054	産業(業 種固有)	建設	オフロード 特殊自 動車(建 設機械・ 内燃機関 型)	油圧ショベル (内燃機関型)	建設現場で使用される重機の一つ。ショベルカーとも呼ばれてお り、アームの先端に取り付けられたバケットによって掘削等の作業 を行う機械。軽油を燃料とするディーゼルエンジンで動力を得るも のが一般的である。低燃費型エンジンの導入や、情報化施工による 効率的な作業の実施により低炭素化を図ることで、CO2 排出量の削減 が可能となる。	標準バケット山積容量	0.25 m3以上0.36 m3未満	S-005213	-	kg/標準作 業	燃費	標準規格に よる評価	JCMASH020 :2014または JCMASH020 :2010	土工機械-エ ネルギー消費 量試験方法- 油圧ショベル	JCMASH020:2014または JCMASH020:2010に準拠	JCMASH020 :2014または JCMASH020 :2010	土工機械-エ ネルギー消費 量試験方法- 油圧ショベル	JCMASH020:2014または JCMASH020:2010に準拠		
						0.36 m3以上0.47 m3未満	S-005212	-	-	-	-	-	-							

L2-Tech リスト№	区分			設備・機器等の 名称	原理・しくみ	クラス			L2-Tech 水準表 情報№	L2-Tech 水準	指 標									
	部門1	部門2	技術分類			条 件	クラス 能力(名称)	クラス 能力(単位)			測定単位		評価方法の タイプ	計算方法			試験条件			
											単 位	名 称		準拠する規格	規格の名称	計算式	準拠する規格	規格の名称	説 明	
L-001088	産業（業 種固有）	食品品製 造業	洗浄乾燥 機	遠心脱水型コン テナ（容器）洗 浄乾燥機	洗浄水加熱用循環加熱ヒートポンプ、リンス水加熱用空気熱源ヒート ポンプ、遠心脱水型乾燥からなる。循環加熱ヒートポンプによっ て保温された洗浄槽で洗浄し、空気熱源ヒートポンプで加熱された 湯でリンスをし、遠心脱水機で乾燥をする設備。熱源機でつくった 熱風で乾燥する熱風方式と遠心脱水機で乾燥する遠心脱水方式があ る。従来型と比較してヒートポンプの採用により効率的に洗浄がで きる。遠心脱水機の採用により少ない水、消費エネルギーで乾燥がで きる。食品・飲料工場や自動車工場等、幅広い用途へ導入が可能で ある。	処理速度	75～150サイクル/h	S-005190	0.049	kWh/台	コンテナ1台 あたりの電力 消費量	標準条件に よる評価	-	-	$P=(A+B+C+D+E+F+G+H)/I$ 、P：コンテナ1台あ たりの電力消費量 [kWh]、A：主搬送コンベア の電力消費量 [kWh]、B：搬入コンベアの電 力消費量 [kWh]、C：洗浄ポンプの電力消費量 [kWh]、D：リンスポンプの電力消費量 [kWh]、E：洗浄槽旋回の電力消費量 [kWh]、F：遠心脱水機駆動 [kWh]、G：排気 ファン [kWh]、H：ヒートポンプの電力消費量 [kWh]、I：コンテナ総数 [台]	-	-	<処理物> コンテナ：「食品クレート標準 共有化 ガイドライン」で規定されている食品クレート標 準1型、またはII型・採用<処理条件> 高温水 ヒートポンプ（空気熱源・循環式）（洗浄側）温 水出口温度：65℃以上70℃以下、乾燥温度： 16℃、湿球温度：12℃、温水出入口温度差：5℃ 高温水ヒートポンプ（空気熱源・一過式）（リ ンス側）：JRA4060/2014に準拠 含水率（脱水 後）：1%未満（ワーク質量に対する割合）汚 れ度（洗浄前後洗浄後） APT値：3000RLU以上/ 1000RLU未満		
L-001234	産業（業 種固有）	食品品製 造業	業務用冷 凍機器	低温用自然冷媒 冷凍機（アンモ ニア/CO2二次冷 媒システム）	一次冷媒（アンモニア）を用いた冷凍装置で二次冷媒（CO2）を低温 まで冷却し、食品等を凍結装置するフリーザー装置などに供給す る。	冷凍能力	100kW以下	S-005793	1.62 *	-	成績係数 (COP)	標準条件に よる評価	-	-	$COP=P/Q$ COP:成績係数 Q:定格能力[W] P:定格消 費電力[W]	-	-	成績係数(COP)の算出にあたっては、CO2温度、 凝縮温度をそれぞれ次のとおり設定すること を条件とする。CO2温度：-42℃超-27℃以下、冷却水 入口温度：32℃		
L-001090	産業（業 種固有）	繊維工業	乾燥機	熱回収式工業用 繊維物乾燥機	ネットコンベアー内の熱風ノズルにより熱風を吹付けることによっ て、繊維物の染色・水洗後の乾燥・防縮・風合加工を行う設備。乾燥 機内で繊維物を乾燥して発生した水蒸気は排気ファンにより排出さ れ最適な状態に保たれる。熱風の熱源としては、ガス直接燃焼によ る加熱方式と、蒸気、または熱媒油による熱交換器を用いた間接 加熱方式がある。	ローラー幅	1800mmW以上2000mmW未 満	S-005184	3.13	MJ/kg	単位重量当 たりの熱量	シミュレ ーションに よる評 価	-	-	$Q=(qA+qB+qC+qD+qE)+m$ 、Q:処理布の単位重 量当たりの熱量 [MJ/kg]、qA:保温版（床面含 む）からの放熱量 [MJ/h]、qB:処理布の昇温熱量 [MJ/h]、qC:含有水分の昇温・蒸発熱量 [MJ/h]、qD:給気・排気による損失熱量 [MJ/h]、qE:出入口からの吹出し吸込み損失熱量 [MJ/h]、m:単位時間当たり処理した生地重量 [kg/h] ※小数点以下を切り捨て	-	-	時間当たりの熱量の算出にあたっては、定常な操 業状態において、処理布、処理条件を次のとおり 設定することを条件とする。<処理布>、素材： ポリエステル100%織物、布幅：1540mmW、目 付：200g/m2、<処理条件> 処理温度：140℃、水 分率（入口/出口）：70～75%/2%以下		
							2000mmW以上2300mmW未 満	S-005183	3.22											
							2300mmW以上2500mmW以 下	S-005182	3.4											
							1室5段	S-005181	3.06	MJ/kg	単位重量当 たりの熱量	シミュレ ーションに よる評 価	-	-	$Q=(qA+qB+qC+qD+qE)+m$ 、Q:処理布の単位重 量当たりの熱量 [MJ/kg]、qA:保温版（床面含 む）からの放熱量 [MJ/h]、qB:処理布の昇温熱量 [MJ/h]、qC:含有水分の昇温・蒸発熱量 [MJ/h]、qD:給気・排気による損失熱量 [MJ/h]、qE:出入口からの吹出し吸込み損失熱量 [MJ/h]、m:単位時間当たり処理した生地重量 [kg/h] ※小数点以下を切り捨て	-	-	時間当たりの熱量の算出にあたっては、定常な操 業状態において、処理布、処理条件を次のとおり 設定することを条件とする。<処理布>、素材： ポリエステル100%織物、布幅：1540mmW、目 付：200g/m2、<処理条件> 処理温度：140℃、水 分率（入口/出口）：70～75%/2%以下		
							2000mmW以上2300mmW未 満	S-005180	3.15											
							2300mmW以上2500mmW以 下	S-005179	3.33											
							1室3段	S-005178	2.85	MJ/kg	単位重量当 たりの熱量	シミュレ ーションに よる評 価	-	-	$Q=(qA+qB+qC+qD+qE)+m$ 、Q:処理布の単位重 量当たりの熱量 [MJ/kg]、qA:保温版（床面含 む）からの放熱量 [MJ/h]、qB:処理布の昇温熱量 [MJ/h]、qC:含有水分の昇温・蒸発熱量 [MJ/h]、qD:給気・排気による損失熱量 [MJ/h]、qE:出入口からの吹出し吸込み損失熱量 [MJ/h]、m:単位時間当たり処理した生地重量 [kg/h] ※小数点以下を切り捨て	-	-	時間当たりの熱量の算出にあたっては、定常な操 業状態において、処理布、処理条件を次のとおり 設定することを条件とする。<処理布>、素材： ポリエステル100%織物、布幅：1540mmW、目 付：200g/m2、<処理条件> 処理温度：140℃、水 分率（入口/出口）：70～75%/2%以下		
							2000mmW以上2300mmW未 満	S-005177	2.91											
							2300mmW以上2500mmW以 下	S-005176	3.01											

L2-Tech リスト№	区分			設備・機器等の 名称	原理・しくみ	クラス			L2-Tech 水準表 情報№	L2-Tech 水準	指 標								
	部門1	部門2	技術分類			条 件	クラス 能力(名称)	クラス 能力(単位)			S-005175	2.81	測定単位		評価方法の タイプ	計算方法		試験条件	
													単 位	名 称		準拠する規格	規格の名称	準拠する規格	規格の名称
						2室5段	ローラー幅	1800mmW以上2000mmW未満	S-005175	2.81	MJ/kg	単位重量当たりの熱量	シミュレーションによる評価	-	-	$Q = (qA + qB + qC + qD + qE) \cdot m$ 、Q:処理布の単位重量当たりの熱量 [MJ/kg]、qA:保温版(床面含む)からの放熱量 [MJ/h]、qB:処理布の昇温熱量 [MJ/h]、qC:含有水分の昇温・蒸発熱量 [MJ/h]、qD:給気・排気による損失熱量 [MJ/h]、qE:出入口からの吹出し吸込み損失熱量 [MJ/h]、m:単位時間当たり処理した生地重量 [kg/h] ※小数点以下を切り捨て	-	-	時間当たりの熱量の算出にあたっては、定常な操業状態において、処理布、処理条件を次のとおり設定することを条件とする。<処理布>、素材：ポリエステル100%織物、布幅：1540mmW、目付：200g/m2、<処理条件>処理温度：140℃、水分率（入口/出口）：70～75%/2%以下
								2000mmW以上2300mmW未満	S-005174	2.86									
								2300mmW以上2500mmW以下	S-005173	2.94									
						3室2段	ローラー幅	1800mmW以上2000mmW未満	S-005172	2.81	MJ/kg	単位重量当たりの熱量	シミュレーションによる評価	-	-	$Q = (qA + qB + qC + qD + qE) \cdot m$ 、Q:処理布の単位重量当たりの熱量 [MJ/kg]、qA:保温版(床面含む)からの放熱量 [MJ/h]、qB:処理布の昇温熱量 [MJ/h]、qC:含有水分の昇温・蒸発熱量 [MJ/h]、qD:給気・排気による損失熱量 [MJ/h]、qE:出入口からの吹出し吸込み損失熱量 [MJ/h]、m:単位時間当たり処理した生地重量 [kg/h] ※小数点以下を切り捨て	-	-	時間当たりの熱量の算出にあたっては、定常な操業状態において、処理布、処理条件を次のとおり設定することを条件とする。<処理布>、素材：ポリエステル100%織物、布幅：1540mmW、目付：200g/m2、<処理条件>処理温度：140℃、水分率（入口/出口）：70～75%/2%以下
								2000mmW以上2300mmW未満	S-005171	2.86									
								2300mmW以上2500mmW以下	S-005170	2.94									
						4室2段	ローラー幅	1800mmW以上2000mmW未満	S-005169	-	MJ/kg	単位重量当たりの熱量	シミュレーションによる評価	-	-	$Q = (qA + qB + qC + qD + qE) \cdot m$ 、Q:処理布の単位重量当たりの熱量 [MJ/kg]、qA:保温版(床面含む)からの放熱量 [MJ/h]、qB:処理布の昇温熱量 [MJ/h]、qC:含有水分の昇温・蒸発熱量 [MJ/h]、qD:給気・排気による損失熱量 [MJ/h]、qE:出入口からの吹出し吸込み損失熱量 [MJ/h]、m:単位時間当たり処理した生地重量 [kg/h] ※小数点以下を切り捨て	-	-	時間当たりの熱量の算出にあたっては、定常な操業状態において、処理布、処理条件を次のとおり設定することを条件とする。<処理布>、素材：ポリエステル100%織物、布幅：1540mmW、目付：200g/m2、<処理条件>処理温度：140℃、水分率（入口/出口）：70～75%/2%以下
								2000mmW以上2300mmW未満	S-005168	-									
								2300mmW以上2500mmW以下	S-005166	-									
L-001091	産業（業種固有）	繊維工業	熱処理機	熱回収式工業用繊維物熱処理機	繊維物の乾燥後に、繊維物の形態を整え、寸法を安定化するために熱固定を行う設備。熱固定を行う際には、熱風ノズルにより繊維物に熱風を吹付ける。繊維物を加熱することによって発生した熱処理機内のガスは排気ファンにより排出され最適な状態に保たれる。熱風の熱源としては、ガス直接燃焼による加熱方式と、熱媒油による熱交換器を用いた間接加熱方式がある。	3室	ローラー幅	1800mmW以上2000mmW未満	S-005165	2.1	MJ/kg	単位重量当たりの熱量	シミュレーションによる評価	-	-	$Q = (qA + qB + qC + qD + qE) \cdot m$ 、Q:処理布の単位重量当たりの熱量 [MJ/kg]、qA:保温版(床面含む)からの放熱量 [MJ/h]、qB:処理布の昇温熱量 [MJ/h]、qC:含有水分の昇温・蒸発熱量 [MJ/h]、qD:給気・排気による損失熱量 [MJ/h]、qE:出入口からの吹出し吸込み損失熱量 [MJ/h]、m:単位時間当たり処理した生地重量 [kg/h] ※小数点以下を切り捨て	-	-	時間当たりの熱量の算出にあたっては、定常な操業状態において、処理布、処理条件を次のとおり設定することを条件とする。<処理布>素材：ポリエステル100%織物、布幅：1540mmW、目付：200g/m2、<処理条件>処理温度：140℃、水分率（入口/出口）：70～75%/2%以下
								2000mmW以上2300mmW未満	S-005163	2.12									
								2300mmW以上2500mmW以下	S-005162	2.14									
						4室	ローラー幅	1800mmW以上2000mmW未満	S-005161	2.05	MJ/kg	単位重量当たりの熱量	シミュレーションによる評価	-	-	$Q = (qA + qB + qC + qD + qE) \cdot m$ 、Q:処理布の単位重量当たりの熱量 [MJ/kg]、qA:保温版(床面含む)からの放熱量 [MJ/h]、qB:処理布の昇温熱量 [MJ/h]、qC:含有水分の昇温・蒸発熱量 [MJ/h]、qD:給気・排気による損失熱量 [MJ/h]、qE:出入口からの吹出し吸込み損失熱量 [MJ/h]、m:単位時間当たり処理した生地重量 [kg/h] ※小数点以下を切り捨て	-	-	時間当たりの熱量の算出にあたっては、定常な操業状態において、処理布、処理条件を次のとおり設定することを条件とする。<処理布>素材：ポリエステル100%織物、布幅：1540mmW、目付：200g/m2、<処理条件>処理温度：140℃、水分率（入口/出口）：70～75%/2%以下
								2000mmW以上2300mmW未満	S-005160	2.05									
								2300mmW以上2500mmW以下	S-005158	2.08									

L2-Tech リスト№	区分			設備・機器等の 名称	原理・しくみ	クラス			L2-Tech 水準表 情報№	L2-Tech 水準	指 標								
	部門1	部門2	技術分類			条 件	クラス 能力(名称)	クラス 能力(単位)			測定単位	評価方法の タイプ	計算方法		規格の名称	試験条件			
													単位	規格の名称			標準値	規格の名称	試験条件
						5室	ローラー幅	1800mmW以上2000mmW未 満	S-005157	2.01	MJ/kg	単位重量当 りの熱量	シミュレ ーションに よる 評価	-	-	$Q = (qA + qB + qC + qD + qE) \cdot m$ 、Q:処理布の単位重 量当たりの熱量 [MJ/kg]、qA:保温版(床面含 む)からの放熱量 [MJ/h]、qB:処理布の昇温熱量 [MJ/h]、qC:含有水分の昇温・蒸発熱量 [MJ/h]、qD:給気・排気による損失熱量 [MJ/h]、qE:出入口からの吹出し吸込み損失熱量 [MJ/h]、m:単位時間当たり処理した生地重量 [kg/h] ※小数点以下を切り捨て	-	-	時間当たりの熱量の算出にあたっては、定常な操 業状態において、処理布、処理条件を次のとおり 設定することを条件とする。<処理布>素材：ポ リエステル100%織物、布幅：1540mmW、目付： 200g/m2、<処理条件>処理温度：140℃、水分率 (入口/出口)：70～75% / 2%以下
						2000mmW以上2300mmW未 満		S-005155		2.01									
						2300mmW以上2500mmW以 下		S-005152		2.03									
						6室	ローラー幅	1800mmW以上2000mmW未 満	S-005153	1.98	MJ/kg	単位重量当 りの熱量	シミュレ ーションに よる 評価	-	-	$Q = (qA + qB + qC + qD + qE) \cdot m$ 、Q:処理布の単位重 量当たりの熱量 [MJ/h]、qA:保温版(床面含 む)からの放熱量 [MJ/h]、qB:処理布の昇温熱量 [MJ/h]、qC:含有水分の昇温・蒸発熱量 [MJ/h]、qD:給気・排気による損失熱量 [MJ/h]、qE:出入口からの吹出し吸込み損失熱量 [MJ/h]、m:単位時間当たり処理した生地重量 [kg/h] ※小数点以下を切り捨て	-	-	時間当たりの熱量の算出にあたっては、定常な操 業状態において、処理布、処理条件を次のとおり 設定することを条件とする。<処理布>素材：ポ リエステル100%織物、布幅：1540mmW、目付： 200g/m2、<処理条件>処理温度：140℃、水分率 (入口/出口)：70～75% / 2%以下
						2000mmW以上2300mmW未 満		S-005154		1.99									
						2300mmW以上2500mmW以 下		S-005151		2									
						7室	ローラー幅	1800mmW以上2000mmW未 満	S-005150	1.96	MJ/kg	単位重量当 りの熱量	シミュレ ーションに よる 評価	-	-	$Q = (qA + qB + qC + qD + qE) \cdot m$ 、Q:処理布の単位重 量当たりの熱量 [MJ/kg]、qA:保温版(床面含 む)からの放熱量 [MJ/h]、qB:処理布の昇温熱量 [MJ/h]、qC:含有水分の昇温・蒸発熱量 [MJ/h]、qD:給気・排気による損失熱量 [MJ/h]、qE:出入口からの吹出し吸込み損失熱量 [MJ/h]、m:単位時間当たり処理した生地重量 [kg/h] ※小数点以下を切り捨て	-	-	時間当たりの熱量の算出にあたっては、定常な操 業状態において、処理布、処理条件を次のとおり 設定することを条件とする。<処理布>素材：ポ リエステル100%織物、布幅：1540mmW、目付： 200g/m2、<処理条件>処理温度：140℃、水分率 (入口/出口)：70～75% / 2%以下
						2000mmW以上2300mmW未 満		S-005149		1.96									
						2300mmW以上2500mmW以 下		S-005148		1.98									
						8室	ローラー幅	1800mmW以上2000mmW未 満	S-005147	1.95	MJ/kg	単位重量当 りの熱量	シミュレ ーションに よる 評価	-	-	$Q = (qA + qB + qC + qD + qE) \cdot m$ 、Q:処理布の単位重 量当たりの熱量 [MJ/h]、qA:保温版(床面含 む)からの放熱量 [MJ/h]、qB:処理布の昇温熱量 [MJ/h]、qC:含有水分の昇温・蒸発熱量 [MJ/h]、qD:給気・排気による損失熱量 [MJ/h]、qE:出入口からの吹出し吸込み損失熱量 [MJ/h]、m:単位時間当たり処理した生地重量 [kg/h] ※小数点以下を切り捨て	-	-	時間当たりの熱量の算出にあたっては、定常な操 業状態において、処理布、処理条件を次のとおり 設定することを条件とする。<処理布>素材：ポ リエステル100%織物、布幅：1540mmW、目付： 200g/m2、<処理条件>処理温度：140℃、水分率 (入口/出口)：70～75% / 2%以下
						2000mmW以上2300mmW未 満		S-005145		1.95									
						2300mmW以上2500mmW以 下		S-005144		1.96									
L-001089	産業(業 種固有)	化学工業	蒸留塔	内部熱交換最適 化蒸留システム	濃縮部(高圧塔)と回収部(低圧塔)が物理的に分かれており、そ の間に圧縮機が設置されている蒸留塔。濃縮部の圧力をわずかに上 げることで内部温度を上昇させた後、熱を自然循環によって回収 部に移動させ蒸留を行う。外部冷却により廃棄せざるを得なかった 熱を自己再利用するため、リボイラーに供給する熱エネルギーを大 幅に削減可能。	蒸留塔が高圧部(濃縮部) と低圧部(回収部)とで物 理的に分離しており一体型 でないもの	-	-	S-005188	別紙	%	エネルギー消 費効率	具備機能に よる評価	-	-	-	-	-	-
L-001218	産業(業 種固有)	化学工業	その他	MVR型(自己蒸 気機械圧縮型) 蒸発濃縮装置	主要機器はヒータ(蒸発器)と蒸気圧縮機で、これにコンデンサー や予熱器、ポンプ類が付属する装置である。蒸発器のヒータにて蒸 発した蒸気を圧縮機で昇圧・昇温し自己のヒータの加熱源として再 利用する技術で、蒸発潜熱を100%利用できる。定常運転時には加 熱用蒸気や冷却水が殆ど不要となるため、省エネルギー性が極めて 高い。本装置は加熱側と蒸発側の温度差が小さく、ヒータ構造もシ ンプルなので、各種プロセス溶液や一般排水の濃縮、或いは溶剤含 有排水からの水回収及び溶剤回収等幅広い分野で使用されている。	ヒーター形式：液膜降下式	-	-	S-005762	20	-	成績係数 (COP)	標準条件に よる評価	-	-	$COP = Q/P$ 、COP：成績係数、Q：プロセス流体の 蒸発濃縮で消費した熱エネルギー [kW]、P：圧 縮機で消費した電気エネルギー [kW]	-	-	加熱面での蒸気温度：80℃、加熱側圧力： 47.4kPa、圧縮機圧縮温度：6℃

L2-Tech リスト№	区分			設備・機器等の 名称	原理・しくみ	クラス		L2-Tech 水準表 情報№	L2-Tech 水準	指 標										
	部門1	部門2	技術分類			条 件	クラス 能力(名称)			クラス 能力(単位)	測定単位		評価方法の タイプ	計算方法		試験条件				
											単 位	名 称		標準規格による評価	規格の名称	標準規格による評価	規格の名称	標準規格による評価	規格の名称	説明
						ヒーター形式：水平管式	-	-	S-005763	20	-	成績係数 (COP)	標準規格による評価	-	-	COP=QP、COP：成績係数、Q：プロセス流体の蒸発濃縮で消費した熱エネルギー [kW]、P：圧縮機で消費した電気エネルギー [kW]	-	-	加熱面での蒸気温度：76℃、加熱側圧力：59.3kPaA、圧縮機圧縮温度：6℃	
L-001092	運輸	自動車	自動車 (内燃機関型)	ガソリン・ディーゼル車 (乗用車)	(ガソリン車)ガソリンエンジンを搭載した自動車。国内における乗用車の大半がガソリン車である。(ディーゼル車)ディーゼルエンジンを搭載した自動車。	ガソリン車、軽自動車	-	軽自動車	S-005143	-	km/l	燃費	標準規格による評価	JISD1012:2005に基づくJC08モード	自動車-燃料消費率試験方法に基づくJC08モード	JISD1012:2005に基づくJC08モードに準拠	JISD1012:2005に基づくJC08モード	自動車-燃料消費率試験方法に基づくJC08モード	JISD1012:2005に基づくJC08モードに準拠	
						ガソリン車、小型自動車	-	SUV	S-005142	-	km/l	燃費	標準規格による評価	JISD1012:2005に基づくJC08モード	自動車-燃料消費率試験方法に基づくJC08モード	JISD1012:2005に基づくJC08モードに準拠	JISD1012:2005に基づくJC08モード	自動車-燃料消費率試験方法に基づくJC08モード	JISD1012:2005に基づくJC08モードに準拠	
							-	コンパクトカー	S-005140	-										
							-	セダン	S-005139	-										
							-	ミニバン	S-005138	-										
							-	ワゴン	S-005137	-										
						ガソリン車、普通自動車	-	SUV	S-005136	-	km/l	燃費	標準規格による評価	JISD1012:2005に基づくJC08モード	自動車-燃料消費率試験方法に基づくJC08モード	JISD1012:2005に基づくJC08モードに準拠	JISD1012:2005に基づくJC08モード	自動車-燃料消費率試験方法に基づくJC08モード	JISD1012:2005に基づくJC08モードに準拠	
							-	スポーツカー	S-005135	-										
							-	セダン	S-005134	-										
							-	ミニバン	S-005132	-										
							-	ワゴン	S-005131	-										
						ディーゼル車、小型自動車	-	コンパクトカー	S-005130	-	km/l	燃費	標準規格による評価	JISD1012:2005に基づくJC08モード	自動車-燃料消費率試験方法に基づくJC08モード	JISD1012:2005に基づくJC08モードに準拠	JISD1012:2005に基づくJC08モード	自動車-燃料消費率試験方法に基づくJC08モード	JISD1012:2005に基づくJC08モードに準拠	
						ディーゼル車、普通自動車	-	SUV	S-005129	-	km/l	燃費	標準規格による評価	JISD1012:2005に基づくJC08モード	自動車-燃料消費率試験方法に基づくJC08モード	JISD1012:2005に基づくJC08モードに準拠	JISD1012:2005に基づくJC08モード	自動車-燃料消費率試験方法に基づくJC08モード	JISD1012:2005に基づくJC08モードに準拠	
							-	セダン	S-005128	-										
							-	ミニバン	S-005127	-										
							-	ワゴン	S-005126	-										

L2-Tech リスト№	区分			設備・機器等の 名称	原理・しくみ	クラス			L2-Tech 水準表 情報№	L2-Tech 水準	指 標												
	部門1	部門2	技術分類			条 件	クラス 能力(名称)	クラス 能力(単位)			L2-Tech 水準表 情報№	L2-Tech 水準	測定単位		評価方法の タイプ	標準規格		計算方法		試験条件			
													単 位	名 称		標準規格に よる評価	規格の名称	計算式	標準規格に よる評価	規格の名称	説明		
L-001093	運輸	自動車	自動車 (内燃機 閉型)	ディーゼル・天 然ガス車 (商用 車・重車)	(ディーゼル車)ディーゼルエンジンを搭載した自動車。(天然ガス車) 現在、国内で使用されている天然ガス自動車の多くは、ディーゼル 車やガソリン車をベースとし、改造することによって天然ガス車と して走行している。一方、メーカーにおいては圧縮天然ガス(CNG) エンジンの開発も進められている。	貨物自動車、トラクタ	-	区分1※区分は省エネルギー 法による	S-005125	-	km/l	燃費	標準規格に よる評価	-	国土交通省審 査に準ずる (都市内走行 モードと都市 間走行モード それぞれによる 走行を車種 等によって異 なる割合で合 算した燃費 値)	国土交通省審査で定める計算式	-	国土交通省審 査に準ずる (都市内走行 モードと都市 間走行モード それぞれによる 走行を車種 等によって異 なる割合で合 算した燃費 値)	国土交通省審査で定める試験条件				
						貨物自動車、トラクタ以外	-	区分1※区分は省エネルギー 法による	S-005122	-	km/l	燃費	標準規格に よる評価	-	国土交通省審 査に準ずる (都市内走行 モードと都市 間走行モード それぞれによる 走行を車種 等によって異 なる割合で合 算した燃費 値)	国土交通省審査で定める計算式	-	国土交通省審 査に準ずる (都市内走行 モードと都市 間走行モード それぞれによる 走行を車種 等によって異 なる割合で合 算した燃費 値)	国土交通省審査で定める試験条件				
							-	区分2※区分は省エネルギー 法による	S-005121	-													
							-	区分3※区分は省エネルギー 法による	S-005120	-													
							-	区分4※区分は省エネルギー 法による	S-005119	-													
							-	区分5※区分は省エネルギー 法による	S-005118	-													
							-	区分6※区分は省エネルギー 法による	S-005116	-													
							-	区分7※区分は省エネルギー 法による	S-005115	-													
							-	区分8※区分は省エネルギー 法による	S-005114	-													
							-	区分9※区分は省エネルギー 法による	S-005113	-													
							-	区分10※区分は省エネル ギー法による	S-005111	-													
							-	区分11※区分は省エネル ギー法による	S-005108	-													
									乗用自動車、一般バス	-	区分1※区分は省エネルギー 法による	S-005107	-	km/l	燃費	標準規格に よる評価	-	国土交通省審 査に準ずる (都市内走行 モードと都市 間走行モード それぞれによる 走行を車種 等によって異 なる割合で合 算した燃費 値)	国土交通省審査で定める計算式	-	国土交通省審 査に準ずる (都市内走行 モードと都市 間走行モード それぞれによる 走行を車種 等によって異 なる割合で合 算した燃費 値)	国土交通省審査で定める試験条件	
										-	区分2※区分は省エネルギー 法による	S-005106	-										
										-	区分3※区分は省エネルギー 法による	S-005105	-										

L2-Tech リストNo	区分			設備・機器等の 名称	原理・しくみ	クラス			L2-Tech 水準表 情報No	L2-Tech 水準	指 標								
	部門1	部門2	技術分類			条 件	クラス 能力(名称)	クラス 能力(単位)			L2-Tech 水準	測定単位		評価方法の タイプ	計算方法		試験条件		
												単 位	名 称		標準規格による評価	規格の名称	計算式	標準規格による評価	規格の名称
L-001096	運輸	自動車	自動車 (ハイブリッド型)	ハイブリッド自動車(商用車・重量車)	動力として内燃機関と電気モータを組み合わせた自動車。一時的にエネルギーをバッテリーやキャパシタに貯蔵し、必要に応じ電気モータを介して動力とする。効率の低いエンジン作動区域にハイブリッド技術を使うことにより高効率運転が可能となる。	トラクタ以外	-	区分1※区分は省エネルギー法による	S-005082	-	km/l	燃費	標準規格による評価	JISD1301:2001	電気自動車-一充電走行距離及び交流充電電力量消費率試験方法に基づくJC08モード	JISD1301:2001に基づくJC08モードに準拠	JISD1301:2001に基づくJC08モード	電気自動車-一充電走行距離及び交流充電電力量消費率試験方法に基づくJC08モード	国土交通省審査で定める試験条件
								区分2※区分は省エネルギー法による	S-005081	-									
								区分3※区分は省エネルギー法による	S-005080	-									
								区分4※区分は省エネルギー法による	S-005079	-									
								区分5※区分は省エネルギー法による	S-005078	-									
L-001098	運輸	自動車	自動車 (電気型)	電気自動車(乗用車)	従来の内燃機関のかわりに、バッテリーに充電した電力を動力源としてモータで走行する自動車。	軽自動車	-	軽自動車	S-005076	-	Wh/km	交流充電電力消費量	標準規格による評価	JISD1301:2001に基づくJC08モード	電気自動車-一充電走行距離及び交流充電電力量消費率試験方法に基づくJC08モード	JISD1301:2001に基づくJC08モードに準拠	JISD1301:2001に基づくJC08モード	電気自動車-一充電走行距離及び交流充電電力量消費率試験方法に基づくJC08モード	JISD1301:2001に基づくJC08モードに準拠
						普通自動車	-	ワゴン	S-005075	-	Wh/km	交流充電電力消費量	標準規格による評価	JISD1301:2001に基づくJC08モード	電気自動車-一充電走行距離及び交流充電電力量消費率試験方法に基づくJC08モード	JISD1301:2001に基づくJC08モードに準拠	JISD1301:2001に基づくJC08モード	電気自動車-一充電走行距離及び交流充電電力量消費率試験方法に基づくJC08モード	JISD1301:2001に基づくJC08モードに準拠
L-001106	家庭	給湯	給湯器 (ヒートポンプ)	家庭用エコキュート	自然冷媒(CO2)を用い、電動ヒートポンプサイクルにより65℃以上の高温沸き上げが可能な高効率な給湯システム。ヒートポンプユニットと給湯(貯湯)ユニットで構成されている。	一般仕様、少人数世帯、保温あり	貯湯容量	185L	S-005074	2.8	-	年間給湯保温効率	標準規格による評価	JISC9220:2011	家庭用ヒートポンプ給湯機	JISC9220:2011に準拠	JISC9220:2011	家庭用ヒートポンプ給湯機	JISC9220:2011に準拠
						一般仕様、標準世帯、保温あり、1缶	貯湯容量	320L以上550L未満	S-005073	4	-	年間給湯保温効率	標準規格による評価	JISC9220:2011	家庭用ヒートポンプ給湯機	JISC9220:2011に準拠	JISC9220:2011	家庭用ヒートポンプ給湯機	JISC9220:2011に準拠
						一般仕様、標準世帯、保温あり、多缶	貯湯容量	320L以上550L未満	S-005072	3	-	年間給湯保温効率	標準規格による評価	JISC9220:2011	家庭用ヒートポンプ給湯機	JISC9220:2011に準拠	JISC9220:2011	家庭用ヒートポンプ給湯機	JISC9220:2011に準拠
						一般仕様、標準世帯、保温なし、1缶	貯湯容量	320L以上550L未満	S-005071	3.3	-	年間給湯効率	標準規格による評価	JISC9220:2011	家庭用ヒートポンプ給湯機	JISC9220:2011に準拠	JISC9220:2011	家庭用ヒートポンプ給湯機	JISC9220:2011に準拠
						寒冷地仕様、標準世帯、保温あり、1缶	貯湯容量	320L以上550L未満	S-005070	3.3	-	寒冷地年間給湯保温効率	標準規格による評価	JISC9220:2011	家庭用ヒートポンプ給湯機	JISC9220:2011に準拠	JISC9220:2011	家庭用ヒートポンプ給湯機	JISC9220:2011に準拠
						寒冷地仕様、標準世帯、保温なし、1缶	貯湯容量	320L以上550L未満	S-005069	2.9	-	寒冷地年間給湯効率	標準規格による評価	JISC9220:2011	家庭用ヒートポンプ給湯機	JISC9220:2011に準拠	JISC9220:2011	家庭用ヒートポンプ給湯機	JISC9220:2011に準拠
L-001107	家庭	給湯	給湯器 (ヒートポンプ)	多機能ヒートポンプ給湯機	自然冷媒(CO2)を用い、電動ヒートポンプサイクルにより65℃以上の高温沸き上げが可能な高効率な給湯システム。ヒートポンプユニットと給湯(貯湯)ユニット、床暖房端末で構成されている。1台のヒートポンプによって給湯、および床暖房が可能であるため、高効率化が可能。	一般仕様、標準世帯、保温あり、1缶	貯湯容量	320L以上550L未満	S-005067	3.9	-	年間給湯保温効率(床暖房部分除く)	標準規格による評価	JISC9220:2011	家庭用ヒートポンプ給湯機	JISC9220:2011に準拠	JISC9220:2011	家庭用ヒートポンプ給湯機	JISC9220:2011に準拠
						寒冷地仕様、標準世帯、保温あり、1缶	貯湯容量	320L以上550L未満	S-005066	3	-	寒冷地年間給湯保温効率(床暖房部分除く)	標準規格による評価	JISC9220:2011	家庭用ヒートポンプ給湯機	JISC9220:2011に準拠	JISC9220:2011	家庭用ヒートポンプ給湯機	JISC9220:2011に準拠
L-001108	家庭	給湯	給湯器 (ガス式)	ガス温水機器(エコジョーズ)	ガスを燃料としたバーナによって加熱した高温の空気により配管内の水を温める機器。	給湯専用機	-	-	S-005064	95	%	エネルギー消費効率	標準規格による評価	JISS2109:2010R	家庭用ガス温水機器	JISS2109:2010Rに準拠	JISS2093:2010	家庭用ガス温水機器の試験方法	JISS2093:2010に準拠

L2-Tech リスト№	区分			設備・機器等の 名称	原理・しくみ	クラス			L2-Tech 水準表 情報№	L2-Tech 水準	指 標													
	部門1	部門2	技術分類			条 件	クラス 能力(名称)	クラス 能力(単位)			S-004994	測定単位		評価方法の タイプ	計算方法			試験条件						
												単 位	名 称		準拠する規格	規格の名称	計算式	準拠する規格	規格の名称	説 明				
							400L超450L以下	S-004994	-															
							450L超500L以下	S-004992	-															
							500L超	S-004991	-															
L-00112	家庭	照明	照明器具	LED照明器具 (家庭用)	蛍光灯や白熱灯と比較して高効率で長寿命な白色LED(発光ダイオード)を光源とした照明器具が普及している。LED 照明は、主に直付(シーリング)カバー付型、ダウンライト型、電球型があり、他にスポットライト型、ブラケット型などもある。LED 素子が器具に取り付けられ、ランプ交換は無いものが大半である。光の広がり(ビームの開き)を広くしたのも、発光色を切り替えるもの等が登場している。一般的には、「温白色、電球色」よりも「昼光色、昼白色、白色」の方がエネルギー効率 (lmW) は高くなる。	シーリングライト型	適用量数	～4.5畳	S-004988	-	lmW	固有エネルギー消費効率	標準規格による評価	JISC8105-3.2011、JISC8105-5.2011及びJISZ8113:1998	照明器具-第3部：性能要求事項、照明器具-第5部：配光測定方法及び照明用語	JISC8105-3.2011、JISC8105-5.2011及びJISZ8113:1998に準拠	JISC8105-3.2011、JISC8105-5.2011及びJISZ8113:1998	照明器具-第3部：性能要求事項、照明器具-第5部：配光測定方法及び照明用語	JISC8105-3.2011、JISC8105-5.2011及びJISZ8113:1998に準拠					
							～6畳	S-004987	155.4															
							～8畳	S-004985	170.5															
							～10畳	S-004984	174.3															
							～12畳	S-004983	172.9															
							～14畳	S-004982	172.7															
							ダウンライト型、温白色、電球色、配光角30°以下	-	S-004980	-	lmW	固有エネルギー消費効率	標準規格による評価	JISC8105-3.2011、JISC8105-5.2011及びJISZ8113:1998	照明器具-第3部：性能要求事項、照明器具-第5部：配光測定方法及び照明用語	JISC8105-3.2011、JISC8105-5.2011及びJISZ8113:1998に準拠	JISC8105-3.2011、JISC8105-5.2011及びJISZ8113:1998	照明器具-第3部：性能要求事項、照明器具-第5部：配光測定方法及び照明用語	JISC8105-3.2011、JISC8105-5.2011及びJISZ8113:1998に準拠					
							ダウンライト型、温白色、電球色、配光角30°超60°以下	-	S-004975	93.3	lmW	固有エネルギー消費効率	標準規格による評価	JISC8105-3.2011、JISC8105-5.2011及びJISZ8113:1998	照明器具-第3部：性能要求事項、照明器具-第5部：配光測定方法及び照明用語	JISC8105-3.2011、JISC8105-5.2011及びJISZ8113:1998に準拠	JISC8105-3.2011、JISC8105-5.2011及びJISZ8113:1998	照明器具-第3部：性能要求事項、照明器具-第5部：配光測定方法及び照明用語	JISC8105-3.2011、JISC8105-5.2011及びJISZ8113:1998に準拠					
							ダウンライト型、温白色、電球色、配光角60°超	-	S-004974	109.4	lmW	固有エネルギー消費効率	標準規格による評価	JISC8105-3.2011、JISC8105-5.2011及びJISZ8113:1998	照明器具-第3部：性能要求事項、照明器具-第5部：配光測定方法及び照明用語	JISC8105-3.2011、JISC8105-5.2011及びJISZ8113:1998に準拠	JISC8105-3.2011、JISC8105-5.2011及びJISZ8113:1998	照明器具-第3部：性能要求事項、照明器具-第5部：配光測定方法及び照明用語	JISC8105-3.2011、JISC8105-5.2011及びJISZ8113:1998に準拠					
							ダウンライト型、昼光色、昼白色、白色、配光角30°以下	-	S-004972	111.1	lmW	固有エネルギー消費効率	標準規格による評価	JISC8105-3.2011、JISC8105-5.2011及びJISZ8113:1998	照明器具-第3部：性能要求事項、照明器具-第5部：配光測定方法及び照明用語	JISC8105-3.2011、JISC8105-5.2011及びJISZ8113:1998に準拠	JISC8105-3.2011、JISC8105-5.2011及びJISZ8113:1998	照明器具-第3部：性能要求事項、照明器具-第5部：配光測定方法及び照明用語	JISC8105-3.2011、JISC8105-5.2011及びJISZ8113:1998に準拠					
							ダウンライト型、昼光色、昼白色、白色、配光角30°超60°以下	-	S-004971	106	lmW	固有エネルギー消費効率	標準規格による評価	JISC8105-3.2011、JISC8105-5.2011及びJISZ8113:1998	照明器具-第3部：性能要求事項、照明器具-第5部：配光測定方法及び照明用語	JISC8105-3.2011、JISC8105-5.2011及びJISZ8113:1998に準拠	JISC8105-3.2011、JISC8105-5.2011及びJISZ8113:1998	照明器具-第3部：性能要求事項、照明器具-第5部：配光測定方法及び照明用語	JISC8105-3.2011、JISC8105-5.2011及びJISZ8113:1998に準拠					
							ダウンライト型、昼光色、昼白色、白色、配光角60°超	-	S-004970	112.1	lmW	固有エネルギー消費効率	標準規格による評価	JISC8105-3.2011、JISC8105-5.2011及びJISZ8113:1998	照明器具-第3部：性能要求事項、照明器具-第5部：配光測定方法及び照明用語	JISC8105-3.2011、JISC8105-5.2011及びJISZ8113:1998に準拠	JISC8105-3.2011、JISC8105-5.2011及びJISZ8113:1998	照明器具-第3部：性能要求事項、照明器具-第5部：配光測定方法及び照明用語	JISC8105-3.2011、JISC8105-5.2011及びJISZ8113:1998に準拠					
							ペンダントライト型	適用量数	～4.5畳	S-004968	125.1	lmW	固有エネルギー消費効率	標準規格による評価	JISC8105-3.2011、JISC8105-5.2011及びJISZ8113:1998	照明器具-第3部：性能要求事項、照明器具-第5部：配光測定方法及び照明用語	JISC8105-3.2011、JISC8105-5.2011及びJISZ8113:1998に準拠	JISC8105-3.2011、JISC8105-5.2011及びJISZ8113:1998	照明器具-第3部：性能要求事項、照明器具-第5部：配光測定方法及び照明用語	JISC8105-3.2011、JISC8105-5.2011及びJISZ8113:1998に準拠				

L2-Tech リスト№	区分			設備・機器等の 名称	原理・しくみ	クラス			L2-Tech 水準 情報№	L2-Tech 水準	指 標								
	部門1	部門2	技術分類			条 件	クラス 能力(名称)	クラス 能力(単位)			測定単位		評価方法の タイプ	標準規格		計算方法		試験条件	
											単 位	名 称		標準規格による評価	規格の名称	計算式	標準規格	規格の名称	説明
L-001121	家庭	空調	窓	Low-E複層ガラス・アルミ樹脂複合サッシ	複層ガラスの中空層側のガラス面にLow-E金属膜をコーティングすることで放射による熱移動量を低減したガラスと、アルミ樹脂複合サッシを組み合わせた窓。アルミ樹脂複合サッシは、アルミ製（窓外側）と樹脂製（窓内側）のサッシを室内側の結露の発生を軽減や断熱性の向上を目的に一体化したものである。	FIX	-	-	S-004946	1.52	W/m2K	熱貫流率	標準規格による評価	JISA4710:2015、 JISA2102-1:2015及び JISA2102-2:2011	建具の断熱性及びドアの熱性能-熱貫流率の計算-第1部：一般及び窓及びドアの熱性能-熱貫流率の計算-第2部：フレームの数値計算方法	JISA4710:2015、 JISA2102-1:2015及び JISA2102-2:2011に準拠	JISA4710:2015、 JISA2102-1:2015及び JISA2102-2:2011	建具の断熱性試験方法、窓及びドアの熱性能-熱貫流率の計算-第1部：一般及び窓及びドアの熱性能-熱貫流率の計算-第2部：フレームの数値計算方法	JISA4710:2015、 JISA2102-1:2015及び JISA2102-2:2011に準拠。国立研究開発法人 建築研究所ホームページ内「住宅・建築物の省エネルギー基準及び低炭素建築物の認定基準に関する技術情報」に基づき代表試験体サイズによる認証を行う。代表試験体サイズで認証された場合は、全てのサイズにおいて認証を適用する。
						引き違い	-	-	S-004945	1.7	W/m2K	熱貫流率	標準規格による評価	JISA4710:2015、 JISA2102-1:2015及び JISA2102-2:2011	建具の断熱性及びドアの熱性能-熱貫流率の計算-第1部：一般及び窓及びドアの熱性能-熱貫流率の計算-第2部：フレームの数値計算方法	JISA4710:2015、 JISA2102-1:2015及び JISA2102-2:2011に準拠	JISA4710:2015、 JISA2102-1:2015及び JISA2102-2:2011	建具の断熱性試験方法、窓及びドアの熱性能-熱貫流率の計算-第1部：一般及び窓及びドアの熱性能-熱貫流率の計算-第2部：フレームの数値計算方法	JISA4710:2015、 JISA2102-1:2015及び JISA2102-2:2011に準拠。国立研究開発法人 建築研究所ホームページ内「住宅・建築物の省エネルギー基準及び低炭素建築物の認定基準に関する技術情報」に基づき代表試験体サイズによる認証を行う。代表試験体サイズで認証された場合は、全てのサイズにおいて認証を適用する。
						縦すべり出し	-	-	S-004933	1.52	W/m2K	熱貫流率	標準規格による評価	JISA4710:2015、 JISA2102-1:2015及び JISA2102-2:2011	建具の断熱性及びドアの熱性能-熱貫流率の計算-第1部：一般及び窓及びドアの熱性能-熱貫流率の計算-第2部：フレームの数値計算方法	JISA4710:2015、 JISA2102-1:2015及び JISA2102-2:2011に準拠	JISA4710:2015、 JISA2102-1:2015及び JISA2102-2:2011	建具の断熱性試験方法、窓及びドアの熱性能-熱貫流率の計算-第1部：一般及び窓及びドアの熱性能-熱貫流率の計算-第2部：フレームの数値計算方法	JISA4710:2015、 JISA2102-1:2015及び JISA2102-2:2011に準拠。国立研究開発法人 建築研究所ホームページ内「住宅・建築物の省エネルギー基準及び低炭素建築物の認定基準に関する技術情報」に基づき代表試験体サイズによる認証を行う。代表試験体サイズで認証された場合は、全てのサイズにおいて認証を適用する。
L-001122	家庭	空調	窓	三層Low-E複層ガラス・樹脂サッシ	三層で構成される複層ガラスの中空層側のガラス面にLow-E金属膜をコーティングすることで放射による熱移動量を低減したガラスと、樹脂製のサッシを組み合わせた窓。	FIX	-	-	S-004932	0.75	W/m2K	熱貫流率	標準規格による評価	JISA4710:2015、 JISA2102-1:2015及び JISA2102-2:2011	建具の断熱性及びドアの熱性能-熱貫流率の計算-第1部：一般及び窓及びドアの熱性能-熱貫流率の計算-第2部：フレームの数値計算方法	JISA4710:2015、 JISA2102-1:2015及び JISA2102-2:2011に準拠	JISA4710:2015、 JISA2102-1:2015及び JISA2102-2:2011	建具の断熱性試験方法、窓及びドアの熱性能-熱貫流率の計算-第1部：一般及び窓及びドアの熱性能-熱貫流率の計算-第2部：フレームの数値計算方法	JISA4710:2015、 JISA2102-1:2015及び JISA2102-2:2011に準拠。国立研究開発法人 建築研究所ホームページ内「住宅・建築物の省エネルギー基準及び低炭素建築物の認定基準に関する技術情報」に基づき代表試験体サイズによる認証を行う。代表試験体サイズで認証された場合は、全てのサイズにおいて認証を適用する。
						引き違い	-	-	S-004930	1.06	W/m2K	熱貫流率	標準規格による評価	JISA4710:2015、 JISA2102-1:2015及び JISA2102-2:2011	建具の断熱性及びドアの熱性能-熱貫流率の計算-第1部：一般及び窓及びドアの熱性能-熱貫流率の計算-第2部：フレームの数値計算方法	JISA4710:2015、 JISA2102-1:2015及び JISA2102-2:2011に準拠	JISA4710:2015、 JISA2102-1:2015及び JISA2102-2:2011	建具の断熱性試験方法、窓及びドアの熱性能-熱貫流率の計算-第1部：一般及び窓及びドアの熱性能-熱貫流率の計算-第2部：フレームの数値計算方法	JISA4710:2015、 JISA2102-1:2015及び JISA2102-2:2011に準拠。国立研究開発法人 建築研究所ホームページ内「住宅・建築物の省エネルギー基準及び低炭素建築物の認定基準に関する技術情報」に基づき代表試験体サイズによる認証を行う。代表試験体サイズで認証された場合は、全てのサイズにおいて認証を適用する。
						縦すべり出し	-	-	S-004929	0.79	W/m2K	熱貫流率	標準規格による評価	JISA4710:2015、 JISA2102-1:2015及び JISA2102-2:2011	建具の断熱性及びドアの熱性能-熱貫流率の計算-第1部：一般及び窓及びドアの熱性能-熱貫流率の計算-第2部：フレームの数値計算方法	JISA4710:2015、 JISA2102-1:2015及び JISA2102-2:2011に準拠	JISA4710:2015、 JISA2102-1:2015及び JISA2102-2:2011	建具の断熱性試験方法、窓及びドアの熱性能-熱貫流率の計算-第1部：一般及び窓及びドアの熱性能-熱貫流率の計算-第2部：フレームの数値計算方法	JISA4710:2015、 JISA2102-1:2015及び JISA2102-2:2011に準拠。国立研究開発法人 建築研究所ホームページ内「住宅・建築物の省エネルギー基準及び低炭素建築物の認定基準に関する技術情報」に基づき代表試験体サイズによる認証を行う。代表試験体サイズで認証された場合は、全てのサイズにおいて認証を適用する。

L2-Tech リスト№	区分			設備・機器等の 名称	原理・仕組み	クラス			L2-Tech 水準表 情報№	L2-Tech 水準	指 標									
	部門1	部門2	技術分類			条 件	クラス 能力(名称)	クラス 能力(単位)			測定単位		評価方法の タイプ	計算方法		標準規格 による評価	規格の名称	標準規格 による評価	規格の名称	試験条件
											単 位	名 称		計算式	試験条件					
L-001123	家庭	空調	窓	三層Low-E複層ガラス・アルミ樹脂複合サッシ	三層で構成される複層ガラスの中空層側のガラス面にLow-E金属膜をコーティングすることで放射による熱移動量を低減したガラスと、アルミ樹脂複合サッシを組み合わせた窓。アルミ樹脂複合サッシは、アルミ製(室外側)と樹脂製(室内側)のサッシを室内側の結露の発生を軽減や断熱性の向上を目的に一体化したものである。	FIX	-	-	S-004926	1.03	W/m2K	熱貫流率	標準規格による評価	JISA4710:2015、 JISA2102-1:2015及び JISA2102-2:2011	建具の断熱性及びドアの熱性能-熱貫流率の計算-第1部:一般及び窓及びドアの熱性能-熱貫流率の計算-第2部:フレームの数値計算方法	JISA4710:2015、 JISA2102-1:2015及び JISA2102-2:2011に準拠	JISA4710:2015、 JISA2102-1:2015及び JISA2102-2:2011	建具の断熱性及びドアの熱性能-熱貫流率の計算-第1部:一般及び窓及びドアの熱性能-熱貫流率の計算-第2部:フレームの数値計算方法	JISA4710:2015、 JISA2102-1:2015及び JISA2102-2:2011に準拠。国立研究開発法人 建築研究所ホームページ内「住宅・建築物の省エネルギー基準及び低炭素建築物の認定基準に関する技術情報」に基づく代表試験体サイズによる認証を行う。代表試験体サイズで認証された場合は、全てのサイズにおいて認証を適用する。	
						引き違い	-	-	S-004925	1.22	W/m2K	熱貫流率	標準規格による評価	JISA4710:2015、 JISA2102-1:2015及び JISA2102-2:2011	建具の断熱性及びドアの熱性能-熱貫流率の計算-第1部:一般及び窓及びドアの熱性能-熱貫流率の計算-第2部:フレームの数値計算方法	JISA4710:2015、 JISA2102-1:2015及び JISA2102-2:2011に準拠	JISA4710:2015、 JISA2102-1:2015及び JISA2102-2:2011	建具の断熱性及びドアの熱性能-熱貫流率の計算-第1部:一般及び窓及びドアの熱性能-熱貫流率の計算-第2部:フレームの数値計算方法	JISA4710:2015、 JISA2102-1:2015及び JISA2102-2:2011に準拠。国立研究開発法人 建築研究所ホームページ内「住宅・建築物の省エネルギー基準及び低炭素建築物の認定基準に関する技術情報」に基づく代表試験体サイズによる認証を行う。代表試験体サイズで認証された場合は、全てのサイズにおいて認証を適用する。	
						継すべり出し	-	-	S-004923	1.03	W/m2K	熱貫流率	標準規格による評価	JISA4710:2015、 JISA2102-1:2015及び JISA2102-2:2011	建具の断熱性及びドアの熱性能-熱貫流率の計算-第1部:一般及び窓及びドアの熱性能-熱貫流率の計算-第2部:フレームの数値計算方法	JISA4710:2015、 JISA2102-1:2015及び JISA2102-2:2011に準拠	JISA4710:2015、 JISA2102-1:2015及び JISA2102-2:2011	建具の断熱性及びドアの熱性能-熱貫流率の計算-第1部:一般及び窓及びドアの熱性能-熱貫流率の計算-第2部:フレームの数値計算方法	JISA4710:2015、 JISA2102-1:2015及び JISA2102-2:2011に準拠。国立研究開発法人 建築研究所ホームページ内「住宅・建築物の省エネルギー基準及び低炭素建築物の認定基準に関する技術情報」に基づく代表試験体サイズによる認証を行う。代表試験体サイズで認証された場合は、全てのサイズにおいて認証を適用する。	
L-001124	家庭	空調	窓	五層Low-E複層ガラス・樹脂サッシ	樹脂(塩化ビニル等)等の熱伝導率が低いフレームと、多層の密閉中空層をもったガラスからなる。中空層には断熱ガス(アルゴンガス、クリプトンガス等)を充填することでガラスの熱伝導率の高さを補う構造。現在日本国内では、樹脂フレームを用いた開口部には断熱性能が低いものから順に、1枚のガラスを用いたもの、2枚のガラス(一つの密閉中空層)を用いたもの、3枚のガラス(二つの密閉中空層)を用いたもの、5枚のガラス(四つの密閉中空層)を用いたものが使用されており、2枚のガラスを用いたものが最も多く流通している。今後は省エネ基準義務化等が予定されていることから、さらなるガラスの多層化が予想される。従来品と比較して高い断熱性能を持つことから、特に寒冷地の戸建住宅への採用に相応しい。	FIX	-	-	S-004921	0.55	W/m2K	熱貫流率	標準規格による評価	JISA4710:2015、 JISA2102-1:2015及び JISA2102-2:2011	建具の断熱性及びドアの熱性能-熱貫流率の計算-第1部:一般及び窓及びドアの熱性能-熱貫流率の計算-第2部:フレームの数値計算方法	JISA4710:2015、 JISA2102-1:2015及び JISA2102-2:2011に準拠	JISA4710:2015、 JISA2102-1:2015及び JISA2102-2:2011	建具の断熱性及びドアの熱性能-熱貫流率の計算-第1部:一般及び窓及びドアの熱性能-熱貫流率の計算-第2部:フレームの数値計算方法	JISA4710:2015、 JISA2102-1:2015及び JISA2102-2:2011に準拠。国立研究開発法人 建築研究所ホームページ内「住宅・建築物の省エネルギー基準及び低炭素建築物の認定基準に関する技術情報」に基づく代表試験体サイズによる認証を行う。代表試験体サイズで認証された場合は、全てのサイズにおいて認証を適用する。	
						引き違い	-	-	S-004920	-	W/m2K	熱貫流率	標準規格による評価	JISA4710:2015、 JISA2102-1:2015及び JISA2102-2:2011	建具の断熱性及びドアの熱性能-熱貫流率の計算-第1部:一般及び窓及びドアの熱性能-熱貫流率の計算-第2部:フレームの数値計算方法	JISA4710:2015、 JISA2102-1:2015及び JISA2102-2:2011に準拠	JISA4710:2015、 JISA2102-1:2015及び JISA2102-2:2011	建具の断熱性及びドアの熱性能-熱貫流率の計算-第1部:一般及び窓及びドアの熱性能-熱貫流率の計算-第2部:フレームの数値計算方法	JISA4710:2015、 JISA2102-1:2015及び JISA2102-2:2011に準拠。国立研究開発法人 建築研究所ホームページ内「住宅・建築物の省エネルギー基準及び低炭素建築物の認定基準に関する技術情報」に基づく代表試験体サイズによる認証を行う。代表試験体サイズで認証された場合は、全てのサイズにおいて認証を適用する。	
						継すべり出し	-	-	S-004919	0.55	W/m2K	熱貫流率	標準規格による評価	JISA4710:2015、 JISA2102-1:2015及び JISA2102-2:2011	建具の断熱性及びドアの熱性能-熱貫流率の計算-第1部:一般及び窓及びドアの熱性能-熱貫流率の計算-第2部:フレームの数値計算方法	JISA4710:2015、 JISA2102-1:2015及び JISA2102-2:2011に準拠	JISA4710:2015、 JISA2102-1:2015及び JISA2102-2:2011	建具の断熱性及びドアの熱性能-熱貫流率の計算-第1部:一般及び窓及びドアの熱性能-熱貫流率の計算-第2部:フレームの数値計算方法	JISA4710:2015、 JISA2102-1:2015及び JISA2102-2:2011に準拠。国立研究開発法人 建築研究所ホームページ内「住宅・建築物の省エネルギー基準及び低炭素建築物の認定基準に関する技術情報」に基づく代表試験体サイズによる認証を行う。代表試験体サイズで認証された場合は、全てのサイズにおいて認証を適用する。	

L2-Tech リストNo	区分			設備・機器等の 名称	原理・しくみ	クラス			L2-Tech 水準表 情報No	L2-Tech 水準	指 標								
	部門1	部門2	技術分類			条 件	クラス 能力(名称)	クラス 能力(単位)			測定単位		評価方法の タイプ	計算方法		試験条件			
											単 位	名 称		準拠する規格	規格の名称	計算式	準拠する規格	規格の名称	説 明
L-001127	家庭	空調	玄関ドア	金属製玄関ドア	住宅の玄関に使用する、アルミニウムまたはスチールを主材料としたドアにおいて、枠の内側に樹脂を使用して中空部に断熱材を充填、また扉も同様中空部に断熱材を充填する事で玄関ドアの熱貫流率を低くすることができる。熱貫流率が低い製品ほど冷暖房負荷及びCO2排出量が削減できる。	引き戸	-	-	S-004882	0.89	W/m2K	熱貫流率	標準規格による評価	JIS4710:2015、JISA2102-1:2015、JISA2102-2:2011	建具の断熱性試験方法、窓及びドアの熱性能-熱貫流率の計算-第一部：一般、窓及びドアの熱性能-熱貫流率の計算-第二部：フレームの数値計算方法	標準規格による評価	JISA2102-1:2015及びJISA2102-2:2011	窓及びドアの熱性能-熱貫流率の計算-第一部：一般、窓及びドアの熱性能-熱貫流率の計算-第二部：フレームの数値計算方法	JIS4710:2015、JISA2102-1:2015及びJISA2102-2:2011に準拠。国立研究開発法人 建築研究所ホームページ内「住宅・建築物の省エネルギー基準及び低炭素建築物の認定基準に関する技術情報」に基づき代表試験体サイズによる認証を行う。代表試験体サイズで認証された場合は、全てのサイズにおいて認証を適用する。
L-001128	家庭	断熱	断熱材	断熱材(家庭用押出法ポリスチレンフォーム)	スチレン樹脂・発泡剤・種燃剤等を押出機中で混和・溶融し、大気中に連続的に押し出して発泡させ、成型後、板状製品に裁断加工することで製造する。	-	-	-	S-004881	-	W/m・K	熱伝導率	標準規格による評価	JISA9511:2006RまたはJISA9521:2014	発泡プラスチックまたは建築用断熱材	JISA9511:2006RまたはJISA9521:2014に準拠	発泡プラスチックまたは建築用断熱材	JISA9511:2006RまたはJISA9521:2014に準拠	
L-001129	家庭	断熱	断熱材	断熱材(家庭用グラスウール)	原材料を1400℃程度の高温で溶解、スピナーと呼ばれる繊維化装置に孔を開けることにより遠心力で繊維化し、結束剤を添加し綿状にすることで製造する。	天井用	-	-	S-004880	-	W/m・K	熱伝導率	標準規格による評価	JISA9521:2014	建築用断熱材	JISA9521:2014に準拠	JISA9521:2014	建築用断熱材	JISA9521:2014に準拠
						壁用	-	-	S-004879	-	W/m・K	熱伝導率	標準規格による評価	JISA9521:2014	建築用断熱材	JISA9521:2014に準拠	JISA9521:2014	建築用断熱材	JISA9521:2014に準拠
L-001130	家庭	断熱	断熱材	真空断熱材(家庭用)	家庭用冷蔵庫に使用されている、真空断熱材を使用した断熱材。従来の断熱材と比較して薄いため、天井や壁、床等への部分断熱等のリフォーム(内貼断熱工法)に向く。	-	-	-	S-004877	0.002 *	W/m・K	熱伝導率	標準規格による評価	JISA1412:2016	熱絶縁材の熱抵抗及び熱伝導率の測定方法	JISA1412:2016に準拠	JISA1412:2016	熱絶縁材の熱抵抗及び熱伝導率の測定方法	JISA1412:2016に準拠
L-001131	家庭	動力他	洗濯機	洗濯乾燥機	洗濯乾燥機とは、洗濯機と衣類乾燥機が一体化した機器である。ヒートポンプシステム(ユニット)が熱交換した熱で衣類を乾燥し、乾燥時に発生する水蒸気もヒートポンプシステム(ユニット)により冷却して除湿している。乾燥時の温度は約70℃前後である。	-	-	-	S-004876	0.59	kWh/回	消費電力量	標準規格による評価	-	一般社団法人日本電機工業会・自主基準「洗濯性能評価方法」「乾燥性能評価方法」	-	一般社団法人日本電機工業会・自主基準「洗濯性能評価方法」「乾燥性能評価方法」	一般社団法人日本電機工業会・自主基準「洗濯性能評価方法」「乾燥性能評価方法」	一般社団法人日本電機工業会・自主基準「洗濯性能評価方法」「乾燥性能評価方法」
L-001135	家庭	エネルギーマネジメント	エネルギーマネジメントシステム	HEMS(情報提供サービス・家電全般)	一般家庭等での省エネ効果を高めるエネルギー管理システム、及び同システムを用いたサービスのうち、家庭全体のエネルギー消費状況の把握や省エネ・節電を目的とした情報提供サービス。	-	-	-	S-004874	別紙 *	%	エネルギー消費効率	具備機能による評価	-	-	-	-	-	-
L-001137	家庭	空調	空調機(ヒートポンプ)	ルームエアコン	冷媒による圧縮・凝縮・膨張・蒸発のヒートポンプサイクルを繰り返すことにより、室内を冷房あるいは暖房する空気調和機。	-	冷房能力	2.2kW	S-004872	7.6	通年エネルギー消費効率(APF)	標準規格による評価	JISC9612:2005	ルームエアコンディショナ	JISC9612:2005に準拠	JISC9612:2005	ルームエアコンディショナ	JISC9612:2005に準拠	
								2.5kW	S-004871	7.6									
								2.8kW	S-004869	7.5									
								3.6kW	S-004863	7.6									
								4.0kW	S-004862	7.9									
								4.5kW	S-004861	6.8									
								5.0kW	S-004859	6.2									
								5.6kW	S-004858	7.1									
6.3kW	S-004830	6.9																	
7.1kW	S-004823	6.5																	

L2-Tech リスト№	区分			設備・機器等の 名称	原理・しくみ	クラス		L2-Tech 水準表 情報№	L2-Tech 水準	指 標									
	部門1	部門2	技術分類			条 件	クラス 能力(名称)			クラス 能力(単位)	測定単位		評価方法の タイプ		計算方法		試験条件		
											単 位	名 称	準拠する規格	規格の名称	計算式	準拠する規格	規格の名称	説明	
L-001140	家庭	空調	空調機 (ヒート ポンプ)	ルームエアコン 付温水床暖房	空気熱源ヒートポンプに温水床暖房ユニットとルームエアコンディ ションが付加された機器。暖房時は床暖房とエアコンの組み合わせ 運転を主に、負荷の大きな立ち上がり時にはエアコンで急速暖 房を行い、床暖房の高温送水による効率の低下を抑制。安定時には 床暖房の送水温度を下げるとともに、エアコンも省エネ運転とする などの制御により高効率化を図る。冷房時はエアコンの単独運転と なる。	床暖房、エアコン同時運転	加熱能力	5.0kW	S-004792	4.5	-	成績係数 (COP)	標準条件に よる評価	-	-	COP=Φ/P、COP:成績係数、Φ:定格能力[W]、P:定 格消費電力[W]	-	-	成績係数(COP)の算出にあたっては、戻り水温(入 水温度)、行き水温(出湯温度)、乾球温度、湿球温 度を次のとおり設定することを条件とする。戻り 水温(入水温度):30℃、行き水温(出湯温度): 35℃、乾球温度:7℃、湿球温度:6℃
						床暖房単独運転	加熱能力	8.7kW	S-004789	4.01	-	成績係数 (COP)	標準条件に よる評価	-	-	COP=Φ/P COP:成績係数 Φ:定格能力[W] P:定格消 費電力[W]	-	-	成績係数(COP)の算出にあたっては、戻り水温(入 水温度)、行き水温(出湯温度)、乾球温度、湿球温 度を以下のとおり設定することを条件とする。戻り 水温(入水温度):25℃ 行き水温(出湯温度):40℃ 乾球温度:7℃ 湿球温度:6℃
						床暖房単独運転	加熱能力	8.7kW	S-004789	4.01	-	成績係数 (COP)	標準条件に よる評価	-	-	COP=Φ/P COP:成績係数 Φ:定格能力[W] P:定格消 費電力[W]	-	-	成績係数(COP)の算出にあたっては、戻り水温(入 水温度)、行き水温(出湯温度)、乾球温度、湿球温 度を以下のとおり設定することを条件とする。戻り 水温(入水温度):25℃ 行き水温(出湯温度):40℃ 乾球温度:7℃ 湿球温度:6℃
L-001141	家庭	空調	空調機 (ヒート ポンプ)	マルチタイプ温 水床暖房	複数の部屋に設置された温水床暖房ユニットやルームエアコンディ ション等と空気熱源ヒートポンプを組み合わせる機器。1 台の空気熱源ヒートポンプが複数の部屋の空調機器に接続できるた め、高効率化が可能。	1室運転時加熱能力	加熱能力	5.0kW	S-004788	3.9	-	成績係数 (COP)	標準条件に よる評価	-	-	COP=Φ/P、COP:成績係数、Φ:定格能力[W]、P:定 格消費電力[W]	-	-	成績係数(COP)の算出にあたっては、戻り水温(入 水温度)、行き水温(出湯温度)、乾球温度、湿球温 度を次のとおり設定することを条件とする。戻り 水温(入水温度):30℃、行き水温(出湯温度): 40℃、乾球温度:7℃、湿球温度:6℃
						1室運転時加熱能力	加熱能力	7.0kW	S-004786	3.91	-	成績係数 (COP)	標準条件に よる評価	-	-	COP=Φ/P、COP:成績係数、Φ:定格能力[W]、P:定 格消費電力[W]	-	-	成績係数(COP)の算出にあたっては、戻り水温(入 水温度)、行き水温(出湯温度)、乾球温度、湿球温 度を次のとおり設定することを条件とする。戻り 水温(入水温度):25℃、行き水温(出湯温度): 40℃、乾球温度:7℃、湿球温度:6℃
L-001142	家庭	空調	空調機 (ヒート ポンプ・ 地中熱利 用)	地中熱ルームエ アコン	地中熱を利用し、冷媒による圧縮-凝縮-膨張-蒸発のヒートポンプサイ クルを繰り返すことにより、室内を冷房あるいは暖房する空調機 と機。冬季は外気温度より高い温度の熱源を、夏季は外気温度より 低い温度の熱源を利用することで年間を通じて高効率な運転が可能。	-	冷房能力	4.0kW	S-004783	4	-	成績係数 (COP)	標準条件に よる評価	-	-	JISC9612:2005に準拠	JISC9612:2005に準拠	ルームエ アコンディ ション	JISC9612:2005に準拠。ただし、地中戻り温度(探 熱温度)については20℃とする。
L-001143	家庭	空調	空調機 (ヒート ポンプ・ 地中熱利 用)	地中熱ヒートポ ンプ冷水シス テム(ハイブ リッド式)	空気熱源と地中熱源の2種類の熱源の切り替え可能なヒートポン プ式の冷水冷暖房機。圧縮-凝縮-膨張-蒸発のヒートポンプサイク ルを利用して、冷房するシステム。暖房時はコンプレッサで圧縮 した気相冷媒を凝縮器で冷媒/水熱交換器内で凝縮させることで により蒸発を、冷房時は圧縮-凝縮-膨張後の液相冷媒を蒸発器で液相 冷媒を冷媒/水熱交換器内で蒸発させることにより冷熱を得る。 ヒートポンプ方式を採用しているため、冷熱を高効率に得ること ができる。従来型は灯油を燃焼し暖房するため、一般的なボイラー の効率が80%であるのに対し、ヒートポンプ方式を用いることで高 い効率となる。導入先は主に家庭向けとなる。	加熱能力	加熱能力	8.0kW	S-004782	5.19	-	成績係数 (COP)	標準条件に よる評価	-	-	COP=Φ/P、COP:成績係数、Φ:定格能力[W]、P:定 格消費電力[W]	-	-	成績係数(COP)の算出にあたっては、地中戻り水温 (入水温度)、行き水温(出湯温度)、乾球温度、湿球 温度を次のとおり設定することを条件とする。地 中戻り温度(探熱温度):15℃、行き水温(出湯温 度):40℃、乾球温度:7℃、湿球温度:6℃
						加熱能力	加熱能力	11.0kW	S-004780	5	-	成績係数 (COP)	標準条件に よる評価	-	-	COP=Φ/P、COP:成績係数、Φ:定格能力[W]、P:定 格消費電力[W]	-	-	成績係数(COP)の算出にあたっては、地中戻り水温 (入水温度)、行き水温(出湯温度)、乾球温度、湿球 温度を次のとおり設定することを条件とする。地 中戻り温度(探熱温度):15℃、行き水温(出湯温 度):40℃、乾球温度:7℃、湿球温度:6℃
L-001144	家庭	空調	空調機 (ベレッ トストー プ)	密閉式ベレッ トストーブ(家 庭用)	木質ベレットを燃料とする燃焼機器。木質ベレットを燃焼させた熱 を熱交換器により室内の空気に伝え、送風ファンにより部屋の隅々 まで温風を行き渡らせる。燃焼させた空気は煙突から排気させる ため、室内の空気がとろく、清潔な環境を享受することができる。 木質ベレットは、カーボンニュートラルであるため、CO2の排 出削減が可能。	-	-	-	S-004777	77	%	熱効率	標準条件に よる評価	JHIAN- 5601:2004	木質バイオマ ス燃焼機器の 試験方法適用	η=100-(qa+qb+qr)、η:熱効率[%]、qa:試験 燃料中の発熱量当たり排気ガス中の熱損失(Qa) の比、熱による熱損失の割合(燃焼基準) [%]、 qb:試験燃料の熱容量当たり排気ガス中の化学的 熱損失(Qb)の潜熱による熱損失の割合(燃焼 基準) [%]、qr:試験燃料の熱容量当たり底部格 子を通じ残渣物中に残った可燃性構成物質による 熱損失(Qr)の残渣物中の可燃性構成物質による 損失の割合(燃焼基準) [%] ※発熱量は高位発熱 量とする	JHIAN- 5601:2004	木質バイオマ ス燃焼機器の 試験方法適用	JHIAN-5601:2004に準拠、試験実施にあたって は、ISO17025に準拠した試験機関による性能評価 を行うこととする。
L-001145	家庭	給湯	給湯器 (ヒート ポンプ・ 太陽熱利 用)	太陽熱集熱器対 応エコキュート	自然冷媒(CO2)を用い、電動ヒートポンプサイクルにより65℃以 上の高温沸き上げが可能な高効率の給湯システムに太陽熱集熱器を 組み合わせたシステム。ヒートポンプユニットと給湯(貯湯)ユニ ット、集熱器で構成されている。日中は、太陽熱を利用するた め、高効率化が可能。	一般地仕様、標準世帯、保 温あり、1缶	貯湯容量	320L以上550L未満	S-004775	3	-	年間給湯保温 効率(太陽熱 部分除く)	標準規格に よる評価	JRA4050:20 07R	家庭用ヒート ポンプ給湯機	JRA4050:2007Rに準拠	JRA4050:20 07R	家庭用ヒート ポンプ給湯機	JRA4050:2007Rに準拠
						一般地仕様、標準世帯、保 温あり、1缶	貯湯容量	320L以上550L未満	S-004775	3	-	年間給湯保温 効率(太陽熱 部分除く)	標準規格に よる評価	JISC9220:20 11	家庭用ヒート ポンプ給湯機	JISC9220:2011に準拠	JISC9220:20 11	家庭用ヒート ポンプ給湯機	JISC9220:2011に準拠
L-001145	家庭	給湯	給湯器 (ヒート ポンプ・ 太陽熱利 用)	ハイブリッド給 湯機(家庭用)	ヒートポンプ給湯機とガス給湯器に貯湯タンクを組み合わせた家庭 用給湯システム。ヒートポンプ給湯機が記録・学習した湯の使用状 況に基づいて、ヒートポンプ給湯機を最も高効率となる沸き上げ温 度で稼働させ、湯の使用状況に応じてガス給湯器がバックアップす る。これによって過剰貯湯や放熱ロスを低減し、CO2排出削減を 実現できる。風呂給湯兼用機、給湯暖房兼用機等がある。	一般地仕様、標準世帯、保 温あり、多缶	貯湯容量	320L以上550L未満	S-004772	3	-	年間給湯保温 効率(太陽熱 部分除く)	標準規格に よる評価	JISC9220:20 11	家庭用ヒート ポンプ給湯機	JISC9220:2011に準拠	JISC9220:20 11	家庭用ヒート ポンプ給湯機	JISC9220:2011に準拠
						一般地仕様、標準世帯、保 温あり、多缶	貯湯容量	320L以上550L未満	S-004772	3	-	年間給湯保温 効率(太陽熱 部分除く)	標準規格に よる評価	JGKAS A705-2016	電気ヒートポ ンプ・ガス瞬 間式併用型給 湯機(ハイブ リッド給湯 機)の年間給 湯効率測定方 法	JGKAS A705-2016に準拠	JGKAS A705-2016	電気ヒートポ ンプ・ガス瞬 間式併用型給 湯機(ハイブ リッド給湯 機)の年間給 湯効率測定方 法	JGKAS A705-2016に準拠
L-001146	家庭	給湯	給湯器 (ヒート ポンプ・ ガス式)	ハイブリッド給 湯機(家庭用)	ヒートポンプ給湯機とガス給湯器に貯湯タンクを組み合わせた家庭 用給湯システム。ヒートポンプ給湯機が記録・学習した湯の使用状 況に基づいて、ヒートポンプ給湯機を最も高効率となる沸き上げ温 度で稼働させ、湯の使用状況に応じてガス給湯器がバックアップす る。これによって過剰貯湯や放熱ロスを低減し、CO2排出削減を 実現できる。風呂給湯兼用機、給湯暖房兼用機等がある。	給湯専用機(給湯:ヒート ポンプ、ガス)	-	-	S-004768	-	-	年間給湯効率	標準規格に よる評価	JGKAS A705-2016	電気ヒートポ ンプ・ガス瞬 間式併用型給 湯機(ハイブ リッド給湯 機)の年間給 湯効率測定方 法	JGKAS A705-2016	電気ヒートポ ンプ・ガス瞬 間式併用型給 湯機(ハイブ リッド給湯 機)の年間給 湯効率測定方 法	JGKAS A705-2016に準拠	

L2-Tech リスト№	区分			設備・機器等の 名称	原理・しくみ	クラス			L2-Tech 水準表 情報№	L2-Tech 水準	指 標												
	部門1	部門2	技術分類			条 件	クラス 能力(名称)	クラス 能力(単位)			測定単位		評価方法の タイプ	計算方法				試験条件					
											単 位	名 称		準拠する規格	規格の名称	計算式	準拠する規格	規格の名称	説 明				
							液晶 29V 型	S-004750	-														
							液晶 32V 型	S-004748	-														
							液晶 39V、40V 型	S-004747	-														
							液晶 42V 型	S-004745	-														
							液晶 46V 型	S-004744	-														
							液晶 47V 型	S-004935	-														
							液晶 50V、52V 型	S-004936	-														
							液晶 55V 型	S-004937	-														
							液晶 58V 型以上	S-004938	-														
L-001153	家庭	動力他	電気便座	電気便座	電気便座は内蔵された電気ヒータにより座面を加温する機能等を持つ便座であり、主に暖房用の便座のみを有する暖房便座と暖房便座に温水洗浄装置を組み込んだ温水洗浄便座がある。さらに、温水洗浄便座の洗浄に使う温水については貯湯タンクをもつ貯湯式と貯湯タンクのない瞬間式※がある。※使用時に瞬間的に温水をつくる方式。貯湯式のようにお湯を保温しないので消費電力量を削減できる。また、便座の暖房機能(保温)については学習機能やタイマーによる低炭素技術が導入されており、さらにセンサーが人の動きを感知し、瞬間的に便座を温める、瞬間暖房便座機能が付随しているものもある。	-	-	-	S-004743	-	kWh/年	年間消費電力量	標準規格による評価	-	省エネルギー法	省エネルギー法で定める計算式	-	省エネルギー法	省エネルギー法で定める試験条件				
L-001154	エネルギー転換	事業用発電(再エネ)	燃料電池	固体酸化物形燃料電池(SOFC)設備	電解質を挟んだ二つの電極に酸素と水素を供給して電気と熱を発生させる。燃料種、空気種という2枚の電極が、電解質を挟んでいるものをセルといい、セル単体を積み重ねたものをセルスタックという。セルを直列に接続することで、高い電圧と大きな電力が得られる。	-	出力	200kW以下	S-004671	66.7 *	%	発電効率	標準条件による評価	JISC8841-3:2011及びJISC8842:2013	小形固体酸化物形燃料電池システム-第3部:性能試験方法及び環境試験方法及び固体酸化物形燃料電池セル及びスタックの発電性能試験方法	$ne=(Wout-Win)/Qf \times 100$ 、 ne :発電効率[%]、 $Wout$:送電電力量[kWh]、 Win :受電電力量[kWh]、 Qf :積算燃料消費熱量(低位発熱量)[kWh]	JISC8841-3:2011及びJISC8842:2013	小形固体酸化物形燃料電池システム-第3部:性能試験方法及び環境試験方法及び固体酸化物形燃料電池セル及びスタックの発電性能試験方法	JISC8841-3:2011及びJISC8842:2013に準拠				
							200kW超250kW以下	S-004670		65.4 *													
L-001160	エネルギー転換	事業用発電(再エネ)	太陽光発電	太陽電池(シリコン系・単結晶)	太陽電池は、光の持つエネルギーを、直接的に電力に変換する装置である。太陽電池内部に入射した光のエネルギーは、電子によって直接的に吸収され、PN接合の界面にあらかじめ設けられた電界に導かれ、電力として太陽電池の外部へ出力される。単結晶系は、高純度の単結晶のシリコン基板を使用した太陽電池。実用化されている太陽電池の中で最も変換効率が高く、耐久性・信頼性にも優れている。	-	-	-	S-004669	22.63 *	%	セル実効変換効率	標準規格による評価	JISC8960:2012	太陽光発電用語	JISC8960:2012に準拠	JISC8914:2005	結晶系太陽電池モジュール出力測定方法	JISC8914:2005に準拠				
							-	S-004668		21.2	%	モジュール変換効率	標準規格による評価	JISC8914:2005	結晶系太陽電池モジュール出力測定方法	JISC8914:2005に準拠	JISC8914:2005	結晶系太陽電池モジュール出力測定方法	JISC8914:2005に準拠				
L-001161	エネルギー転換	事業用発電(再エネ)	太陽光発電	太陽電池(シリコン系・多結晶)	太陽電池は、光の持つエネルギーを、直接的に電力に変換する装置である。太陽電池内部に入射した光のエネルギーは、電子によって直接的に吸収され、PN接合の界面にあらかじめ設けられた電界に導かれ、電力として太陽電池の外部へ出力される。結晶の粒径が数mm程度の多結晶シリコンを利用した太陽電池。変換効率の面では単結晶と比較して低いが、単結晶より製造工程が簡便であるため、効率とコストのバランスが良く、普及が進んでいる。	-	-	-	S-004665	16.4	%	モジュール変換効率	標準規格による評価	JISC8914:2005	結晶系太陽電池モジュール出力測定方法	JISC8914:2005に準拠	JISC8914:2005	結晶系太陽電池モジュール出力測定方法	JISC8914:2005に準拠				

L2-Tech リストNo	区分			設備・機器等の 名称	原理・しくみ	クラス			L2-Tech 水準 情報No	L2-Tech 水準	指 標									
	部門1	部門2	技術分類			条 件	クラス 能力(名称)	クラス 能力(単位)			S-004664	15.1	測定単位		評価方法の タイプ		計算方法		試験条件	
													単 位	名 称	標準規格に よる評価	規格の名称	標準規格に よる評価	規格の名称	標準規格に よる評価	規格の名称
L-001162	エネルギー転換	事業用発電(再エネ)	太陽光発電	太陽電池(化合物系)	太陽電池は、光の持つエネルギーを、直接的に電力に変換する装置である。太陽電池内部に入射した光のエネルギーは、電子によって直接的に吸収され、PN接合の界面にあらかじめ設けられた電界に導かれ、電力として太陽電池の外部へ出力される。本項目では、主成分に銅(Cu)、インジウム(In)、ガリウム(Ga)、セレン(Se)を用いた化合物であるCIGS系について記載する。薄膜で省材料などの長所をもち、わずかに2~3μmの厚さであっても光を十分吸収するため、薄膜太陽電池としては高い変換効率が見られる。	-	-	-	S-004664	15.1	%	モジュール変換効率	標準規格による評価	JISC8960:2012	太陽光発電用	JISC8960:2012に準拠	JISC8939:2013	薄膜太陽電池モジュール	JISC8939:2013に準拠	説明
L-001163	エネルギー転換	事業用発電(再エネ)	太陽光発電	太陽電池(薄膜シリコン)	太陽電池は、光の持つエネルギーを、直接的に電力に変換する装置である。太陽電池内部に入射した光のエネルギーは、電子によって直接的に吸収され、PN接合の界面にあらかじめ設けられた電界に導かれ、電力として太陽電池の外部へ出力される。薄膜系は、ガラス、金属箔、フィルムなどの上に2~3ミクロンの太陽電池の層を形成させるものである。	-	-	-	S-004662	9.6	%	モジュール変換効率	標準規格による評価	JISC8960:2012	太陽光発電用	JISC8960:2012に準拠	JISC8935:2005	アモルファス太陽電池モジュール出力測定方法	JISC8935:2005に準拠	説明
L-001164	エネルギー転換	事業用発電(再エネ)	太陽光発電	トランスレス方式パワーコンディショナ(太陽光発電用)	太陽光発電用パワーコンディショナは、直流電力を調整するコンバータ、直流電力を交流電力に変換するインバータ、事故時等に系統を保護する系統連系保護装置で構成される。トランスレス方式は、パワーコンディショナ内の直流通電回路をコンバータのみで行う方式であり、高周波変圧器絶縁方式と比較し、高効率となるものの電力会社系統との連系には、別途変圧器が必要となる。	-	出力	10kW未満 10kW以上	S-004660 S-004658	98 98.4	%	定格負荷効率	標準規格による評価	JISC8961:2008	太陽光発電用パワーコンディショナの効率測定方法	JISC8961:2008に準拠	JISC8961:2008に準拠	太陽光発電用パワーコンディショナの効率測定方法	JISC8961:2008に準拠	説明
L-001165	エネルギー転換	事業用発電(再エネ)	太陽光発電	高周波変圧器絶縁方式パワーコンディショナ(太陽光発電用)	太陽光発電用パワーコンディショナは、直流電力を交流電力に変換するインバータ、事故時等に系統を保護する系統連系保護装置で構成される。直流通電回路をコンバータのみで行う方式であり、高周波変圧器絶縁方式は、パワーコンディショナ内の直流通電回路をコンバータと変圧器の組み合わせで行う方式であり、トランスレス方式と比較し、電力変換効率は低下するが、パワーコンディショナから出力された電力はそのまま電力会社系統と連系可能となる。	-	-	-	S-004657	96.5	%	定格負荷効率	標準規格による評価	JISC8961:2008	太陽光発電用パワーコンディショナの効率測定方法	JISC8961:2008に準拠	JISC8961:2008に準拠	太陽光発電用パワーコンディショナの効率測定方法	JISC8961:2008に準拠	説明
L-001172	エネルギー転換	事業用発電(再エネ)	水力発電	プロペラ水車(小水力発電用)	水を取り込むケーシングから案内羽根を経て下向きに水流に変化させ、羽根車の軸方向に流れてこれを回転させる。落差と流量変化によって羽根の角度を自動的に調節できる可動羽根のものはカプラン水車として区別され、プロペラ水車は常に一定の角度の固定羽根のものを指す。	-	出力	200kW未満	S-004653	80 *	%	水車効率	標準規格による評価	JEC4002:1992	水車およびポンプ水車の効率試験方法	$\eta = (1,000 \times P) \div (g \times \rho \times Q \times H)$ 、 η : 水車効率[%]、 P : 水車出力[kW]、 g : 重力加速度[m/s ²]、 ρ : 水の密度[kg/m ³]、 Q : 流量[m ³ /s]、 H : 有効落差[m]	JEC4002:1992に準拠	水車およびポンプ水車の効率試験方法	JEC4002:1992に準拠	説明
L-001173	エネルギー転換	事業用発電(再エネ)	水力発電	フランスス水車(小水力発電用)	水を取り込むケーシングの中に羽根車(ランナー)を設置し、そこを流れる水の圧力により回転させる水車である。最も一般的な水車で、数10m~数100mの落差に広く使われている。	-	出力	200kW未満	S-004652	85 *	%	水車効率	標準規格による評価	JEC4002:1992	水車およびポンプ水車の効率試験方法	$\eta = (1,000 \times P) \div (g \times \rho \times Q \times H)$ 、 η : 水車効率[%]、 P : 水車出力[kW]、 g : 重力加速度[m/s ²]、 ρ : 水の密度[kg/m ³]、 Q : 流量[m ³ /s]、 H : 有効落差[m]	JEC4002:1992に準拠	水車およびポンプ水車の効率試験方法	JEC4002:1992に準拠	説明
L-001177	エネルギー転換	事業用発電(再エネ)	地熱発電	温水熱源小型バイナリー発電設備	バイナリー発電は、水よりも沸点の低い二次媒体を使うため、より低温の地熱流体での発電に適しており、地熱流体で温められた二次媒体の蒸気でタービンを回して発電する。生産井から地熱流体を取り出し、地熱流体で二次媒体を温め、蒸気化し、二次媒体の蒸気でタービンを回転させ発電する。二次媒体を温めた後の地熱流体は、還元井から地下に戻し、発電し終わった二次媒体は、凝縮器で液体に戻し、循環ポンプで再度、蒸発器に送る。熱源として温水を利用する。	100℃未満、200V/220V	出力	3.0kW未満 3.0kW以上6.5kW未満 6.5kW以上45kW未満 45kW以上100kW未満 100kW以上200kW未満 200kW以上300kW未満	S-004739 S-004738 S-004650 S-004648 S-004646 S-004736	- - 6.2 * 6.2 * 6.8 * -	%	送電端発電効率	標準条件による評価	環境省により独自に設定された方法	$\eta = P/Q \times 100$ 、 η : 送電端発電効率[%]、 P : 送電端出力[kW]、 Q : 入熱量(低位発熱量)[kW]送電端出力(発電端出力) - (作動媒体ポンプ、インバータ、(絶縁トランス)、ほかユニット内消費電力)	環境省により独自に設定された方法	送電端発電効率の算出にあたっては、温水入口温度、冷却水入口温度を次のとおり設定することを条件とする。温水入口温度: 95℃以下、冷却水入口温度: 20℃以上	送電端発電効率の算出にあたっては、温水入口温度、冷却水入口温度を次のとおり設定することを条件とする。温水入口温度: 95℃以下、冷却水入口温度: 20℃以上	説明	
						100℃未満、400V/440V	出力	3.0kW未満	S-004735	-	%	送電端発電効率	標準条件による評価	環境省により独自に設定された方法	$\eta = P/Q \times 100$ 、 η : 送電端発電効率[%]、 P : 送電端出力[kW]、 Q : 入熱量(低位発熱量)[kW]送電端出力(発電端出力) - (作動媒体ポンプ、インバータ、(絶縁トランス)、ほかユニット内消費電力)	環境省により独自に設定された方法	送電端発電効率の算出にあたっては、温水入口温度、冷却水入口温度を次のとおり設定することを条件とする。温水入口温度: 95℃以下、冷却水入口温度: 20℃以上	送電端発電効率の算出にあたっては、温水入口温度、冷却水入口温度を次のとおり設定することを条件とする。温水入口温度: 95℃以下、冷却水入口温度: 20℃以上	説明	

L2-Tech リストNo	区分			設備・機器等の 名称	原理・しくみ	クラス			L2-Tech 水準表 情報No	L2-Tech 水準	指 標									
	部門1	部門2	技術分類			条 件	クラス 能力(名称)	クラス 能力(単位)			測定単位		評価方法の タイプ	計算方法			試験条件			
											単 位	名 称		標準する規格 の名称	規格の名称	計算式	標準する規格 の名称	規格の名称	説 明	
L-001206	廃棄物・ リサイクル	リサイクル	リン回収 設備	リン回収設備 MAP法（下水汚 泥用）	脱水ろ液からリン回収する従来事例に対し、よりリン含有量の高い 下水汚泥からMAP（リン酸マグネシウムアンモニウム）として回収 する「MAP法」が平成24/25年度国土省B-DASH採択事業で開発さ れた。回収したリンは配合肥料（化成肥料）として再利用可能。	-	-	-	S-004578	90	%	PO4-P除去率	標準条件に よる評価	国土交通省ガ イドライン	資料No.805 B-DASHプロ ジェクト NO.6 2014年 8月消化汚泥 からのリン除 去・回収技術 導入ガイドラ イン（案）	(消化汚泥PO4-P濃度-リン処理PO4-P濃度) /消化 汚泥PO4-P濃度	国土交通省国 土技術政策総 合研究所	資料No.805 B-DASHプロ ジェクト NO.6 2014年 8月消化汚泥 からのリン除 去・回収技術 導入ガイドラ イン（案）	消化汚泥濃度（TS）：1.7%、消化汚泥T-P濃度： 600mg/L、消化汚泥PO4-P濃度：200mg/L	
L-001208	廃棄物・ リサイクル	リサイクル	選別機	近赤外線樹脂選 別機	プラスチックに近赤外線を照射すると材質により吸収される波長が 異なることを利用し、特定の材質の選別を行う。コンベア先端のエ アノズルで吹き落とし選別する。PVC,PVDC除去（サーマルリサイ クル）やPP,PS,ABS選別（マテリアルリサイクル）に使用される。	-	-	-	S-004575	3	種類	選別樹脂種類 数	標準条件に よる評価	環境省交付規 定	H27年度二酸 化炭素排出抑 制対策事業費 等補助金（省 CO2型リサ イクル高度化 設備導入促進 事業）交付規 定	選別樹脂種類数に残渣は含まない	環境省により 独自に設定	-	選別純度：99%、（ベルトコンベア幅100mmあた りの樹脂の投入量が50kg以内の場合）	

別紙

No.	設備・機器等	クラス		L2-Tech水準	備考
		条件	能力		
S-005220	BEMS (制御サービス・空調・熱源・中央方式)	空気熱源仕様	-	<p>下記の①～⑤の条件を満たすBEMSサービスであること。</p> <p>①冷水負荷熱量、冷水出口温度、外気温度、熱源機エネルギー消費量、冷水ポンプエネルギー消費量を計測できる機能を保有</p> <p>②上記①の計測粒度が1分単位以内であること</p> <p>③冷水負荷熱量、冷水出口温度、外気温度、を説明変数として、合計のエネルギー消費量(熱源機エネルギー消費量、冷水ポンプエネルギー消費量の合計)が最小となるような冷水出口温度を(過去の実績データに基づいて)自動で算出できる機能を保有</p> <p>④上記の算出結果に基づいて冷水出口温度を自動制御できる機能を保有</p> <p>⑤導入可能な施設が、限定されない</p>	<p>複数の設備・機器等及び事業者にまたがりサービスが提供されるケースが存在するため、「BEMSサービス」を認証単位とした。その上で、審査・認証の実現可能性の観点から「具備機能による評価」を行うこととした。</p> <p>事例調査の結果、BEMSサービスには、情報提供サービス及び制御サービスが存在するが、中でも提供件数の最も多い中央方式の空調機を対象とした制御サービスを認証対象として設定した。文献調査及び企業・有識者へのヒアリングに基づき、サービスにおいて求められる機能要件は、下記の通りとし、本リストでは下記の「要件0」及び「要件1」に基づいて水準を設定している。</p> <p>要件0(必須)：導入可能な施設が限定されない</p> <p>要件1：セントラル空調システム全体のエネルギー消費量が最小となる負荷熱量を自動で算出し、それに基づいて自動的にシステムを制御可能</p>
S-005219	BEMS (制御サービス・空調・熱源・中央方式)	水熱源仕様	-	<p>下記の①～⑤の条件を満たすBEMSサービスであること。</p> <p>①冷水負荷熱量、冷水出口温度、冷却水入口温度、外気温度、熱源機エネルギー消費量、熱源補機エネルギー消費量、冷水ポンプエネルギー消費量、冷却水ポンプエネルギー消費量を計測できる機能を保有</p> <p>②上記①の計測粒度が1分単位以内であること</p> <p>③冷水負荷熱量、冷水出口温度、冷却水入口温度、外気温度を説明変数として、合計のエネルギー消費量(熱源機エネルギー消費量、熱源補機エネルギー消費量、冷水ポンプエネルギー消費量、冷却水ポンプエネルギー消費量の合計)が最小となるような冷水出口温度を(過去の実績データに基づいて)自動で算出できる機能を保有</p> <p>④上記③の算出結果に基づいて冷水出口温度を自動制御できる機能を保有</p> <p>⑤導入可能な施設が、限定されない</p>	<p>複数の設備・機器等及び事業者にまたがりサービスが提供されるケースが存在するため、「BEMSサービス」を認証単位とした。その上で、審査・認証の実現可能性の観点から「具備機能による評価」を行うこととした。</p> <p>事例調査の結果、BEMSサービスには、情報提供サービス及び制御サービスが存在するが、中でも提供件数の最も多い中央方式の空調機を対象とした制御サービスを認証対象として設定した。文献調査及び企業・有識者へのヒアリングに基づき、サービスにおいて求められる機能要件は、下記の通りとし、本リストでは下記の「要件0」及び「要件1」に基づいて水準を設定している。</p> <p>要件0(必須)：導入可能な施設が限定されない</p> <p>要件1：セントラル空調システム全体のエネルギー消費量が最小となる負荷熱量を自動で算出し、それに基づいて自動的にシステムを制御可能</p>
S-004874	HEMS (情報提供サービス・家電全般)	-	-	<p>下記の①～⑤の条件を満たすHEMSサービスであること。</p> <p>①対象住宅全体の電力消費量を、30分単位以内で計測できる機能を保有</p> <p>②上記①において計測したエネルギー消費量と、他住宅で計測したエネルギー消費量を比較し、対象住宅全体のエネルギー消費量のランキング情報を表示できる機能を保有</p> <p>③上記②のランキング情報を、対象住宅におけるユーザー属性別※に表示できる機能を保有 ※地域別、間取別、家族構成別の3種いずれも</p> <p>④導入可能な住宅が、単一の住宅メーカーが供給する住宅に限定されない</p> <p>⑤導入の際にインターネット接続サービスへの加入が必要な場合、集合住宅向け全戸一括契約型へのサービス加入を前提としない</p>	<p>複数の設備・機器等及び事業者にまたがりサービスが提供されるケースが存在するため、「HEMSサービス」を認証単位とした。その上で、審査・認証の実現可能性の観点から「具備機能による評価」を行うこととした。</p> <p>事例調査の結果、HEMSサービスには、情報提供サービス及び制御サービスが存在するが、中でも提供件数の最も多い家電全般を対象とした情報提供サービスを認証対象として設定した。文献調査及び企業・有識者へのヒアリングに基づき、サービスにおいて求められる機能要件は、下記のいずれかとし、本リストでは「要件0」および「要件3」を対象とし水準を設定している。</p> <p>要件0(必須)：導入可能な住宅が限定的でない</p> <p>要件1：現状のエネルギー消費量に応じて省エネアドバイス、および目標の省エネ量が提供可能</p> <p>要件2：現状の光熱水道費に応じて節約アドバイス、および目標の節約額を提供可能</p> <p>要件3：エネルギー消費量が類似している世帯との比較情報の提供が可能</p> <p>要件4：過去のサービス利用履歴の情報に基づいて、より興味・関心の強い情報の提供が可能</p> <p>要件5：現状のエネルギー消費量が自身の平均的な消費量と比較して多くなったタイミングで、消費量が多いことを閲覧頻度が多い媒体へPush配信可能</p>
S-005188	内部熱交換最適化蒸留システム	蒸留塔が高圧部(濃縮部)と低圧部(回収部)とで物理的に分離しており一体型でないもの	-	<p>下記の①および②の条件を満たす蒸留システムであること。</p> <p>①高圧部と低圧部とで熱交換できる機能を保有</p> <p>②蒸留塔内部の熱分布を調整し熱交換率を最適化できる機能を保有</p>	<p>本設備・機器等は、個別受注設計生産されるため標準条件(試験条件、計算方法)を設定し、定量評価する方法はそぐわないと判断し、審査・認証の実現可能性の観点から「具備機能による評価」を行うこととした。</p> <p>文献調査及び企業・有識者へのヒアリングに基づき、本設備・機器等として求められる機能要件をL2-Tech水準とした。</p>